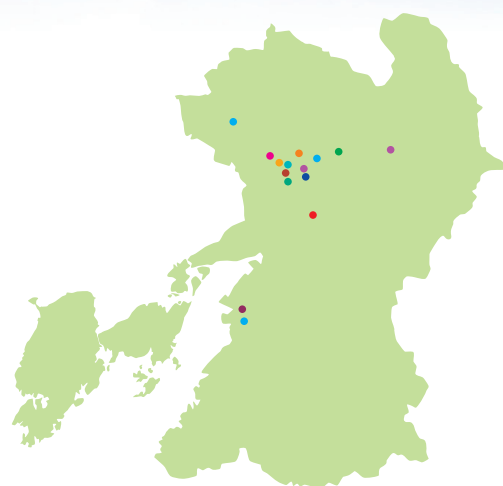


CONSORTIUM KUMAMOTO

熊本県高等教育機関 ～地域連携～ 研究者一覧

平成23年3月



高等教育コンソーシアム熊本

高等教育コンソーシアム熊本会長

谷口 功（熊本大学長）



高等教育コンソーシアム熊本は、熊本県下の14の大学・高専等と熊本県・熊本市、さらに7つの経済団体が協力して、高等教育機関の教育・研究の充実を図るとともに、地域の自治体や産業界等と連携しながら、地域社会の教育・文化等の向上・発展に貢献し、併せて熊本の教育環境の向上に寄与することを目的として、平成18年1月に設立されました。

組織運営体制としては、加盟校の学長等及び熊本県・熊本市の代表者で構成される理事会の下に、企画・運営委員会の調整・統括のもと、教育・研究、学生交流、国際交流、地域連携及び教員免許状更新講習に関する5つの事業推進部会を設けて、様々な取組を行っております。とりわけ、高等教育機関と地域社会との交流及び連携に関する事業を通して「地域社会」に貢献することは、本コンソーシアムの大きな使命です。

このたび、本コンソーシアムの加盟校に所属する研究者の専門分野、研究テーマ並びに協力可能な共同研究、技術提供、講演題目等を、大学等の枠を越えて地域の皆様に紹介することにより、熊本県下の高等教育機関の知的・人的資源をこれまで以上に地域社会で活用しやすくし、地域連携・社会貢献の一層の推進に役立てることを目的として、『～地域連携～研究者一覧』を発行いたしました。内容は、各研究者の専門分野や関心を分かりやすく自己申告していただいたものですので、通常の研究者一覧よりも利用しやすくなっております。

本コンソーシアムにとりまして新たな試みであり、今後もさらに内容の充実を図ってまいります。本書が地域の自治体、産業界、教育・福祉・医療機関、諸団体と高等教育機関の連携を強化するための一助となれば幸いです。

最後に、今後とも高等教育コンソーシアム熊本に一層のご理解とご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年3月

目次

総合領域

秋吉澄子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	5
阿部正喜	東海大学 九州キャンパス	6
有次正義	熊本大学	7
飯村伊智郎	熊本県立大学	8
市川勉	東海大学 九州キャンパス	9
上田厚	放送大学熊本学習センター	10
江口智弘	熊本県立技術短期大学校	11
小笠原健一	熊本県立技術短期大学校	12
香山芳子	熊本保健科学大学	13
川上育代	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	14
川口恵子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	15
河村洋子	熊本大学	16
北野直子	熊本県立大学	17
木村宏和	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	18
小林茂樹	東海大学 九州キャンパス	19
税所幹幸	熊本県立大学	20
坂田敦子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	21
坂本美代子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	22
篠塚致子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	23
白土英樹	熊本県立大学	24
鈴木康夫	東海大学 九州キャンパス	25
高田政夫	熊本保健科学大学	26
高橋文徳	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	27
竹熊千晶	熊本保健科学大学	28
徳富芳子	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	29
中井さち子	九州看護福祉大学	30
長嶺寿宣	熊本県立大学	31
八田茂樹	熊本高等専門学校	32
馬場良二	熊本県立大学	33
濱田輝一	九州看護福祉大学	34
方軍	崇城大学	35
福永隆文	熊本県立技術短期大学校	36
松野了二	熊本県立大学	37

三浦章	熊本県立大学	38
山本芳一	熊本高等専門学校	39

複合新領域

石原修	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	40
岡野大祐	東海大学 九州キャンパス	41
椛田聖孝	東海大学 九州キャンパス	42
久保田弘	熊本大学	43
古賀実	熊本県立大学	44
重石光弘	熊本大学	45
篠原亮太	熊本県立大学	46
田中昭雄	熊本大学	47
田中尚人	熊本大学	48
千々岩崇仁	崇城大学	49
堤裕昭	熊本県立大学	50
富永昌人	熊本大学	51
中嶋卓雄	東海大学 九州キャンパス	52
松崎弘美	熊本県立大学	53
吉永圭介	熊本高等専門学校	54

人文学

出田敬三	平成音楽大学	55
今西利之	熊本大学	56
上田愛彦	平成音楽大学	57
大石陽子	平成音楽大学	58
桑原理恵	平成音楽大学	59
三枝泰之	崇城大学	60
神野雄二	熊本大学	61
砂川典子	九州ルーテル学院大学	62
常森寿子	平成音楽大学	63
中川明夫	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	64
西川盛雄	放送大学熊本学習センター	65
半藤英明	熊本県立大学	66

廣江 顯	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	67
堀畑 正臣	熊本大学	68
水尾 文子	熊本県立大学	69
村里 好俊	熊本県立大学	70
山崎 健司	熊本県立大学	71
山田 俊	熊本県立大学	72
吉井 誠	熊本県立大学	73
脇山 純	平成音楽大学	74

社会科学

明石 照久	熊本県立大学	75
岩山 恵美子	平成音楽大学	76
上野 眞也	熊本大学	77
岡村 薫	熊本学園大学	78
河野 順子	熊本大学	79
境 章	熊本学園大学	80
澤田 道夫	熊本県立大学	81
篠原 弘章	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	82
城 重幸	平成音楽大学	83
田中 孝明	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	84
田中 均	熊本大学	85
徳野 貞雄	熊本大学	86
中内 哲	熊本大学	87
永尾 孝雄	熊本県立大学	88
西崎 信男	東海大学 九州キャンパス	89
増淵 千保美	尚綱大学 / 尚綱大学短期大学部	90
松尾 隆	熊本県立大学	91
棟方 信彦	熊本県立大学	92
望月 信幸	熊本県立大学	93
山口 裕子	熊本保健科学大学	94
吉田 勇	放送大学熊本学習センター	95
吉光 清	九州看護福祉大学	96
吉村 純一	熊本学園大学	97
黄 在 南	熊本県立大学	98

数物系科学

赤井 一郎	熊本大学	99
岩尾 航希	熊本高等専門学校	100
大島 洋一	放送大学熊本学習センター	101
城本 啓介	熊本大学	102
中村 能久	熊本大学	103

化学

木幡 進	熊本高等専門学校	104
田崎 和博	熊本県立技術短期大学校	105

工学

赤松 隆	崇城大学	106
荒牧 憲隆	崇城大学	107
伊藤 是清	東海大学 九州キャンパス	108
伊藤 重剛	熊本大学	109
井上 高宏	熊本大学	110
伊山 義忠	熊本高等専門学校	111
岩井 善太	熊本県立技術短期大学校	112
上野 賢仁	崇城大学	113
上村 武	熊本県立技術短期大学校	114
王 斗艶	熊本大学	115
(オウ トエン)		
大坪 武廣	熊本県立技術短期大学校	116
小川 厚治	熊本大学	117
小田 明範	熊本高等専門学校	118
釜田 浩	熊本県立技術短期大学校	119
川 寄 義 則	熊本県立技術短期大学校	120
河邊 真二郎	熊本県立技術短期大学校	121
北園 芳人	熊本大学	122
北原 昭男	熊本県立大学	123
木場 信一郎	熊本高等専門学校	124

齊藤郁雄	熊本高等専門学校	125
崎元達郎	放送大学熊本学習センター	126
佐々木満	熊本大学	127
佐田富道雄	熊本大学	128
下塩義文	熊本高等専門学校	129
新貝和史	熊本県立技術短期大学校	130
滝川清	熊本大学	131
田中誠一郎	熊本県立技術短期大学校	132
鳥居修一	熊本大学	133
中野貴之	熊本県立技術短期大学校	134
浪平隆男	熊本大学	135
葉山清輝	熊本高等専門学校	136
日野満司	熊本県立技術短期大学校	137
廣江哲幸	熊本大学	138
円山琢也	熊本大学	139
溝上章志	熊本大学	140
宮内肇	熊本大学	141
宮崎幸治	熊本県立技術短期大学校	142
森山聡之	崇城大学	143
矢野隆	熊本大学	144
山尾敏孝	熊本大学	145

生物学

澤進一郎	熊本大学	146
寺本祐司	崇城大学	147

農学

井越敬司	東海大学 九州キャンパス	148
岡拓二	崇城大学	149
田口久貴	崇城大学	150
野村善幸	崇城大学	151
福田耕才	崇城大学	152
松浦朝奈	東海大学 九州キャンパス	153

松添直隆	熊本県立大学	154
松田靖	東海大学 九州キャンパス	155
蓑茂壽太郎	熊本県立大学	156
森友靖生	東海大学 九州キャンパス	157
安田伸	東海大学 九州キャンパス	158

医歯薬学

有馬英俊	熊本大学	159
安東由喜雄	熊本大学	160
井手淳二	熊本大学	161
岩井眞弓	熊本保健科学大学	162
岩槻政晃	熊本大学	163
宇佐美しおり	熊本大学	164
大塚雅巳	熊本大学	165
桑原一彦	熊本大学	166
生野繁子	九州看護福祉大学	167
高森啓史	熊本大学	168
田中洋	熊本大学	169
近本亮	熊本大学	170
徳永淳也	九州看護福祉大学	171
馬場秀夫	熊本大学	172
林尚子	熊本大学	173
別府透	熊本大学	174
堀野敬	熊本大学	175
三隅将吾	熊本大学	176
横溝和美	崇城大学	177
渡邊雅之	熊本大学	178



秋吉 澄子

AKIYOSHI SUMIKO

所属・職名 尚絅大学 短期大学部 食物栄養学科 講師

生 年 1978年

学 位 修士(環境共生学)(熊本県立大学)

専門分野 栄養教育・指導、応用栄養学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：akiyoshi@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①外来化学療法受療中の乳癌患者の食事・栄養管理
- ②小児慢性疾患患者の栄養素摂取量と骨密度の検討

キーワード：①食事調査 ②外来化学療法 ③乳癌 ④QOL ⑤小児慢性疾患 ⑥骨密度 ⑦食事・栄養管理

主な研究業績(最近5年間)

- ・坂本美代子、秋吉澄子、森田まり子、中川壽、田中ゆみ編(2009年)、
「中食マニュアルガイドブック」熊本市食事バランスガイド普及実行委員会発行
- ・学会発表「外来化学療法受療中の乳がん患者における栄養摂取とQOLの関連について」
(日本栄養・食糧学会、日本病態栄養学会、日本栄養改善学会、日本癌治療学会、等)
- ・学会発表「小中学生のカルシウム摂取量と骨密度についての検討」(日本栄養改善学会、小児代謝性骨疾患研究会)
- ・学会発表「食事バランスガイドを活用し、中食を中心とした食生活改善マニュアルの作成」(日本栄養改善学会)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・中食を中心とした食生活改善マニュアルの作成(農林水産省補助事業；平成20年度にっぽん食育推進事業の一環として、熊本市食事バランスガイド普及実行委員会と共同で実施)
- ・高等学校への出前講義「人の一生と栄養～ライフステージの栄養学～」 「職業理解ガイダンス」等
- ・平成22年度尚絅公開講座講師「がんと食事～予防から治療まで～」
- ・熊本市保育園連盟調理師会中央ブロック研修会講師「離乳食の展開について」(調理実習含む)

可能な共同研究	食事調査、ライフステージ・疾患別の栄養管理、メニュー作成、栄養教育・指導、調理
可能な技術提供	栄養価計算、栄養教育・指導、献立作成、調理実習、栄養士・管理栄養士の説明
可能な講演題目	「ライフステージの栄養」「がんと栄養」「職業理解(栄養士・管理栄養士)」 「栄養バランスを考えたメニュー作り」「食事バランスガイドについて」 「離乳食の進め方」「和食・郷土料理を作ってみよう」「スポーツと栄養・食事」

地域の皆様へ

私は熊本で生まれ、熊本で育ちました。食や栄養を通じて「困っている人を助け、社会の役に立ちたい」という思いを抱き管理栄養士の道を選び、病院・学生寮での実務経験を経て、現在は栄養士を志す学生の指導に当たっています。飽食といわれる今、地元熊本における食のあり方について考え、県民の皆様の幸福に微力ながら寄与できるよう、日々教育・研究に励みたいと思います。



阿部 正喜

ABE MASAKI

所属・職名 東海大学 課程資格教育センター 准教授

生 年 1962年

学 位 農学博士

専門分野 博物館学、昆虫学、生物多様性保全学

連絡先 電話：(0967)67-0611

e-mail：mabe@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①北欧の野外博物館における学社融合に関する研究
- ②大学博物館における自校教育に関する研究
- ③ハチ目の系統分類学的研究
- ④阿蘇くじゅう国立公園におけるミヤマキリシマの保全に関する研究

キーワード：①博物館 ②北欧 ③デンマーク ④昆虫学 ⑤分類学 ⑥ハチ類 ⑦文明論

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Hirashima, Y. & M. Abe, Bees of the genera *Xenorhiza* Michener and *Palaeorhiza* Perkins (Hymenoptera, Colletidae) of Papua New Guinea collected by Dr.W.J.Pulawski of the California Academy of Sciences. Japanese Journal of Entomology, (In press.)
- ・ 阿部正喜 (2011)、「博物館学辞典」雄山閣、共著 (発行予定)
- ・ Hirashima, Y. & M. Abe (2011) Bees of the genus *Palaeorhiza* Perkins (Hymenoptera, Colletidae) of the Bismarck Archipelago and Solomon Islands collected by the Noona Dan Expedition, 1961-62. Esakia(50):1-7
- ・ 阿部正喜 (2007) 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編、「新しい博物館学」、芙蓉書房、共著.
- ・ 阿部正喜 (2006) 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編、「概説博物館学」、芙蓉書房、共著.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本県国際協会副理事長、総務部会長
- ・ 熊本県環境審議会委員、鳥獣部会長、くまもと環境賞検討委員会委員長
- ・ 熊本市立熊本博物館協議会委員、リニューアル検討委員会委員
- ・ 財団法人島田美術館評議員
- ・ 財団法人阿蘇火山博物館・久木文化財団評議員
- ・ 高等教育コンソーシアム熊本企画運営委員会委員、国際交流推進部会委員、地域連携推進部会委員

可能な共同研究	博物館に関する研究全般、阿蘇くじゅう国立公園における生物多様性保全に関する研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	北欧の野外博物館、阿蘇から学ぶ自然と人のかかわり、など

地域の皆様へ

地域社会におけるコミュニケーションの場としての博物館の役割が増大している昨今、地域社会のつながりを大切にすることを基本に、博物館学・生物多様性保全学の分野を中心に教育・研究・社会貢献活動を行っています。

地域の皆さまに少しでもお役に立つことができれば幸いです。



有次 正義

ARITSUGI MASAYOSHI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1968年

学 位 博士(工学)(九州大学)

専門分野 情報工学, データ工学

連絡先 電話: (096)342-3641

e-mail: aritsugi@cs.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①データベースシステムの研究
- ②分散/並列データ処理の研究
- ③Webデータ処理の研究
- ④データのセキュリティ・プライバシーの研究
- ⑤P2Pでのデータ処理の研究

キーワード: ①データベース ②Web ③ストリーム/センサデータ ④効率化 ⑤ソフトウェア

主な研究業績(最近5年間)

- ・ M. Aritsugi and K. Nagano (2010) Recovery processing for high availability stream processing systems in local area networks (invited), IEEE TENCON 2010, pp.1036-1041
- ・ A. Nishitarumizu, T. Itokawa, T. Kitasuka and M. Aritsugi (2010) Improving a News Recommendation System in Adapting to Interests of a User with Storage of a Constant Size, APWeb 2010, pp.109-115
- ・ T. Takashita, T. Itokawa, T. Kitasuka and M. Aritsugi (2010) Tag Recommendation for Flickr using Web Browsing Behavior, ICCSA 2010, pp.412-421
- ・ H. Takamizawa, K. Saji and M. Aritsugi (2009) A replica management protocol in a binary balanced tree structure-based P2P network, Journal of Computers 4(7), pp.631-640
- ・ A. Iwamaru, T. Itokawa, T. Kitasuka and M. Aritsugi (2009) Introducing Group Participation Support into P2P Web Caching Systems, AINA 2009, pp.868-875
- ・ T. Takashita, T. Itokawa, T. Kitasuka and M. Aritsugi (2008) Extracting user preference from Web browsing behaviour for spam filtering, International Journal of Advanced Intelligence Paradigms 1(2), pp.126-138

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	計算機システム応用・構築
可能な技術提供	データ工学分野一般
可能な講演題目	

地域の皆様へ

データ工学・情報工学・計算機システムなどが専門ですが、それらを応用して役に立つことが重要と考えています。役に立つシステムの構築などにも興味があるので、良いアイデアがあれば是非ご相談ください!



飯村 伊智郎

IIMURA ICHIRO

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 准教授

生 年 1969年

学 位 博士(工学) (鹿児島大学)
 修士(工学) (上智大学)
 学士(工学) (上智大学)

専門分野 知能情報学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)
 e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①進化論的計算手法
- ②群知能
- ③分散並列処理
- ④実世界指向インタフェース

キーワード：①最適化 ②組合せ探索 ③人工知能 ④ソフトコンピューティング ⑤情報化社会 ⑥Eラーニング

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著、家庭用ゲーム機の加速度センサを用いた歩行動作で表現された感情の識別に関する一考察、情報処理学会論文誌, Vol.52, No.4, 2011/4、飯村, 甲斐, 中山 / (accepted)
- ・ 共著、高次元関数最適化におけるArtificial Bee Colonyアルゴリズムの探索性能評価、システム制御情報学会論文誌, Vol.24, No.4, 2011/4、飯村, 中山 / (accepted)
- ・ 共著、Binary Ant Colony Optimizationにおける女王蟻戦略の有効性の検討、知能と情報(日本知能情報ファジィ学会論文誌), Vol.22, No.6, 2010/12、池水, 小野, 森重, 中山, 飯村 / pp.804-817

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 県市町村共同利用型地理情報システムの構築及び運用業務に係る検討(熊本県地域振興部情報企画課), 学識経験者(2007年10月~2007年12月)
- ・ 「くまもと安心移動ナビ・プロジェクト」システム構築等業務委託に係る検討(熊本県総合政策局企画課), 学識経験者(2008年10月)

可能な共同研究	域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

当研究室では、「かっこいいソフトウェア」と「やさしいコンピュータ」の研究・開発を通して、人間とコンピュータとが豊かに共存し安心できる便利な社会の実現に貢献することを目指しています。

研究・開発の成果が、地場企業の発展など、地域の貢献に繋がれば幸いです。



市川 勉

ICHIKAWA TSUTOMU

所属・職名 東海大学 産業工学部環境保全学科 教授

生 年 1952年

学 位 博士(工学)

専門分野 地下水水文学、地下水工学、水循環工学

連絡先 電話：(096)386-2706

e-mail：tichi@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①熊本地域における地下水循環に関する研究
- ②熱帯地域における灌漑用水としての地下水利用とその影響に関する研究
- ③湧水地における湧水の経年変動と栄養塩類に関する研究

キーワード：①地下水 ②水田 ③減水深 ④湛水 ⑤湧水 ⑥富栄養化 ⑦地下水汚染

主な研究業績(最近5年間)

- ・吉井 貴紀・市川勉、熊本・高遊原台地における林地・畑地における浸透能力と涵養量について、東海大学紀要産業工学部、第2巻、67-72 (2010年)
- ・花尻新也・市川勉、熊本地域の白川中流域における減反田による湛水事業の地下水位上昇への効果について、東海大学紀要産業工学部、第2巻、59-66 (2010年)
- ・Sombat Chuenchooklin, Tsutomu Ichikawa, Phattaporn Mekpruksawong, Yayee Trenatra, "RECENTLY FLOOD EVENTS AND GROUNDWATER RELATIONSHIP IN LOWER NAMKAM BASIN THAILAND, Advances in Geosciences, Volume 17: Hydrological Science (HS), pp.237-250, 2010.
- ・武森雄志、市川勉、「白川中流域における湛水による地下水涵養の効果評価について」、東海大学産業工学部紀要、第1号、pp.53-59、2009.
- ・今辻銀二、市川勉、荒牧昭二郎、「熊本水前寺・江津湖における湧水の変動とそのメカニズムについて」、東海大学産業工学部紀要、第1号、pp.46-52、2009.
- ・Tsutomu Ichikawa, Phattaporn Mekpruksawong, Yayee Trinetra, Shojiro Aramaki, Muhtar Gong, Sombat Chuenchooklin: "SALINITY PROBLEM OF THE GROUNDWATER USE FOR IRRIGATION IN THE LOWER NAM KAM BASIN, THAILAND", Proceedings of INWEPF 4th Steering Meeting and Symposium, p.1-08, pp.1-14, 2007.
- ・Phattaporn Mekpruksawong, 市川勉、山田正, "Combination of Tank Model and 3-D Unconfined Groundwater Flow (GWF) Simulation in Tropical Floodplain, THAILAND", 水文・水資源学会誌、第19巻、5号、pp.372-382、2006.
- ・西川史晃、市川勉、猪股英行、荒牧昭二郎、明瀬文則、「湧水湖における湧水量の変動が水生植物に与える影響について」、九州東海大学工学部紀要、pp.107-116、2006.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・肥後の水とみどりの愛護基金理事 (2006年～)
- ・熊本市都市計画審議会委員 (2007年～)
- ・熊本県公共工事再評価委員会委員 (2006年～2009年)
- ・熊本県経済同友会環境部会アドバイザー (2009年～)
- ・平成の名水百選選定委員 (2009年)
- ・その他、小学校、高等学校での講座、市民講座、県民カレッジなどで講演

可能な共同研究	熊本地域地下水に関する研究、小学校から高校までの地下水を中心とした環境教育(地下水など環境問題に関する教材)の開発
可能な技術提供	流量観測、地下水位観測、土壌中の栄養塩類調査、地表面からの浸透現象
可能な講演題目	熊本の地下水の現状と将来、江津湖の湧水と富栄養化、江津湖の水生植物の現状と対策

地域の皆様へ

熊本地域は、100万人の飲料水を全て地下水で賄っている世界でも珍しい地域です。そのため、地下水の利用には熊本県・熊本市をはじめ多くの企業、民間人が注目し、節水に関する努力や地下水の増加に対する協力をしてきています。私は、20年以上にわたる江津湖の湧水調査を通じて熊本地域地下水の減少傾向を示し、その原因が農業を中心とした営農活動が衰退していることを指摘し、白川中流域の湛水事業を実施するに至りました。熊本は、地下水を保全するために多くの努力を払わなければならない地域です。そのため、色々な技術も開発されてきました。その努力は、子孫に地下水を残すために今後も続けていかなければなりません。



上田 厚

UEDA ATSUSH

所属・職名 放送大学熊本学習センター 客員教授

生 年 1943年

学 位 医学博士

専門分野 社会医学：地域保健、産業保健、環境保健

連絡先 電話：(096) 370-2439

e-mail：a-ueda@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①健康科学
- ②ヘルスプロモーション
- ③地域／農村保健
- ④環境保健
- ⑤産業保健／農業医学

キーワード：①QOL／健康 ②ライフスタイル ③ヘルスプロモーション ④住民参加⑤パートナーシップ
⑥農的暮らし／農的社會 ⑦化学物質過敏症

主な研究業績(最近5年間)

- ・ K. Harada, A. Ueda, et al: A review of indoor air pollution and health problems from the viewpoint of environmental hygiene: Focusing on the studies of indoor air environment in Japan compared to those of foreign countries. Journal of Health Science, 56:488-501, 2010.
- ・ Q. Wei, A. Ueda et al: Evaluation of allergenicity of constituents of myoga using the murine local lymph node assay. International Journal of Immunopathology and Pharmacology, 23:463-470, 2010.
- ・ JW. Wang, A. Ueda, et al: Quality of life associated with perceived stigma and discrimination among the floating population in Shanghai, China: A qualitative study. Health Promotion International, 10:1093, 2010.
- ・ L. Kalay, A. Ueda, et al: Description of environmental determination of quality of life in children with intellectual disability in Japan using the Delphi technique. Environmental Health and Preventive medicine. 15:73-83, 2010.
- ・ Y. Nakagawa, A. Ueda, et al: Development of an assessment sheet for fall prediction in stroke inpatients in convalescent rehabilitation wards. Environmental Health and Preventive Medicine, 13 ; 2008.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NPO東アジアヘルスプロモーションネットワークセンター理事長
- ・ 荒尾市健康あらお検討委員会委員
- ・ 熊本県社会福祉審議会委員 (高齢者福祉専門分科会 副委員長)
- ・ 熊本市保健衛生審議会委員
- ・ 健康くまもと21推進市民会議員 (世話人代表)

可能な共同研究	住民－行政－企業のパートナーシップを基盤とした健康で活性化された地域づくり
可能な技術提供	疫学調査の実行とデータ解析、ヘルスプロモーションの理論と実践
可能な講演題目	健康科学：生き方の技術としての健康(QOL、ライフスタイルと健康、農業と健康)、健康な地域づくり(住民参加型健康づくりの実践)、環境性疾患(化学物質過敏症、アレルギー)の予防と生活管理

地域の皆様へ

与えられた人生を享受すること(QOL)は、私たちの基本的権利です。QOLの最も重要な資源が健康です。健康は、個人的な工夫や努力だけでは達成できません。地域ぐるみの組織的な活動によってひとり一人が良好なライフスタイルを実現する力を持つことが前提です。そのための理念と技術がヘルスプロモーションです。ヘルスプロモーションを通じて、持続可能な活性化された地域づくりが実現できます。



江口 智弘

EGUCHI TOMOHIRO

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 准教授

生 年 1969年

学 位 修士(人間科学)(日本大学)

専門分野 マイコン制御, 福祉工学, 教育工学

連絡先 電話: (096)232-9700

e-mail: eguchi@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①技術短大の実験・実習における情報提供方法の研究
- ②視覚障がい者に対する情報提供方法の研究
- ③技術教育のための競技ロボット研究

キーワード: ①情報提供システム ②画像処理 ③マイコン制御 ④福祉工学

主な研究業績(最近5年間)

- ・江口智弘, 依田光正, 青木和夫: 視覚特別支援学校の授業や学校生活における情報獲得に関する問題点の解明; ヒューマンインタフェースシンポジウム2010論文集, pp.531-534, (2010).
- ・江口智弘, 依田光正, 青木和夫: 電子部品情報提供システムの実用的有効性の検証; ヒューマンインタフェースシンポジウム2009論文集, pp.753-756, (2009)
- ・江口智弘, 依田光正, 青木和夫: 電子部品情報提供システムの評価; ヒューマンインタフェースシンポジウム2008論文集, pp.329-332, (2008)
- ・江口智弘, 依田光正, 青木和夫: 電子部品情報提供システムの改善; ヒューマンインタフェースシンポジウム2007論文集, pp.405-408, (2007).
- ・江口智弘, 依田光正: 電子部品情報提供システムに関する研究; ヒューマンインタフェースシンポジウム2006論文集, pp.171-174, (2006).
- ・江口智弘: 公立工学系短期大学校の実験・実習における電子部品使用の問題点に関する調査; 精密工学会誌, Vol.72, No.8, pp.1060-1062, (2006).

主な社会活動等(最近5年間)

- ・技能検定「電子機器組立て」検定委員
- ・中級教育士

可能な共同研究	物体の情報提供システムに関する研究
可能な技術提供	実験・実習における電子部品情報提供システムに関する技術
可能な講演題目	実験・実習における電子部品情報提供システムの利用について

地域の皆様へ

これまで本校の技術教育, 特に電子回路を学習する際の問題点と改善について検討してきた。今後は, 視覚障がい者教育における教育支援について研究していく方針である。このような教育支援についてノウハウを蓄積して, 将来的には企業における社員教育についても応用したいと考える。



小笠原 健一

OGASAWARA KENICHI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 准教授

生 年 1960年

学 位 博士(学術)(熊本大学)

専門分野 運動力学、スポーツ科学

連絡先 電話：(096)232-9700(代)

e-mail：ken@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①空手「形」の力学的解釈
- ②羽ばたきの解析
- ③歩行解析

キーワード：①松濤館流 ②羽ばたき ③二足歩行

主な研究業績(最近5年間)

- ・熊谷・大石編著, はじめての自動制御 第9編第2章, 日刊工業新聞社 2008年
- ・日野・小笠原, MATLABによる倒立振り制御のシミュレーションとVisual Basic を使った実験, 機械設計 Vol. 52, No. 5 (2008)

地域の皆様へ

安全かつ効率的にコンタクト系スポーツが上達するための練習法について考察しています。



香山 芳子

KAYAMA YOSHIKO

所属・職名 熊本保健科学大学 保健科学部 教授

生 年 1949年

学 位 スポーツ科学修士(早稲田大学)

専門分野 介護予防、地域ケアシステム、地域看護

連絡先 電話：(096)275-2240

e-mail : kayama@kumamoto-hsu.ac.jp

研究テーマ

- ①高齢者の地域包括ケアシステム構築
- ②介護予防のまちづくり

キーワード：①介護予防 ②地域づくり ③ヘルスプロモーション ④地域包括ケア ⑤地域住民活動 ⑥高齢者見守り

主な研究業績(最近5年間)

- ・津村千恵子・香山芳子他 (2006年)、「介護予防の企画・実践研修プログラム」日本看護協会発行
- ・香山芳子 (2006年)、「介護予防のためのスクリーニング手法について」早稲田大学
- ・大淵修一・石田光広・香山芳子他 (2007年)、「介護予防推進モデル地区重点支援事業報告書」東京都老人総合研究所
- ・田中甲子・岩瀬広美・香山芳子他 (2008年)、「暮らしの視点での介護予防ハンドブック」地域保健研究会発行
- ・香山芳子 (2008年)、「実践！住民主体の介護予防への取り組み」地域ケアリング
- ・本間里見・香山芳子 (2010年)、「モバイル・ネットワークを活用した高齢者見守りシステムの開発」日本福祉のまちづくり学会

主な社会活動等(最近5年間)

- ・NPO法人 熊本まちづくり 「熊本地域・元気再生事業 推進協議会」委員
- ・NPO法人 熊本まちづくり 「地域ICT利活用広域連携事業 推進協議会」委員
- ・熊本市北5地域包括支援センター北斗 地域運営協議会委員
- ・国際協力(笹川記念保健協力財団) 中国桂林市にて講演「稲城市でのヘルスプロモーションの事例」魏長年・香山芳子

可能な共同研究	高齢者の地域包括ケアシステム構築	介護予防
可能な技術提供		
可能な講演題目	介護予防のまちづくり	地域包括ケアシステムの構築
		コミュニティワーク

地域の皆様へ

今後ますます進展する高齢社会において、一人暮らしあるいは高齢夫婦のみの世帯、または認知症の増加が見込まれる中、これらの方々の地域生活を支援していくためには、介護保険サービスのみならず、地域住民による見守り等の様々な生活支援サービスが提供される体制を、身近な地域で構築していく必要がある。このためには地域社会の自立と地域の絆の再生がキーワードになると考える。



川上 育代

KAWAKAMI IKUYO

所属・職名 尚綱大学 生活科学部 栄養科学科 講師

生 年 1968年

学 位 修士(環境共生学)(熊本県立大学)

専門分野 調理学、給食経営管理

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail : kawakami@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①味覚感受性と食生活との関連性について
- ②だしの嗜好性

キーワード：①味覚 ②だし

主な研究業績(最近5年間)

女子大生における味覚感受性の現状と「だし」の嗜好性、栄養学雑誌、川上育代、我如古菜月、池上由美、湯之上祐子、松添直隆、北野直子(2011.2「原著」として掲載)

1)大学生の味覚感受性と食生活の関連

第56回日本栄養改善学会(札幌)2009.9

川上育代、池上由美、我如古菜月、北野直子

2)保育園における「食を通した子育て支援プログラム開発研究事業」

その2 ～研修会のアンケートとワークショップについて～

第4回日本食育学会・学術講演会(熊本)2010.4

川上育代、和島孝浩、濱崎美紀、榊田正治、小岱紫明、森田正、村上千幸、桑原岳洋、橘孝昭、宇佐美純代、佐土原芙美子、松添直隆

3)大学生における食に対する意識の変化ー料理教室を実施してー

日本調理科学会 九州支部(福岡)2009.6

我如古菜月、山下玲子、川上育代、江藤ひろみ、沼田貴美子、北野直子

4)災害発生時における食事支援用献立の検討

日本調理科学会平成21年度大会(京都)2009.8

北野直子、我如古菜月、吉田留美、橋本光子、川上育代、江藤ひろみ

5)蒸し料理加工におけるヒラ(Ilisha elongate)の揮発性成分の変化

日本調理科学会平成21年度大会(京都)2009.8

我如古菜月、川上育代、池上由美、大坪佑香、湯ノ上祐子、北野直子、白土英樹

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	レシピ開発、食育(親子料理教室等)
可能な技術提供	
可能な講演題目	

地域の皆様へ

乳幼児期における5感で味わう食体験の大切さを、調理を主とした食育活動の中で伝えていきたい。



川口 恵子

KAWAGUCHI KEIKO

所属・職名 尚絅大学 短期大学部 総合生活学科 教授

生 年 1951年

学 位 博士(環境科学)(長崎大学)

専門分野 消費者問題・消費者教育、生活経営学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：kkeiko@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①地方消費者行の史的展開と課題
- ②多重債務問題と消費者教育
- ③消費者問題としての食糧難民
- ④離島における高齢者生活問題
- ⑤消費生活と環境

キーワード：①消費者教育 ②消費者問題 ③多重債務問題 ④消費者行政 ⑤環境消費者教育
⑥金銭管理教育 ⑦高齢者生活問題

主な研究業績(最近5年間)

- ・川口恵子(2009年)、「第8章地方消費者行政のあり方」大羽宏一編著『消費者庁設置で企業対応はこう変わる』日本経済新聞出版社
- ・川口恵子他1名(2008年)「地方消費者行政の創成期に関する一考察」『消費者教育第28冊』日本消費者教育学会
- ・川口恵子(2007年)、「第7章消費者政策の基本的視点」「第11章情報と消費生活の安全性」谷村賢治他1編著『新版生涯消費者教育論』晃洋書房
- ・川口恵子他1名(2007年)、「消費者行政の転換と課題—九州・沖縄の事例より—」『消費者教育第27冊』日本消費者教育学会
- ・川口恵子他3名(2006年)、「消費生活センターにおける相談内容とデータ集積の課題」『消費者教育第26冊』日本消費者教育学会
- ・川口恵子(2005年)「自己責任時代における金銭管理学習内容の現状と課題—高等学校家庭科教科書の分析より—」『家庭経済学研究』No.19日本家政学会。

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本消費者教育学会評議員
- ・厚生労働省熊本労働局熊本地方労働審議会委員
- ・熊本県消費生活審議会委員
- ・熊本県環境審議会委員
- ・熊本市消費生活条例制定懇話会座長
- ・NPO法人消費者支援ネットくまもと理事

可能な共同研究	消費行動調査、離島における生活調査、市町村合併と生活問題の研究、消費者行政調査
可能な技術提供	エコライフ実践方法
可能な講演題目	地方消費者行政のあり方について、消費者の社会的責任と持続可能な消費生活、消費者教育と多重債務問題

地域の皆様へ

熊本、九州を中心に地域に根ざした消費生活の研究を行っています。とくに消費者問題の研究は、現代社会を理解する上で重要です。熊本県の喫緊の課題である多重債務問題は、17年間にわたり消費者教育の観点から調査研究を継続してきました。同様に、消費者の社会的責任からみた消費生活のあり方の研究、環境に配慮したエコライフの実践・普及活動等を行っています。現在は、消費者政策の観点から地方消費者行政のあり方についても研究しています。



河村 洋子

KAWAMURA YOKO

所属・職名 熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

生 年 1975年

学 位 PhD in Health Education and Promotion

専門分野 公衆衛生・健康教育学

連絡先 電話：(096)342-2041

e-mail : kawamura@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①市民協働による健康な地域づくり
- ②コミュニティエンパワメント技術
- ③青少年の性の健康教育
- ④エンターテインメント・エデュケーション
- ⑤テイラリング手法によるヘルスコミュニケーション

キーワード：①ヘルスコミュニケーション ②ヘルスプロモーション ③健康政策 ④コミュニティエンパワメント ⑤健康教育
⑥公衆衛生 ⑦協働による地域づくり

主な研究業績(最近5年間)

- ・コミュニティベース参加型研究—Community-based participatory research—、河村洋子、『山間地政策を学ぶ』山中進・上野真也(編)、pp271、成文堂、2010.
- ・【連載】個人と社会環境に影響を与えるEntertainment-Educationの可能性—最強コンビ「E-E」ができること。公衆衛生情報、39(4)～40(4)。
- ・学童向けがん教育教材の開発と評価：がん教育のあり方への示唆。河村洋子、助友裕子、片野田耕太。政策研究、1、pp. 69-84、2010.
- ・Kawamura, Y., Ivankova, N., Kohler, C., & Chaney-Permean, S. (2009). Utilizing Mixed Methods to Assess Parasocial Interaction of One Entertainment—Education Program Audience. International Journal of Multiple Research Approaches, Vol.3(1), 88-104.
- ・Ivankova, N., & Kawamura, Y. (2010). Emerging Trends in the Utilization of Integrated Designs in the Social and Health Sciences. In A. Tashakkori, & C. Taddlie (Eds). Handbook of Mixed Methods in Health and Social Sciences (2nd Ed.), pp581-611. Thousand Oaks, CA: Sage.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・NPO法人 ブナの木の会 事務局支援
- ・熊本都市戦略会議 コンベンションWG、熊本市周辺賑わいづくりWG
- ・熊本大学男女共同参画コーディネーター

可能な共同研究	協働の地域づくり、地域のニーズと資源の調査、プログラム評価
可能な技術提供	マスを対象としたヘルスコミュニケーション手法、行動変容の行動科学理論の応用・活用
可能な講演題目	上記のほかに、地域におけるヘルスプロモーション活動について、など

地域の皆様へ

特に地方の大学にとって、地域に貢献することは果たすべき大きな役割です。私の考える、あるいは取り組んでいる研究の姿は、社会に生きる、社会のニーズに応えるものです。どのような方たちでも、地域社会の皆さんのお手伝いができたり、協働してプロジェクトなどを進めていく中で、自らの研究も形にしていくことができると考えています。気軽にお声掛けいただければ幸いです。



北野 直子

KITANO NAOKO

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 准教授

生 年

学 位 博士(医学)(昭和大学)

専門分野 給食経営管理、調理学、食生活学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①地域住民の健康と食生活・生活因子の関連について
- ②給食を媒体とした食育のあり方

キーワード：①健康づくり（食） ②食育・食の安全

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著、熊本県一農山村に居住する高齢者の健康状態と食・生活習慣との関連について、栄養学雑誌、2010、78-86
- ・ 共著、Correlation between bone mineral density and body composition in Japanese females aged 18-40 years with low forearm bone mineral density, Environmental Health and Preventive Medicine, 2009, 46-51
- ・ 共著、農村に居住する高齢者の口腔状態と食生活ならびに日常生活習慣との関連-8020達成者について、日本プライマリ・ケア学会誌、2009、218-223
- ・ 共著、熊本県の2保育園と1幼稚園における給食の食事摂取基準に基づく実施給与栄養量に関する研究、日本給食経営管理学会、2011、3-16
- ・ 共著、女子大生における味覚感度の現状と「だし」の嗜好性、栄養学雑誌、2011、10-19

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本県健康食生活・食育推進連携会議員（2010年8月～）
- ・ 学校給食用食肉納入検討委員会委員長（2006年6月～）
- ・ 熊本県栄養士会研究教育栄養士協議会会長（2006年5月～2008年4月）
- ・ 熊本県産業教育審議会委員（2007年3月～2009年3月）

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=67&back=c> をご参照ください。



木村 宏和

KIMURA HIROKAZU

所属・職名 尚絅大学 生活科学部 栄養科学科 准教授

生 年 1970年

学 位 博士(農学)(九州大学)

専門分野 微生物工学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail : kimura@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①乳酸菌の生理活性物質の研究
- ②乳酸菌を使った環境浄化の研究

キーワード：①バクテリオシン ②増殖促進物質 ③環境化学物質

主な研究業績(最近5年間)

内匠正太・木村宏和 他 (2010年)、[DNA microarray analysis of genomic responses of yeast *Saccharomyces cerevisiae* to nickel chloride, *JJournal of Toxicological Science* 35巻 (1) p125~129

地域の皆様へ

熊本の豊かな生態系を微生物を利用して保全したい。



小林 茂樹

KOBAYASHI SHIGEKI

所属・職名 東海大学 産業工学部環境保全学科 准教授

生 年 1964年

学 位 博士(理学)

専門分野 衛星測地学、地球物理学、衛星画像処理

連絡先 電話：(096)386-2836

e-mail：shigeki@kmail.tokai-u.jp

研究テーマ

①干渉合成開口レーダーによる地震・火山変動・地盤沈下の計測

キーワード：①干渉合成開口レーダー (InSAR) ②リモートセンシング ③画像処理 ④阿蘇・くじゅう火山
⑤地盤沈下 ⑥地学一般

主な研究業績(最近5年間)

- ・田村綾子・小池克明・小林茂樹・田中健路、衛星画像データを用いた地表物性推定における大気影響の検討と推定精度向上の一提案—LANDSAT TM熱赤外データによる海面温度推定のケーススタディー、情報地質(日本情報地質学会)、18、1、15-18(2007年)
- ・小林茂樹・藤井直之・木股文昭・里村幹夫 著、活火山・群発地震地域の重点監視体制の確立と干渉SAR/GPS/重力によるマグマ移動過程の解明、JAXA/ALOSデータ利用公募研究中間報告書、8ページ(2008年)
- ・小林茂樹、3次元写真測量を用いた阿蘇中岳火口周辺の精密地形計測、平成19年度東京大学地震研究所一般共同利用・研究実績報告書、2、東京大学地震研究所(2008年)
- ・東浦幸平・小林茂樹、干渉SARによるくじゅう連山の地殻変動解析、日本地球惑星科学連合大会、STT072-P10(2010年)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本火山学会秋季大会運営委員(2006年)
- ・熊本市市民大学講座講師(2007年)
- ・くまもと県民カレッジ講師(2010年)

可能な共同研究	干渉合成開口レーダーを用いた地表面変動の計測(地震変動、火山変動、地盤沈下など) 小学校から高校までの地学教育(地震・火山・地質・地形・気象分野などの手法・教材)の開発
可能な技術提供	衛星画像処理一般、合成開口レーダー干渉法、地学教材(地震学・測地学・気象学分野)
可能な講演題目	宇宙から見る地震・火山の動き／人工衛星による地球環境観測／地球史46億年間の地球環境変動

地域の皆様へ

ALOS衛星(だいち)などに搭載された合成開口レーダー(SAR)データを用いた干渉法(通称:干渉SAR)により、地面の変動を精密に計測する技術について詳しく説明できます。この手法は、地震・火山変動や地盤沈下、地滑りなどのモニタリングに応用できます。その他、衛星データを用いた画像処理手法一般について解説・技術指導できます。

また、小学校から高等学校までの地学教育(防災分野含む)についてのアドバイス(教材開発など)ができます。例えば、地震活動解析、地球の大きさの計測、回転水槽を使った大気大循環の実験、衛星画像を使った環境情報抽出などなど。



税所 幹幸

SAISHO MOTOYUKI

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 教授

生 年 1950年

学 位 工学修士(熊本大学)

専門分野 教育工学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

①コンピュータを利用した教育支援システムに関する研究

キーワード：①Eラーニング ②情報化社会

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

・共著、熊本学のススメー地域学入門ー、熊本県立大学、2008/4、p.143

■ 論文

・単著、再帰アルゴリズムを可視化する学習支援システムの設計・開発と評価、アドミニストレーション、2007/12

主な社会活動等(最近5年間)

- ・高大連携プロジェクト(2006年～) 東稜高校・水俣高校との取組に対するサポート
- ・創立60周年記念シンポジウム(春季)『春・進歩…大学と学問』に参加(2007年4月)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=56&back=c> をご参照ください。



坂田 敦子

SAKATA ATSUKO

所属・職名 尚絅大学 生活科学部 栄養科学科 教授

生 年 1959年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 生化学、免疫学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：sakata@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①免疫賦活作用を有する糖質レクチンの機能解析
- ②食品成分の機能性（免疫調節能、抗酸化能、抗腫瘍活性等）に関する研究

キーワード：①食品成分機能性 ②免疫調節 ③抗酸化 ④抗腫瘍活性

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Arikawa T, Watanabe K, Seki M, Matsukawa A, Oomizu S, Sakata KM, Sakata A, Ueno M, Saita N, Niki T, Yamauchi A, Hirashima M. (2009) Galectin-9 ameliorates immune complex-induced arthritis by regulating Fc gamma R expression on macrophages. Clin. Immunol., Volume 133(3) p.382-92
- ・ 坂田研明、坂田敦子、平島光臣、(2008)関節リウマチにおけるガレクチン-9の意義. リウマチ科、第40巻(4号)：441-450
- ・ Masako Seki, Souichi Oomizu, Ken-mei, Sakata, Atsuko Sakata, Tomohiro Arikawa, Kota Watanabe, Kanako Ito, Keisuke Takeshita, Toshiro Niki, Naoki Saita, Nozomu Nishi, Akira Yamauchi, Shigeki Katoh, Akihiro Matsukawa, Vijay Kuchroo, Mitsuomi Hirashima (2008) Galectin-9 suppresses the generation of Th17, promotes the induction of regulatory T cells, and regulates experimental autoimmune arthritis. Clin. Immunol., Vol. 127(1) p.77-78
- ・ Masako Seki, Ken-Mei Sakata, Souichi Oomizu, Tomohiro Arikawa, Atsuko Sakata, Masaki Ueno, Atsuya Nobumoto, Toshiro Niki, Naoki Saita, Kanako Ito, Shu-Yan Dai, Shigeki Katoh, Nozomu Nishi, Michishi Tsukano, Kouichiro Ishikawa, Akira Yamauchi, Vijay Kuchroo, Mitsuomi Hirashima (2008) Beneficial effect of galectin 9 on rheumatoid arthritis by induction of apoptosis of synovial fibroblasts. Arthritis & Rheumatism, Vol. 56: 3968-3976

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ (財) くまもとテクノ産業財団「バイオ産学行政連携推進事業に係る科学技術コーディネータ」(平成18年4月～平成21年9月)
- ・ H19年度 (財) くまもとテクノ産業財団バイオ産・学・行政共同研究等助成事業「ミネラルバランスに基づく食育の研究」(平成19年11月～平成20年9月)
- ・ 熊本県産業技術センター「熊本県産業技術センター研究外部評価委員」(平成19年4月～平成21年3月)
- ・ 熊本県教育委員(平成20年10月～平成21年3月)

可能な共同研究	免疫賦活能、抗酸化能、抗腫瘍活性など食品の機能性に関する研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	「生体と栄養」、「免疫を高める食と栄養」

地域の皆様へ

産官学連携支援、地域農産物活用推進、食品の機能性の解析（免疫賦活／抑制作用、抗酸化作用等）の研究でお役に立てることがありましたら、ご相談下さい。



坂本 美代子

SAKAMOTO MIYOKO

所属・職名 尚綱大学 短期大学部 食物栄養学科 教授

生 年 1948年

学 位 博士(医学)(福岡大学)

専門分野 栄養教育、臨床栄養

連絡先 電話：(096)362-22011

e-mail：sakamoto@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①糖尿病のQOLに関する研究
- ②食育推進とその環境づくり

キーワード：①糖尿病性腎症 ②食事療法 ③たんぱく質 ④食育支援

主な研究業績(最近5年間)

- ・坂本美代子(他7名)(2006年)、「The suppressive effects of dietary protein restriction on the progression of renal impairment in OLETF rats」Clinical and Experimental Nephrology,10(4)
- ・坂本美代子・田中真知子(2006年)、「身体活動と体組成」尚綱短期大学研究紀要第38輯
- ・坂本美代子・秋吉澄子(他3名),(2009年)、「中食マニュアルガイドブック」熊本市食事バランスガイド普及実行委員会

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市食育推進ネットワーク連絡会会長
- ・くまもと食の安全・食育推進会議(熊本県)委員
- ・熊本市食の安心安全・食育推進計画策定委員会副委員長
- ・熊本県生活科・総合学習教育学会常任理事

可能な共同研究	糖尿病等の疾患時における食事管理、ライフステージ毎の栄養教育
可能な技術提供	治療食献立作成、栄養教育・指導
可能な講演題目	生活習慣病予防と食事、地域で支えよう子どもの生きる力、食育

地域の皆様へ

主に、若い世代を対象とし“食”のもつ精神的・文化的役割や生活習慣・食習慣と生活習慣病予防等に関する知識・技術力を高めたい。



篠塚 致子

SHINOTSUKA TOMOKO

所属・職名 尚絅大学 短期大学部 総合生活学科 講師

生 年 1971年

学 位 修士(家政学)(奈良女子大学)

専門分野 家庭科教育、キャリア教育

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：tomoko@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①家庭科教育
- ②キャリア教育
- ③幼児期の消費者教育

キーワード：①教材開発 ②生活文化 ③幼児期 ④家庭教育 ⑤社会教育 ⑥地域 ⑦消費者教育

主な研究業績(最近5年間)

- ・篠塚致子他2、(2010年)、「食料難民と地産地消との“懸け橋”―「走る鮮魚店」を消費者教育の観点から考える―」日本消費者教育第30回全国大会口頭発表、日本消費者教育学会
- ・篠塚致子(2010年)、「高校実践(必修)地域力を生かした食生活教育の実践と課題(第2報)熊本県御船地方の食材・文化・技能を生かした食空間づくりを通して」、「家教連家庭科研究(292)」、家庭科教育研究者連盟
- ・篠塚致子(2010年)、「高校実践(必修)地域力を生かした食生活教育の実践と課題(第1報)熊本県阿蘇地方の郷土料理実習を通して」、「家教連家庭科研究(291)」、家庭科教育研究者連盟

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	幼児期の金銭管理教育研究、日常生活における意思決定トレーニング方法、地域の生活文化、家庭科教育教材開発
可能な技術提供	家庭科教育における教材開発
可能な講演題目	地域の生活文化を題材とした授業実践、家庭科における消費者教育を取り入れた授業展開

地域の皆様へ

幼児期の消費者教育は、家庭教育に負うところが大きく、保護者の価値観の影響を受けます。子どもにとっては、この頃に身につけた金銭感覚がお金に関する判断力や価値観を形成する基礎となります。幼児期という、消費者教育の基盤形成の重要な時期に、子どもたちが身につけるべきことは何か、また、どうすれば身につけられるのかを調査・研究し、家庭や地域社会と連携した取り組みを試みたいと考えています。



白土 英樹

SHIRATSUCHI HIDEKI

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 食健康科学科長 教授

生 年 1965年

学 位 博士(農学)(九州大学)

専門分野 食品分析学、食品工業分析学、食品化学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①食品の品質因子としての香りとその評価法に関する研究
- ②食品香気成分の機能性に関する研究
- ③中晩生カンキツの長期安定供給技術の開発
- ④有色農作物に含まれる機能性成分の特性評価に関する研究

キーワード：①バイオ ②食育・食の安全 ③地産地消

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、新カリ対応管理栄養士国家試験完全攻略〇×チェック4000問2008、医歯薬出版、2007/7、食品成分の化学構造と性質担当、pp.52-55,264-267

■ 論文

- ・共著、紫サツマイモの加工食品に含まれる主要アントシアニンの定量、日本食品化学工学会誌第57巻第3号、2010/3、pp.128-133
- ・共編、低温貯蔵中におけるカンキツ‘不知火’果実の糖、有機酸、アミノ酸、アスコルビン酸およびカロテノイド含量の変化、日本食品保蔵科学会誌 Vol.35 No.6、2009/11、pp.301-308

主な社会活動等(最近5年間)

- ・経済産業省産学人材育成パートナーシップ事業『農工商連携による「地域機能性食品のブランド化に必要な中核バイオ人材育成」』プログラム委員(2008年10月～)
- ・(独) 科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業シーズ発掘試験査読評価委員(2008年4月～)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=69&back=c> をご参照ください。



鈴木 康夫

SUZUKI YASUO

所属・職名 東海大学 熊本教養教育センター 教授

生 年 1954年

学 位 理学博士

専門分野 人文地理学、農村地理学、地域資源学

連絡先 電話：(096)386-2740

e-mail : ysuzuki@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①過疎地域の地域資源管理と地域振興
- ②条件不利地域の再生とツーリズム戦略
- ③文化的景観・文化遺産の保全と産業振興

キーワード：①過疎地域 ②地域再生・地域振興 ③地域資源学 ④地元学 ⑤棚田保全と地域振興
⑥文化的景観・文化遺産の保全 ⑦産業振興とツーリズム戦略

主な研究業績(最近5年間)

- ・『山間地政策を考える』(共著)山中進・上野真也編、成文堂、2010年
- ・『農業地域情報のアーカイブと地域づくり』(共著)水嶋一雄編、成文堂、2008年
- ・『山間地集落の維持と再生』(共著)山中進編、成文堂、2007年
- ・『菊水町史・通史編』(共編著)和水町、ぎょうせい、2007年
- ・『菊水町史・資料編』(共編著)菊水町、ぎょうせい、2006年
- ・「中山間地域における土地利用変化と限界集落対策」鈴木康夫・田中靖久、東海大学総合教育センター紀要29、2009年

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県国土利用計画審議会会長
- ・九州農政局環境保全型農業推進会議会長
- ・阿蘇市重要文化的景観(世界文化遺産推進)調査検討委員会委員
- ・環境省阿蘇草原再生協議会委員
- ・熊本県球磨村農業振興アドバイザー会議会長、球磨村山村振興アドバイザー
- ・宮崎県五ヶ瀬町地域振興アドバイザー

可能な共同研究	地域振興のための現地調査と課題解決に向けた地域計画の策定
可能な技術提供	土地利用図の作成(現地調査、地形図・空中写真・衛星画像の判読などによる)
可能な講演題目	「地域を創る人々の営み」、「日本各地・世界を旅して考えた」、「地理学者の視点」

地域の皆様へ

私たち一人ひとりに個性があるように、地域にも個性があります。地域の個性は土地柄や地域性としても表現されます。熊本県内の市町村を地域の単位としてとりあげれば、それぞれ異なった地域の個性を備えています。私の研究の目的は人文地理学的に地域の個性や実態を把握し(地域診断を行い)、体質に合った課題解決や夢の実現に向けた方向性を示すことにあります。住民目線でも考え、ともに行動することをモットーにしています。



高田 政夫

TAKADA MASAO

所属・職名 熊本保健科学大学 大学院 教授

生 年 1950年

学 位 理工学修士(日本大学)

専門分野 作業療法学 地域作業療法学

連絡先 電話：(096)275-2150

e-mail：takada@kumamoto-hsu.ac.jp

研究テーマ

- ①地域在宅重度障害者に対する作業療法についての研究
- ②重度在宅障害者支援のためのネットワーク構築に関する研究
- ③重度在宅障害者の福祉用具および環境整備支援技術の開発
- ④IT機器入力用スプリントスイッチの開発

キーワード：キーワード：①作業療法 ②保健活動(ヘルスプロモーション) ③福祉用具 ④作業と健康 ⑤生活環境
⑥高齢者 ⑦神経難病

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 地域リハビリテーション「病院でのIT活用」(2009年)三輪書店
- ・ 筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーション「ALS患者の作業療法」(2009年)日本病院出版会
- ・ 日本作業療法士協会編(2008年) 「障害者IT活用支援ガイドブック」(2008年) 独立行政法人福祉医療機構
- ・ 保健科学研究誌「重症心身障害児に対する感覚刺激の役割」(2008年) 保健科学研究誌
- ・ 「重度障害者のための入力スイッチ付副子装具の開発」(2006年) 日本保健福祉学会誌
- ・ 「スプリントスイッチを使用して歌集を綴ったALSの一症例」(2005年) 日本作業療法士協会

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本作業療法士協会 福祉用具相談員
- ・ 日本地域作業療法研究会 理事

可能な共同研究	福祉用具の開発, 自助具の開発
可能な技術提供	IT支援作業療法, 地域作業療法
可能な講演題目	健康体操 腰痛予防, 健康を支える作業, 認知症予防の作業

地域の皆様へ

団塊世代の高齢化や少子化の影響により地域の高齢化率は急カーブで上昇しています。推計によると高齢化率は2035年には30%を超え、3人に1人は65歳以上の高齢者となります。高齢者が今こそパワーを発揮すべき時です。地域の高齢者が健康で豊かな生活を獲得するには何が必要か自ら考えましょう。リハビリテーション支援技術、中でも作業療法支援技術は地域高齢者の健康を促進できると考えています。



高橋 文徳

TAKAHASHI FUMINORI

所属・職名 尚絅大学 短期大学部 総合生活学科 准教授

生 年 1973年

学 位 修士(工学)

専門分野 教育工学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：takahasi@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

①ICTによる教育改善の研究

キーワード：①eラーニング ②オープンソース ③マインドマップ

主な研究業績(最近5年間)

- ・高橋文徳,師玉康成「学習者によるコンテンツ製作と評価」コンピュータ&エデュケーション(コンピュータ利用教育学会会誌), pp.69-72(2009年12月)
- ・高橋文徳,師玉康成「学習者によるコンテンツ製作・閲覧・評価とその効果」コンピュータ&エデュケーション(コンピュータ利用教育学会会誌),pp.40-43(2009年6月)
- ・高橋文徳,師玉康成「Ubuntuによる学習環境の構築と評価」コンピュータ&エデュケーション(コンピュータ利用教育学会会誌),pp.74-77(2008年12月)
- ・高橋文徳,師玉康成「Ubuntuによる学習支援環境の構築」教育システム情報学会第33回全国大会講演論文集,pp.438-439(2008年9月)
- ・高橋文徳,師玉康成「教育支援システムの構築と学習効果の分析」コンピュータ&エデュケーション(コンピュータ利用教育学会会誌),pp.37-40(2007年6月)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・福岡情報教育授業研究会(博多高校)招待講演
- ・高校教員向情報技術講習会(九州情報大学)招待講演
- ・実務教育優秀教員(全国大学実務教育協会)表彰

可能な共同研究	eラーニングに関する研究
可能な技術提供	オープンソースを用いたeラーニング環境の構築
可能な講演題目	eラーニングとは

地域の皆様へ

「<http://e-learning.shokei-gakuen.ac.jp/>」にて、熊本県の観光名所案内コンテンツ、Microsoft社のWord・Excelの各機能を説明するコンテンツ等を公開しています。ユーザー登録不要のゲストとして無償利用が可能ですので、是非ご覧下さい。



竹熊 千晶

TAKEKUMA CHIAKI

所属・職名 熊本保健科学大学 保健科学部 特任教授

生 年 1962年

学 位 公共政策学博士(熊本大学)

専門分野 地域看護学 家族看護学 在宅看護学

連絡先 電話：(096)275-2241

e-mail：takekuma@kumamoto-hsu.ac.jp

研究テーマ

- ①地域ケア研究
- ②家族看護研究

キーワード：①地域ケア ②地域文化 ③ウチ・ソト ④家族 ⑤方言

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 竹熊千晶(研究代表者)「障害文化としての“のさり”」文部科学省科学研究費(萌芽的研究)
- ・ 竹熊千晶(研究代表者)「“のさり”の両義性と日本人のウチ・ソト文化からみた地域ケア・システムの構築」文部科学省科学研究費(基盤研究C)
- ・ 竹熊千晶、田口宏昭(2005)「地域ケアにおける“のさり”文化の機能とその変容」、熊本大学大学院社会文化科学研究科報告書
- ・ 竹熊千晶(2007)「ケアへの関与とウチ・ソトの境界」、熊本大学社会文化研究

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NPO法人老いと病いの文化研究所われもこう 代表
- ・ 熊本県地域福祉推進委員会委員
- ・ 熊本市地域密着型施設審査会委員
- ・ 熊本県看護職員の看護実践能力を高める再教育の拠点を担う体制整備準備委員会委員

可能な共同研究	地域ケア・システムのモデル構築
可能な技術提供	
可能な講演題目	障害文化としての方言「のさり」

地域の皆様へ

医療の高度化、長寿化が進む中、人々は病気や障害があっても在宅で生活することが可能になりました。ところが、現在は要介護の状態となったときに、幸せな状態であるとは言えません。どのような地域のケア・システムがあれば、地域のなかで安寧に暮らすことができるのか、また、生を全うして、家族も満足して、死に行くことができるのか、NPO法人のなかで実際にケアを行いながら探究しています。ここには、医療依存度や介護度が高く、家族が家でみたくてもみることのできない方が入居しておられます。本当の自宅ではないけれども、安心できる居場所、そのような形ができないか模索中です。現在、学際的なあらゆる分野の研究者、家族、地域のボランティアが療養環境に関わりながら、ケアを行っているところです。



徳富 芳子

TOKUTOMI YOSHIKO

所属・職名 尚絅大学 生活科学部 栄養科学科 教授

生 年 1960年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 生理学、薬理学

連絡先 電話：(096)362-2011

研究テーマ

①機能性食品成分によるメタボリック症候群予防に関する研究

キーワード：①機能性食品成分 ②メタボリック症候群

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Tokutomi Y, et al. (2011) Vascular responses to 8-nitro-cyclic GMP in nondiabetic and diabetic mice. *British Journal of Pharmacology* (in press)
- ・ Kataoka K, Tokutomi Y, et al. (2010) Apoptosis signal-regulating kinase 1 deficiency eliminates cardiovascular injuries induced by high-salt diet. *Journal of Hypertension* 29(1):76-84
- ・ Tokutomi Y, et al. (2010) Vascular responses to 8-nitroguanosine 3',5'-cyclic monophosphate in non-diabetic and diabetic mice. The 6th International Conference on the Biology, Chemistry and Therapeutic Applications of Nitric Oxide 92P
- ・ Nakamura T, Kataoka K, Fukuda M, Nako H, Tokutomi Y, et al. (2009) Critical role of apoptosis signal-regulating kinase 1 in aldosterone/salt-induced cardiac inflammation and fibrosis. *Hypertension* 54(3):544-551.
- ・ Tokutomi Y, et al. (2007) Oxidation of Prx2 and phosphorylation of GRP58 by angiotensin II in human coronary smooth muscle cells identified by 2D-DIGE analysis. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 364(4):822-830
- ・ Sawa T, Zaki MH, Okamoto T, Akuta T, Tokutomi Y, et al. (2007) Protein S-guanylation by the biological signal 8-nitroguanosine 3',5'-cyclic monophosphate. *Nature Chemical Biology* 3(11):727-735

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本市医師会看護専門学校 非常勤講師 (担当：薬理学)

可能な共同研究	分子薬理学的研究
可能な技術提供	分子薬理学的技術
可能な講演題目	

地域の皆様へ

生理学的、薬理学的、生化学的技法を用いた研究を中心に、これまで行ってきました。研究上でお役に立てることがありましたら、ご連絡下さい。



中井 さち子

NAKAI SACHIKO

所属・職名 九州看護福祉大学 看護福祉学部 教授

生 年 1949年

学 位 鍼灸学博士(明治鍼灸大学<現 明治国際医療大学>)

専門分野 鍼灸学、鍼灸症候学、東洋医学、解剖(超微形態学)

連絡先 電話：(0968)75-1921

e-mail：nakai992@kyushu-ns.ac.jp

研究テーマ

- ①糖尿病性肝・膵傷害に対する灸の効果の超微形態学的研究
- ②アトピー性皮膚炎に対する鍼灸の効果
- ③食育の研究
- ④抗酸化力の研究
- ⑤施灸によるパーキンソン病治療法の探索的研究

キーワード：①鍼灸の効果 ②糖尿病 ③アトピー性皮膚炎 ④超微形態学

主な研究業績(最近5年間)

- ・中井さち子・丹羽光明 (2010年)、「気功が抗酸化力等に与える影響調査」人体科学会
- ・中井さち子他編(2009年)、「あなたの～生命～は 統合医療で見直そう？」(株)リフレ出版
- ・(代) 臼田信光・中井さち子他(2006-7年)、「糖尿病性疾患に対する灸効果の分子生物学的研究」(科研費分担)
- ・(代) 臼田信光・中井さち子他(2008-10年)、「生活習慣病における施灸効果の神経科学的解明」(科研費分担)
- ・(代) 林啓子・中井さち子他(2007-2008年)、笑いと経絡の脳内メカニズムを組み合わせた、表情筋刺激効果の検討とケア技術への応用(科研費分担)
- ・中井 さち子他(2006年)、「アトピー性皮膚炎に鍼灸治療が著効を呈した症例」 全日本鍼灸学会誌

主な社会活動等(最近5年間)

- ・裁判所調停委員 / 裁判所参与員(最高裁判所任命)
- ・表彰状受賞(大津家庭裁判所所長)
- ・NPO法人IMUNET:統合医療者ネットワーク(理事)
- ・日本向老学学会(理事)
- ・(財)東洋医学研究財団(評議員)

可能な共同研究	鍼灸の効果(臨床)、鍼灸効果(基礎)、食育、抗酸化力・酸化ストレス・免疫
可能な技術提供	鍼灸治療、マクロビオテック料理、抗酸化力・酸化ストレス
可能な講演題目	東洋医学健康講座、食育講座、鍼灸の効果、生活習慣病予防(未病治)

地域の皆様へ

統合医療の柱である東洋医学を愛し、一臨床家として、研究者として、基礎・臨床の双方から鍼灸のエビデンスを追求してきました。併せて食育に取り組み、医食同源・心身一如を哲学として全人的医療の教育と実践に身を投じています。おかげ様で、大学公開講座や市町村での講演依頼を頂くようになり、地域の皆様の健康増進・予防や食育教育のお役に立てる機会も増えてきました。現在は県内の温泉と鍼灸治療のコラボ研究も模索中です。



長嶺 寿宣

NAGAMINE TOSHINOBU

所属・職名 熊本県立大学 文学部 准教授

生 年 1973年

学 位 M.A. in TESOL (Murray State Univ.)
Ph.D. in Composition & TESOL (Indiana Univ. of PA)

専門分野 英語教授法(TESOL), 応用言語学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)
e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①ESL/EFL Teacher Development
- ②A Social Constructivist Approach to ESL/EFL Teacher Education,
- ③Communicative Competence Manifested in L2 Speeches and Texts
- ④Pronunciation Pedagogy and Theory in EFL
- ⑤Grammar Pedagogy and Theory in EFL, etc.

キーワード：①外国語教育 ②教育問題 ③国際交流

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・単著, Exploring Preservice Teachers' Beliefs: What Does it Mean to Become an English Teacher in Japan?, Saarbrücken, Germany: VDM Verlag, 2008/11, 280 pages [ISBN: 978-3639096422]

■ 論文

- ・単著, Effects of Hyper-Pronunciation Training Method on Japanese University Students' Pronunciation, Special Edition of International TESOL Asia Conference (Asian EFL Journal Press), 2011/4

主な社会活動等(最近5年間)

- ・第23回熊本県高等学校英語暗唱大会 審査員 (2011年1月29日)
- ・文部科学省主催 平成22年度外国語指導助手中間期研修会 (The 2010-2011 ALT Mid-Year Seminar) 基調講演 講師 (Keynote Speaker; 2010年11月11日) 演題 「ALTs and JTEs' Roles and Responsibilities」

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

英語科における授業改善方法, 学習方略, 英語圏諸国への留学, 各種試験(英検, TOEIC, TOEFL, etc.) 対策など英語教育全般に係る事柄について助言及び指導が可能です。英語弁論大会, ディベート大会などの審査員, 英語教員研修会や各種セミナーの講師のご依頼にも応じます。



八田 茂樹

HATTA SHIGEKI

所属・職名 熊本高等専門学校 共通教育科 教授

生 年 1951年

学 位 国際学修士（筑波大学）

専門分野 地理学

連絡先 e-mail : hatta@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

①山陽道の地理学的研究②地誌学研究

キーワード：①街道 ②歴史地理学 ③地誌学

主な研究業績(最近5年間)

・八田茂樹（2006）、「細川家史料にみる近世大名の『食』に関する一考察－細川忠興の書状を分析して－その1」
熊本電波工業高等専門学校研究紀要,第33号.

主な社会活動等(最近5年間)

・熊本地理学会運営委員

可能な共同研究	
可能な技術提供	
可能な講演題目	参勤交代と細川家の食に関する一考察山陽道と西国街道の宿駅とその景観

地域の皆様へ

街道を研究する中で、五街道や山陽道・西国街道との比較の観点から、九州地方の脇街道である長崎街道や豊後街道も調査しています。豊後街道については小論も発表しています。身近な街道について皆様から情報を提供していただきながら、地方について調べ、全国的視野で考えることができたらと思っています。



馬場 良二

BABA RYOJI

所属・職名 熊本県立大学 文学部 教授

生 年 1955年

学 位 文学修士(東京外国語大学)

専門分野 日本語教育

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①現代日本語
- ②キリシタン資料

キーワード：①実験音声学 ②ロドリゲス『日本文典』 ③多文化共生 ④熊本方言

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、話してみらんね さしより！熊本弁、熊本県立大学日本語教育研究室、2009/3

■ 論文

- ・単著、熊本語の「よる」と「とる」、熊本県立大学、2008/4、p.p.273 - 280
- ・単著、スガシカオ「19才」、熊本県立大学文学部『文彩』第2号、2007/3

主な社会活動等(最近5年間)

- ・教育国際課推進協議会委員
- ・熊本県国際協会主催のKUMAMOTO多文化共生パレード事業の審査員

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

みなさん方の地域で日本語支援を必要とする方がおられましたら、ご連絡ください。学部時代にポルトガル語を専攻していた関係で、キリシタン資料に興味を持ちました。日系ブラジル人の方の交流やポルトガルとの交流のお役に立ちたいと思っています。



濱田 輝一

HAMADA TERUKAZU

所属・職名 九州看護福祉大学 看護福祉学部 教授

生 年 1953年

学 位 教育学修士(福岡教育大学)

専門分野 学校心理

連絡先 電話：(0958)75-1809

e-mail：hamada@kyushu-ns.ac.jp

研究テーマ

①理学療法士教育における教育方法の開発研究

キーワード：①PBL(問題解決型学習) ②班学習 ③学習スタイル

主な研究業績(最近5年間)

- ・奈良勲監修(2006年)、「理学療法事典」医学書院
- ・濱田輝一・森下志子(2007)「理学療法士養成校学生におけるアバシーと情動知能指数等に関する調査」、本学・共同研究
- ・伊藤俊一・他編(2010年)、シンプル理学療法学シリーズ、「理学療法評価学テキスト」南江堂

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県大津町地域福祉計画等策定委員(2006年～現在)
- ・社団法人日本理学療法士協会教育部生涯学習部・部員(中国地区ブロック担当、九州ブロック担当)

可能な共同研究	下記、技術提供に関わる事項
可能な技術提供	①理学療法士実践技術：神経理学療法、在宅医療・生活支援。 ②理学療法士教育・養成：学生の日常学習活動、学習スタイル・アバシー傾向、問題解決型学習方法の開発。 ③理学療法基礎分野：正常発達、運動学関連。 ④生活支援：在宅医療・生活支援、障害者・高齢者の建築物の設計・改造。
可能な講演題目	上記技術提供に関わる事項

地域の皆様へ

少子高齢化の時代、上記技術提供に関わる事項についての支援ができるのではとの思いです。



方 軍

FANG JUN

所属・職名 崇城大学 薬学部 准教授

生 年 1971年

学 位 医学博士

専門分野 腫瘍学・DDS・薬物治療学・微生物学

連絡先 電話：(096)326-4137

e-mail：fangjun@ph.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①腫瘍標的性高分子抗がん剤の開発研究
- ②活性酸素の制御による抗酸化・抗炎症治療戦略の探索
- ③EPR効果（高分子薬の腫瘍へのデリバリー）促進による抗がん治療増強法の研究

キーワード：①癌 ②炎症 ③活性酸素 ④EPR効果 ⑤ヘムオキシゲナーゼ-1 (HO-1)

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 1. Fang J, Nakamura H, Maeda H. Adv Drug Deliv Rev. 2010 May 1. doi:10.1016/j.addr.2010.04.009.
- ・ 2. Fang J, Seki T, Qin H, Bharate GY, Iyer AK, Maeda H. Exp Biol Med (Maywood). 235(4):487-96, 2010
- ・ 3. Fang J, Nakamura H, Seki T, Qin H, Bharate GY, Maeda H. In: Sahoo S et al (eds.), Nanotechnology in human health, Singapore, Pan Stanford Publisher, 2010 (in press).
- ・ 4. Fang J, Seki T, Maeda H. Adv Drug Deliv Rev. 61(4):290-302, 2009.
- ・ 5. Fang J, Iyer AK, Nakamura H, Seki T, Greish K, Maeda H. J Control Release 135(3):211-217, 2009.
- ・ 6. Fang J, Nakamura H, Deng DW, Akuta T, Greish K, Iyer AK, Maeda H. Int. J. Cancer. 122(5): 1135-1144, 2008.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ Member of Controlled Release Society (CRS)
- ・ 日本癌学会会員
- ・ 日本DDS学会会員
- ・ 日本薬学会会員
- ・ 武田科学振興財団薬学系研究奨励（2006年）

可能な共同研究	高分子化ヘムオキシゲナーゼ-1阻害剤の抗組織酸化傷害、抗炎症治療への開発研究
可能な技術提供	スチレンマレイン酸コポリマーのミセル剤の作製技術
可能な講演題目	活性酸素制御による治療戦略、腫瘍DDSと癌の高分子治療法

地域の皆様へ

いい研究をするために、患者さんに助けられる薬を開発するために、地域の企業や医療施設のサポートや協力が非常に大事だと思います。地域の発展とくに医療の進歩に尽力したいですが、皆様のご協力もよろしくお願いいたします。



福永 隆文

FUKUNAGA TAKAFUMI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 准教授

生 年 1961年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 並列処理, 情報ネットワーク, OS (HugePage)

連絡先 電話: (096)232-9700

e-mail: t-fukunaga@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①PCクラスタ通信性能改善
- ②HugePageの改善
- ③TCP/IP改善
- ④ サービスサイエンス

キーワード: ①PCクラスタ ②バンド幅改善 ③ Huge Page ④ 並列処理 ⑤分散処理 ⑥TCP/IP

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Practical use of two kinds of Huge Page (ICSMA 2008)
- ・ 小規模SMP構成PCを用いたクラスタの並列処理性能向上の実装と評価 (電気学会論文誌2008)
- ・ Improvement of Bonding Driver and Application to Parallel Processing on Commodity PC Cluster (ICCAS-SICE 2009)
- ・ HugeTLBfsの実用性向上と並列処理への適用と評価 (電気学会論文誌2010)
- ・ Implementation and evaluation of improvement in parallel processing performance on the cluster using small-scale SMP PCs (電気学会論文誌2010)
- ・ A Simple Method Using Multi-Core and Multiple GbE Ports for Improving Parallel Performance in Commodity PC Cluster (FGIT 2010)
- ・ Parallel Processing Performance on Multi-Core PC Cluster Distributing Communication Load to Multiple Paths (AST 2010)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 菊陽町電算システム業者選定委員
- ・ 離職者等再就職訓練事業カリキュラム審査委員
- ・ 熊本県電子自治体共同利用センター構築業務技術審査委員
- ・ 熊本県汎用型G I S活用方策調査業務受託者選考審査会審査委員
- ・ 熊本県ホームページリニューアル業務落札者決定基準の検討委員会委員
- ・ ICCAS-SICE 2009 International Joint Conference 査読委員

可能な共同研究	情報通信ソフト関係, PCクラスタ関係, Huge Page利用関係
可能な技術提供	ネットワーク構築関係, クラスタ構築関係, TCP/IP関連
可能な講演題目	

地域の皆様へ

地方は情報システム開発関連にて首都圏に遅れを取ることもあると思います。首都圏に負けないよう企業の発展に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。

機会があれば積極的に地元企業様と技術交流会に参加したいと思います。



松野 了二

MATSUNO RYOJI

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 教授

生 年 1949年

学 位 博士(情報科学)(九州大学)

専門分野 情報科学、教育学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

①情報科学 ②教育学

キーワード：①Eラーニング ②外国語教育支援システム ③情報化社会

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著, MiWIT: Integrated ESL/EFL Text Analysis Tools for Content Creation in MSWord, Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2010, 2010/10, pp. 255-260
- ・ 共著, ポータブルサーバベースドe-Learning支援システムの開発, 日本教育工学会研究報告集 JSET10-1、2010/3、pp.163-168
- ・ 共著, Determining Appropriateness of Teaching Materials for Reading Comprehension in EFL Intermediate Classes, AACE (Association for the Advancement of Computing in Education)ED-Media 2009, 2009/6, pp.2671-2675

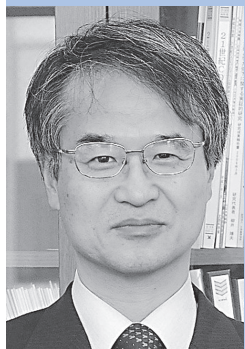
主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 「熊本県新財務会計システム開発及び運用・維持管理委託」に係る検討業務の支援(2005年)
- ・ NEXT熊本ウェブアクセシビリティ推進会議座長(2005年8月～2006年3月)
- ・ NEXT熊本ウェブアクセシビリティ評価検討チーム座長(2006年4月～2008年3月)
- ・ 熊本県情報セキュリティ推進協議会副会長(2007年6月～2008年5月)
- ・ 「熊本県市体育館予約システムの構築及び運用業務」に係る検討業務の支援(2009年)
- ・ 熊本県情報セキュリティ推進協議会会長(2008年6月～)
- ・ 科学研究費補助金審査委員(第1段審査・外国語教育)(2009年)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

主に外国語教育支援用のソフトウェア開発に関する研究を行っておりますので興味のある方はご連絡ください。



三浦 章

MIURA AKIRA

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学部長 教授

生 年 1952年

学 位 工学博士

専門分野 情報工学、通信ネットワーク

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①情報工学
- ②通信ネットワーク
- ③データマイニング

キーワード：①数学教育 ②情報化社会

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著、リンク層情報を用いた無線環境向け輻輳制御方式の提案、電子情報通信学会論文誌, Vol. J90-B, No. 4、2007/4、pp. 382-393
- ・ 共著、Branch Aggregation Multicast (BAM) : An Energy Efficient and High Compatible Multicast Protocol for Wireless Sensor Networks、IEICE Transaction on Communications, Vol. E89-D, No. 5、2006/6、pp. 1633-1643
- ・ 共著、MP-TCP : マルチホーム環境下において帯域集約を実現するトランスポート層プロトコルの提案、情報処理学会論文誌, Vol. 47, No. 2、2006/2、pp. 308-321

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 電子情報通信学会 先端オープン講座講師 (情報通信ネットワーク技術) (2001年～2008年)
- ・ くまもと障害者労働センター 数学おもしろ講座講師 (2008年～2009年)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	中高生対象 ①整数の色々 ②複写機の数学 ③図形の書き方:運動場を書くには ④面積の求め方:三角形、正方形、ピクスの定理 ⑤効率的な計算方法:インド式数学、倍数判定方法 ⑥便利な推定方法:フェルミ推定

地域の皆様へ

論理的に物事を考えるには定量的に評価できることが大切です。そのためには算数や数学が大変役に立ちます。算数や数学は、苦手だと思い込んでいる方も多いと思いますが、本当はとても楽しい科目です。昔の人たちが数学を使ってどのように考えたか、どんなところに／どのように役立っているのか等々を、“可能な講演題目”を通してご紹介させていただきます。ご興味のある方は是非ともご連絡下さい。



山本 芳一

YAMAMOTO YOSHIICHI

所属・職名 熊本高等専門学校 制御情報システム工学科 教授

生 年 1949年

学 位

専門分野 計算機工学, マイクロコンピュータシステム

連絡先 電話：(096) 242-6088

e-mail : yamamoto@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①マイクロコンピュータ応用システム
- ②理科実験教育
- ③情報処理教育

キーワード：①マイクロコンピュータ ②ハードウェア ③理科実験 ④インタフェース設計 ⑤H8 ⑥PIC

主な研究業績(最近5年間)

- ・「授業が変わる！教材教具の開発－1」, 2010年, 全国中学校理科教育研究会
- ・「科学に対する知的好奇心を高めるための取り組み～熊本電波工業高等専門学校との連携を通して～」
2008年, 第47回熊本県中学校理科教育研究大会
- ・「児童を対象としたものづくり教育」, 2007年, 電気学会全国大会講演論文
- ・「小中学校との共同教育を通じた高専生のモノづくり教育」, 2007年 第17回九州沖縄地区高専フォーラム

主な社会活動等(最近5年間)

- ・SPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)事業講師2010,2008,2007
(西合志南中学校, 泗水小学校2年間講師期間通年)

可能な共同研究	マイクロコンピュータ応用機器開発(ハードウェア・ソフトウェア)
可能な技術提供	マイクロコンピュータ応用回路例(H8,モトローラ系M68HC11,PICなど)
可能な講演題目	マイクロコンピュータインタフェース設計,理科実験教材作成(物理系)

地域の皆様へ

次代を担う子供たちの理・科学ばなれを危惧して小・中学校対象の理科実験器具を製作し、地域の小学校や中学校で実践している。教材として販売するには数と価格の面から実現が難しい事もあるが、全国的に考えると需要はあると思っている。子供たちの未来を考えた教材の開発販売ができればと思っています。

また、機器にマイクロコンピュータを組み込めばさらに知的な制御も可能になり、付加価値が高められます。現在販売されている安価な小型機器には専用プロセッサが組込まれています。すなわち組み込み技術は避けて通れない技術です。この組み込み技術を易しく講義や実験指導もできますので、ご検討下さい。



石原 修

ISHIHARA OSAMU

所属・職名 尚綱大学 文化言語学部 文化言語学科 教授(熊本大学名誉教授)

生 年 1945年

学 位 博士(工学)(九州大学)

専門分野 建築学・環境工学・建築設備計画学

連絡先 電話：(096)338-8840

e-mail : osamui@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①建築分野における省エネルギーに関する研究
- ②自然エネルギーの有効利用に関する研究

キーワード：①省エネルギー ②太陽エネルギー ③CASBEE ④都市環境 ⑤エコスクール

主な研究業績(最近5年間)

- ・石原修(2006年)、「温暖地における充填断熱工法による壁体内結露の実験的検証と対策工法に関する研究」, 日本建築学会技術報告集, 第24号, pp.213-218
- ・石原修(2007年)、「中規模都市のヒートアイランド現象に関する研究」, 日本建築学会環境系論文集, 第619号, pp.33-38
- ・石原修(2008年)、「世帯属性を考慮した住宅用エネルギー消費原単位の推定と将来予測」, 日本建築学会環境系論文集, 第628号, pp.823-830,
- ・石原修(2009年)、「環境都市水俣の温室効果ガス排出量の推定」, エネルギー資源, No.177, pp.261-264
- ・石原修(2010年)、「エコスクールにおける総合的環境性能評価に関する研究」 日本建築学会九州支部研究報告, pp.325-328

主な社会活動等(最近5年間)

- ・石原 修, 「熊本県開発審査会(委員長)」, 熊本県
- ・石原 修, 「熊本県都市計画審査会(委員長代理)」, 熊本県
- ・石原 修, 「熊本県公共事業再評価監視委員会(委員長)」, 熊本県,
- ・石原 修, 「熊本市廃棄物焼却熱輸送システム導入可能性調査研究会(座長)」, 熊本市
- ・石原 修, 「みなまた環境まちづくり研究会 教育・研究機関分科会(委員)」, 水俣市
- ・石原 修, 「みなまた環境まちづくり研究会 エネルギー・産業分科会(座長)」, 水俣市

可能な共同研究	環境とエネルギーに関するテーマ
可能な技術提供	環境とエネルギーに関するテーマ
可能な講演題目	環境とエネルギーに関するテーマ

地域の皆様へ

これからは、「エコ」の時代です。エコな商品開発、エコライフの啓発、環境とエネルギーに関する事ならどんな事でも構いません。

自社で悩まず、お一人で悩まず、三人寄れば文殊の知恵。視点を一寸変えれば、何かユニークな発想が生まれてくるかも??



岡野 大祐

OKANO DAISUKE

所属・職名 東海大学 熊本総合教育センター 教授

生 年 1954年

学 位 工学博士

専門分野 雷放電、雷保護、レーザー・プラズマ工学、電気電子計測

連絡先 電話：(096)386-2646

e-mail：okano@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①レーザー誘導法による雷放電特性
- ②海水面落雷のサージ特性
- ③コンパクト雷電界計の開発
- ④雷接近検知システムの開発
- ⑤高濃度洗浄廃液のレーザー分解処理

キーワード：①パルスレーザー ②プラズマ ③放電 ④雷保護 ⑤雷検知 ⑥PC制御 ⑦PC計測

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 岡野大祐、山下繁彦：「現場でわかるノイズ対策の本」、オーム社（2010年4月）。
- ・ 岡野大祐：「EE Text 電気電子基礎計測」、電気学会・オーム社（2009年10月）。
- ・ 岡野大祐：「解明 カミナリの科学」、オーム社（2009年5月）。
- ・ D. Okano: Electrical Discharge Path Induced by Pulsed-Nd:YAG-Laser-Plasma in DC Air Gap of Metal Rod-to-Water Electrodes, IEEE Transaction on Plasma. Sci., vol.36, no.4, pp.1154-1155（2008）。
- ・ D. Okano: DC Self-Discharge Path between Metal Rod-to-Water Electrodes in Atmospheric Air, IEEE Transaction on Plasma. Sci., vol.36, no.4, pp.1152-1153（2008）。
- ・ D. Okano: Detection of Long-lived electrons around CO₂-laser-produced Plasma in Atmospheric Gases using Symmetric Double Probe System, IEEE Transaction on Plasma. Sci., vol.35, no.4, pp.1143-1148（2007）。

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 広域NPO法人「e-コミュニケーション・コンソーシアム」理事
- ・ 社団法人 電気学会 教科書編集幹事会幹事
- ・ 社団法人 電気学会 教科書編修企画委員会委員
- ・ 「雷と雷保護技術セミナー」講師、日刊工業新聞社・音羽電機工業株式会社主催
- ・ マスコミ解説・出演（熊本日日新聞、RKKラジオ、RKKテレビ、NHK熊本放送局）

可能な共同研究	1.近距離の雷接近システム開発 2.プラズマを用いた空気・水の浄化 3.高濃度洗浄廃液のレーザー光分解
可能な技術提供	1.雷保護システムの技術 2.電気設備のノイズ対策技術 3.電子回路のノイズ対策技術
可能な講演題目	1.熊本の雷と保護 2.電気ノイズと対策 3.プラズマと応用 4.レーザーと応用 5.自然エネルギーと利用

地域の皆様へ

熊本県は阿蘇山系により上質の空気や水を内在するため、日本を代表する企業や多くの工場があります。一方、地形的環境により雷雨頻度は年間30日以上と際立ち、全国有数の雷地域です。そのため、コンピュータシステムを日常運用する、あらゆる業務に重大な雷被害を与える可能性が高いのが現状です。これまでの研究成果に基づき、①雷対策、②電気ノイズ対策および③環境浄化対策に関する啓発講演や技術相談で熊本を応援します。



梶田 聖孝

KABATA KIYOTAKA

所属・職名 東海大学 農学部 応用動物科学科 教授

生 年 1951年

学 位 農学博士

専門分野 生物資源学、草地学、水環境科学

連絡先 電話：(0967)67-0611

e-mail : kkabata@agri.u-tokai.ac.jp

研究テーマ

未利用生物資源の探索と活用・半乾燥地域における生分解性保水剤の活用
・水生バイオマスの活用と富栄養水圏の浄化

キーワード：①エコフィード ②機能性食品（飼料） ③スイゼンジノリ ④水質浄化 ⑤緑化技術 ⑥納豆樹脂・保水剤
⑦沙漠化

主な研究業績(最近5年間)

- ・梶田聖孝、金子達雄（2009）、新発見「サクラン」と伝統のスイゼンジノリ、（株）ハート出版、東京。
- ・A.Koike, K.Kabata *etal* (2010)、Effect of Yacon silage on feed digestibility, blood characteristics and amount 8-OHdG in ewes, *Grassland Science*, 56, 95-100。
- ・A.Koike, K.Kabata *etal* (2009)、Cultivation and Ensilage of yacon plants and the function of yacon silage, *Grassland Science*, 55, 6-10。中藺孝裕、梶田聖孝ら（2008）、環境調和型修復技術の開発ーヘドロ・シードペレットの有効性ー、水環境学会誌、31, 621-625。
- ・M.Kaneko, K.Kabata *etal* (2007)、Extraction of Novel sulfate dpolysaccharides from Suizenjinori, *Pure and Applied Chemistry*, 79, 2039-2046。

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市環境審議員
- ・江津湖研究会会長
- ・熊本市硝酸性窒素対策委員会委員
- ・NPO法人九州バイオマスフォーラム理事長
- ・多良木町新エネルギー策定委員会会長
- ・南阿蘇村バイオマス推進委員会座長

可能な共同研究	スイゼンジノリの保全と活用、機能性飼料の開発
可能な技術提供	食品・飼料一般分析、脂質分析全般、江津湖環境調査
可能な講演題目	肥後の名産・スイゼンジノリと健康、水と大地など

地域の皆様へ

学会活動と並行して、江津湖研究会会長、九州バイオマスフォーラム理事長、熊本文化協会環境部会世話人などを務め、地域との繋がりを大切に活動していきたいと思っています。



久保田 弘

KUBOTA HIROSHI

所属・職名 熊本大学 衝撃・極限環境研究センター 教授

生 年 1955年

学 位 理学博士(東京大学)

専門分野 電子工学(半導体デバイス、電子材料、光・量子デバイス、電子回路等)、固体物性物理学

連絡先 電話：(096)342-3294

e-mail : kubota+secretary@cs.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①超精密高速ステージ開発 ②液晶用大面積超高速膜厚計測装置開発 ③半導体電気計測のためのナノプローブ技術と高周波計測技術開発
 ④ナノテクノロジーを応用した細胞内構造体の手術・操作装置の開発 ⑤電子線直描・液晶レチクルオンライン電子回路/パターンング技術の開発
 キーワード：①新製造科学 ②超精密ステージ ③触覚センサ・MEMS ④低次元伝導体
 ⑤短工期(QTAT)レチクルフリー・電子線リソグラフィ ⑥ナノサーチャリー・ナノプローブ

主な研究業績(最近5年間)

- 1) Katsuhiko Wakasugi, Satoshi Wakimoto, Akira Nakada, Ichiro Ohshima, Hiroshi Kubota, and Kazumitsu Nakamura, "Design and fabrication of MOS device circuit with reticle-free exposure method." to be published in Japanese Journal of Applied Physics, vol. 44, no. 4B, pp.2279-2282, 2005
- 2) Koichi Hontake, Yasuhiro Wakizaka, Akihiko Furuya, Daisuke Uchida, Koichiro Kuribayashi, Tomoko Noda, Masahiko Sugimura, Mitsuyasu Chikuma, Sotaro Toki, Jun Sasaki, Muneaki Hagiwara, Akira Nakada, and Hiroshi Kubota, "Copper plating method on the flat surface for high frequency signal transfer." Japanese Journal of Applied Physics, vol. 44, no. 9A, pp. 6719-6725, 2005.
- 3) Hayama, T., Shinjo, N., Nakada, A., Kubota, H., Aikawa, S., Watanabe, Y., Fujii, T., "A quick inspection of wide area uniformity of resist thickness for flat panel display manufacturing", International Display Manufacturing Conference and Exhibition, IDMC'05, 2005, Pages 642-645.
- 4) Kouji Kosaka, Tetsuya Iwabuchi, Tetsuro Baba, Taishi Endo, Hiroyuki Hashiguchi, Hiroyuki Furukawa, Yoshiya Egashira, Seiji Hashimoto, Mutsumi Touge, Kiyohiko Uozumi, Akira Nakada, Hiroshi Kubota, Tadahiro Ohmi, "A Wear Reduction Method for the Frictionally Fast Feeding Piezo-Actuator", in Japanese Journal of Applied Physics, Vol. 45, No. 2A : pp.1005-1011 Feb 15, 2006.
- 5) Fumito Imura, Hiroyuki Kuroiwa, Akira Nakada, Kouji Kosaka, and Hiroshi Kubota, "Attoliter Control of Microliquid", Japanese Journal of Applied Physics, Vol. 46, No. 11, 2007, pp. 7519-7523.
- 6) Kagami, H., Kubota, H., "Applying the dynamical model of drying process of a polymer solution coated on a flat substrate to effects of bumpy substrate", Proceedings of SPIE - The International Society for Optical Engineering 7764, art. no. 77640T, 4 August, 2010.

主な社会活動等(最近5年間)

- 1) 第一回産学連携功労者表彰 文部科学大臣賞(2003)
- 2) 第二回ものづくり日本大賞優秀賞 経済産業大臣賞(2007)
- 3) 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員H19年度～
- 4) NEDO「次世代半導体材料・プロセス基盤(MIRAI)プロジェクト」評価委員2009.3
- 5) 経済産業省 地域活性化のための技術力向上に関するワーキンググループ検討委員H21.3
- 6) International Symposium on Thermal Design and Thermophysical Property for Electronics (e-Therm 2008 e-Therm 2010) Organizing Committee.

可能な共同研究	「高出力電圧電子機器圧力センサーチップ、ロボット触覚センサー試作」・「三次元形状計測フォトニックリソグラフィー等微細加工表面処理ARコート」・「AEセンサーによる信頼性評価」 「搬送モニタリングと高効率生産プロセス(原料組み合わせ問題)」・「大型FPD用検査FPDアラートステータス映像デバイス高速画像処理レジストコーティング省エネプロセス」 「ナノサーチャリーナノドクター(医療用マイクロマシン)」・「高速LSIテスト映像デバイステスト光学系と電気測定ハイブリッドインターポーター配線実装設計、断線検査」 「マニピュレーションシステム、チップ積層実装ハンドリング、ウェアテスト」・「RFアンテナ、高面積デバイスレチクルフリーリソグラフィ」・「MEMS部品QTAT形成マイクロファブリカクター等無電解めっき技術開発(SiP, SoC)電子ペーパー(記録技術)」
可能な技術提供	・技術名「縮小投影露光装置用ユニバーサルレチクル技術」(このテーマを公開します) ○関連する分野液晶材料○技術概要説明従来のレチクルと同等に取り扱える汎用性を持ち、しかも回路設計システムと無線通信方式により直結されたユニバーサルレチクルを実現し、低コストで短期間に半導体集積回路を生産する為の新しい微細加工ツールを提供する。・技術名「触覚センサー高密度実装技術」(このテーマを公開します) ○関連する分野ライフサイエンス○技術概要説明圧力や温度を検知する多数の半導体触覚センサーチップを絶縁シート上に高密度実装するフレキシブルアライナーを開発する。・圧力や流速の2次元イメージングにも応用する。 ・技術名「汎用超精密ステージシステム技術」(このテーマを公開します) ○関連する分野ナノテクノロジー○技術概要説明共振型超音波モータの完全スケールフリーサーボ制御ドライバを開発し、従来不可欠であった位置検出器を不要とし、低価格で汎用性がありしかも耐久性にも優れた画期的超精密ステージシステムを開発する。・技術名「リアルタイムLCDプロセス薄膜検査技術」(このテーマを公開します) ○関連する分野製造技術○技術概要説明大型液晶TVの普及に伴いLCD製造プロセスの課題はより困難になっている。その1つである膜厚検査が本テーマの開発により、ハイコストパフォーマンスな検査装置を創出し、その結果液晶TVの大型化、一般普及をよりいっそう促進する。・技術名「電子線計測CD-SEM3次元形状計測技術」(このテーマを公開します) ○関連する分野情報通信○技術概要説明半導体/ターンの3次元形状計測を行う電子ビーム測長機を開発、ビーム偏光と焦点調節にフォーカスしたインラインインターフェースを構築。
可能な講演題目	1)超精密半導体計測技術とQTAT生産拠点の形成 2)地域クラスターと中小企業 3)熊本の半導体製造企業集積からQTATクラスターへ 4)変わる大学～産学連携のあり方 5)超精密半導体計測技術開発の概要～ナノ単位で駆動するビーム電子子を活用した超精密ステージ 6)半導体最先端製造現場における産学官連携 7)すばる天体望遠鏡主鏡部のAE法による監視 8)チップ全面プローブ計測のための高精度マニピュレータ 9)液晶ディスプレイによる微細パターン形成技術を用いたMOSデバイスの設計・製作 10)産学官連携による地域イノベーションシステム 11)熊本地域の企業・大学・県立施設との半導体関連分野研究～超精密半導体計測技術開発 12)エレクトロニクスの世界へ見えない電子が社会を持続的に発展させる 13)ユビキタス社会の実現に向けて 14)半導体プロセス技術を活用した地域振興 15)自発光デバイスを用いたレチクルフリー露光システム 16)知識基盤情報技術によるインライン先端計測技術 17)科学技術を核とした地域復興政策提言～新製造技術による量産の高度化 18)新製造技術による量産の高度化

地域の皆様へ

産業のグローバル化が進む中で、日本企業の生産拠点の九州回帰が始動している。世界的競争の転換期を迎えている半導体業界において、「量産現場の大革新の方向性」と、「高コストな人材によってでもなお、高効率・先導的な量産現場を日本国内・九州地域に配置する」ことへの明確な意味付け、すなわち、オペレーションではなくエンジニアリングで勝負する産業構造が求められている。熊本大学の研究開発・高度人材育成機関と量産ものづくり現場との地域における連携により、半導体製造現場への新製造科学の組み込みを推進し、半導体製造の国際競争力の強化を図ることが強く求められている。



古賀 実

KOGA MINORU

所属・職名 熊本県立大学 学長 環境共生学部 教授

生 年 1949年

学 位 理学博士(九州大学)

専門分野 環境分析化学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①環境中微量有害物質の分析法の開発
- ②微量物質の環境中動態
- ③微量物質の健康影響評価
- ④有害物質の処理

キーワード：①環境 ②環境分析 ③有害物質

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・共著, The degradation of diethyl phthalate (DEP) during ozonation: oxidation by-products study, Journal of Water and Health, 2010/2,290-298
- ・共著, Determination and Characterization of Hydroxylated Polychlorinated Biphenyls (OH-PCBs) in Serum and Adipose Tissue of Japanese Women Diagnosed with Breast Cancer, Environmental Science and Technology 2009/8
- ・共著, Acute toxicity of pharmaceutical and personal care products on freshwater crustacean (Thamnocephalus platyurus) and fish (Oryzias latipes), The Journal of Toxicological Sciences, 2009/2, 227-232

主な社会活動等(最近5年間)

- ・(財)水保・芦北地域振興財団理事(2010年5月～)
- ・熊本県私立学校審議会委員(2010年6月～)
- ・熊本県教育振興基本計画「くまもと『夢への架け橋』教育推進委員会委員長(2009年9月～)
- ・熊本赤十字病院治験審査委員会委員(2009年4月～)
- ・熊本県教育振興基本計画検討委員会委員長(2008年1月～2009年)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=gaku&back=t> をご参照ください。



重石 光弘

SHIGEISHI MITSUHIRO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 准教授

生 年 1962年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 建設材料学、応用力学、土木構造診断学

連絡先 電話：(096)342-3534

e-mail：shigeishi@civil.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①パルスパワー利用による素材量の再生処理に関する研究
- ②産業廃棄物の建設材料への適用に関する研究
- ③コンクリート補修・補強材料に関する研究
- ④弾性波法による材料評価・構造診断に関する研究

キーワード：①コンクリート ②新工法 ③再生骨材 ④産業廃棄物 ⑤リサイクル ⑥低環境負荷

主な研究業績(最近5年間)

- ・ペーパースラッジ焼却灰とバサルトファイバーを用いた繊維補強セメント複合材料の開発（日本コンクリート工学協会平成21年度九州支部長）
- ・コンクリート内パルスパワー放電法によるRC床部材再生処理（土木学会平成21年度全国大会 第64回年次学術講演会優秀講演賞）
- ・パルスパワー放電法における電極位置が骨材再生時の消費エネルギーに及ぼす影響（2009年日本コンクリート工学協会年次論文奨励賞）
- ・電気パルス放電方式によって製造される再生粗骨材のワイブル分布を用いた品質管理手法に関する研究（2008年日本コンクリート工学協会年次論文奨励賞）

主な社会活動等(最近5年間)

- ・パルスパワーによる廃コンクリート製品からの骨材回収技術に関する事業創出研究会代表
- ・国土交通省九州地方整備局土木コンクリート構造物品質確保連絡会委員
- ・パルスパワー再生骨材製造技術実用化コンソーシアム幹事
- ・日本コンクリート工学協会「コンクリート工学」編集委員

可能な共同研究	パルスパワー技術応用、各種建設材料の開発
可能な技術提供	弾性波法非破壊検査技術、耐久試験(環境試験)、各種建設材料試験
可能な講演題目	最先端のコンクリートリサイクル技術、アコースティック・エミッション

地域の皆様へ

石炭焼却灰などの産業廃棄物、特に建設により排出されたり発生する不用物の適正な処理は言うまでもありませんが、これを適切に、そして有効に利用できれば持続可能な社会を実現できる可能性が広がります。社会と自然の環境問題を解決すべく、素材と廃棄物の「地産池消」に取り組んでいます。



篠原 亮太

SHINOHARA RYOTA

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 地域連携センター長 教授

生 年 1947年

学 位 薬学博士(岐阜薬科大学)

専門分野 水環境科学、有機化学、微量有機物質分析学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①コンポスト中有害化学物質の動態
- ②水環境中微量化学物質の動態
- ③外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）の生態系影響
- ④水の高度処理
- ⑤干潟における多環芳香族炭化水素の光化学反応

キーワード：①水環境 ②有機化学 ③微量有機物質

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、健康と環境の衛生薬学、京都廣川書店、2010/3、427-464

■ 論文

- ・単著、水環境中微量化学物質の過去、現在、未来、水環境学会誌、2010/7、33 (198-202)
- ・共著、下水汚泥・畜産廃棄物を原料とした再生肥料（コンポスト）中医薬品の存在、水環境学会誌、2010/5、33 (152-155)
- ・単著、医薬品類による環境汚染の現状と課題、公衆衛生、2010/4、Vol 74 (300-304)

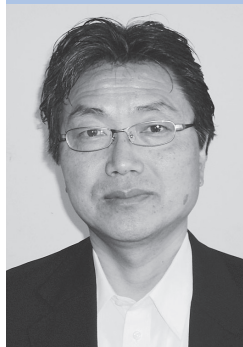
主な社会活動等(最近5年間)

- ・環境省容器包装廃棄物排出抑制推進員（3R推進マイスター）（2010年～）
- ・熊本県新エネルギー導入推進戦略プラン検討委員会委員長（2010年～）
- ・熊本県地下水条例改正検討委員会委員（2010年～）
- ・熊本県山都町新エネ・省エネビジョン策定委員会委員長（2010年～）
- ・熊本県菊池環境保全組立環境工場建設候補区域選定委員会委員長（2010年～）

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=31&back=c> をご参照ください。



田中 昭雄

TANAKA AKIO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 特任教授

生 年 1959年

学 位 博士(環境科学)(熊本大学)

専門分野 計算機統計学、太陽電池、地域環境負荷評価

連絡先 電話：(096)342-3905

e-mail：a-tanaka@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①地域温室効果ガス排出量研究
- ②太陽電池運用実績評価
- ③民生環境負荷評価
- ④スマートグリッド
- ⑤衛星画像解析

キーワード：①民生部門 ②太陽電 ③ベイジアンネットワーク ④ニューラルネットワーク
⑤エネルギー管理システム ⑥GIS

主な研究業績(最近5年間)

- ・田中昭雄, 酒井孝司, 石原修孝司(2010)：バンコクにおける傾斜面日射量と分光放射照度推定手法の研究, 日本建築学会環境系論文集, Vol.75, No.648, pp.165-170, (社)日本建築学会
- ・田中昭雄, 石原修(2009)：環境都市水俣の温室効果ガス排出量の推定, エネルギー資源, 177号, pp.261-264, (社)エネルギー資源学会
- ・田中昭雄, 久保 隆太郎, 中上英俊, 石原 修(2008)：世帯属性を考慮した住宅用エネルギー消費原単位の推定と将来予測, 日本建築学会環境系論文集, No.528, pp.823-830, (社)日本建築学会
- ・田中昭雄(2007)：統計データからみた生活・住宅対策について, 家庭・業務部門の温暖化対策, pp.31-42, 独立行政法人国立環境研究所
- ・Akio Tanaka, Junji Nagasawa, Miki Yanagi, Yukari Yamashita, Kokichi Ito(2006)：Analyzing Residential Energy Consumption, Household Attribute and Regional Factors-- Maximum Likelihood Estimation of Unknown Data Using Genetic Algorithm --, IEEJ Energy Journal, pp.1-28, The Institute of Energy Economics, Japan
- ・田中昭雄, 小峯裕己, 関庸一, 三宅義彦(2006)：ニューラルネットワークによる住宅エネルギー消費構造モデルの研究, 空気調和・衛生工学会論文集, No.1111, pp.9-17, 空気調和・衛生工学会

主な社会活動等(最近5年間)

- ・(財)省エネルギーセンター 高効率エネルギー利用調査研究委員会 委員
- ・(社)日本建築学会 省CO2都市・地域システム小委員会 委員
- ・水俣市 緑の分権改革推進事業実証調査検討会 座長
- ・熊本県『中小企業のクリーンエネルギー導入及びEMS導入可能性に関する基礎調査』検討会議 座長
- ・熊本県 みなまた環境まちづくり研究会 委員
- ・最優秀論文賞(押田賞)受賞 (日本太陽エネルギー学会)

可能な共同研究	地域環境負荷調査研究、太陽電池発電量評価
可能な技術提供	
可能な講演題目	地球温暖化とエネルギー問題、住宅用太陽電池性能評価

地域の皆様へ

大きくなりすぎた人類の経済活動は、地球の許容量を超えつつあります。隣国の成功や経済発展をうらやむのではなく、科学的現状分析のもと、持続可能な社会とは何か知恵を絞る時代になったと思います。



田中 尚人

TANAKA NAOTO

所属・職名 熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

生 年 1971年

学 位 博士(工学)(京都大学)

専門分野 都市地域計画, 土木史, 景観論

連絡先 電話: (096)342-2040

e-mail: naotot@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①川まちづくりの実践
- ②地域マネジメント技術の開発
- ③文化的景観の保全
- ④土木遺産の活用⑤景観計画の策定

キーワード: ①まちづくり ②地域マネジメント ③文化的景観 ④土木遺産 ⑤水辺デザイン ⑥土木計画⑦文化政策

主な研究業績(最近5年間)

- 1) 歴史的土木建造物の保全, 土木学会歴史的建造物保全技術連合小委員(五十畑弘・田中尚人他, 分担執筆)編著, 鹿島出版会, pp.22-39, (2010).
- 2) 近代熊本都市計画における江津湖の位置づけに関する一考察, 本田百合絵・田中尚人, 土木史研究論文集, 査読有り, Vol.28, pp.127-135, (2009).
- 3) 風景のとらえ方・つくり方九州実践編, 小林一郎監修・風景デザイン研究会(田中尚人, 他9名, 分担執筆)著, 共立出版, pp.32-35, 40-43, 54-57, 70-73, 74-77, 96-99, 208-209, (2008).
- 4) 都市再生における道づくりーまちの触媒装置を考えるー, 田中尚人・中村良夫, 国際交通安全学会誌特集「かしこい」クルマの使い方を考える, 査読有り, Vol.33No.3, pp.42-50, (2008).
- 5) 水辺空間を基盤とした地域コミュニティの形成に関する研究, 中嶋伸恵・田中尚人・秋山孝正, 土木学会論文集D, 査読有り, Vol.64No.2, pp.168-178, (2008).
- 6) 風土に根ざしたインフラストラクチャー形成に関する研究ー柿野沢地区の道普請を事例としてー, 田中尚人・轟修・中嶋伸恵・多和田雅保, 土木学会論文集D, 査読有り, Vol.64No.2, pp.218-227, (2008).

主な社会活動等(最近5年間)

- ・フランス国立工芸院(CNAM) 客員研究員(2009.5~2010.3)
- ・天草市文化的景観学術検討委員会委員
- ・山都町「通潤用水と白糸台地の棚田景観」保全活用委員会委員
- ・佐賀県美しい景観づくりアドバイザー
- ・土木学会論文集編集委員会委員等

可能な共同研究	上記の研究テーマ, 研究業績, 社会活動に関するもの全て
可能な技術提供	上記の研究テーマ, 研究業績, 社会活動に関するもの全て
可能な講演題目	上記の研究テーマ, 研究業績, 社会活動に関するもの全て

地域の皆様へ

私は、土木工学を基盤に、川や道など、人々の生活や生業、地域の風土を支えてきたインフラストラクチャー（生活基盤施設）の歴史を研究しています。その知見を活かして、高齢社会を迎える地域に相応しい暮らし方、地域づくり、風景づくりを、地域住民や行政、様々な方々とともに考えて参りたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



千々岩 崇仁

CHIJIWA TAKAHITO

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 准教授

生 年 1968年

学 位 理学博士(九州大学)

専門分野 生化学、分子生物学

連絡先 電話：(096)326-3984

e-mail：chijiwa@life.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①ハブ毒活性の分子機構
- ②ハブ毒の多様性
- ③ハブ毒の分子進化
- ④ハブ毒の発現制御機構
- ⑤ハブ毒活性抑制法

キーワード：①Phospholipase A2 ②アインザイム ③加速進化 ④ハブ属ヘビ ⑤系統解析 ⑥島嶼 ⑦多様性

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Murakami T et al. (2011) Novel apoptotic cell death induced by venom phospholipase A2 isozymes of *Protobothrops flavoviridis*. *Biosci. Biotech. Biochem.* in press
- ・ So S et al. (2011) Identification and evolution of venom phospholipase A2 inhibitors from *Protobothrops elegans* serum. *Biosci. Biotech. Biochem.* in press
- ・ Ikeda N et al. (2010) Unique structural characteristics and evolution of a cluster of venom phospholipase A(2) isozyme genes of *Protobothrops flavoviridis* snake. *Gene*
- ・ Murakami T et al. (2009) Island specific expression of a novel [Lys(49)]phospholipase A(2) (BP111) in *Protobothrops flavoviridis* venom in Amami-Oshima, Japan. *Toxicon*
- ・ Matsubara K et al. (2008) Molecular cloning and characterization of the repetitive DNA sequences that comprise the constitutive heterochromatin of the A and B chromosomes of the Korean field mouse (*Apodemus peninsulae*, Muridae, Rodentia). *Chromosome Res.*
- ・ So S et al. (2009) Identification of the B subtype of gamma-phospholipase A2 inhibitor from *Protobothrops flavoviridis* serum and molecular evolution of snake serum phospholipase A2 inhibitors. *J. Mol. Evol.*

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 平成18年度日本生化学会九州支部学術奨励賞(2006年5月21日)

可能な共同研究	遺伝子の塩基配列解読と解析、タンパク質の解読および生化学的解析
可能な技術提供	核酸の抽出、クロマトグラフィー
可能な講演題目	生命の設計図、日本南西諸島の生物多様性

地域の皆様へ

大学は、その建物やキャンパスも含め、地域にとっての知性や文化の基盤の一つです。それは図書館や公開セミナーといった具体的な活動によってもたらされるだけでなく、密度高く歩く学生や教職員があり、それを日常として受け入れ、育まれる町並みによって醸し出される「大学街」という独特の雰囲気であることだと思います。大学とそのキャンパスを据えられた地域との協調的な生活環境が、劇的ではないがサステナブルな地域の盛り上がりと活性化をもたらすと思います。私たちは「街」という一つの文化をつくる共同責任者なのだと思います



堤 裕昭

TSUTSUMI HIROAKI

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 大学院環境共生学研究科長 教授

生 年 1956年

学 位 理学博士(九州大学)

専門分野 海洋生態学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①有明海生態系の異変のメカニズム
- ②干潟に生息するアサリやハマグリなどの二枚貝類の生態
- ③河口域に生息するヤマトシジミの生態
- ④イトゴカイの生態
- ⑤水棲生物の個体群動態解析

キーワード：①海洋環境 ②地域づくり ③地産地消

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、マイクロバブル・ナノバブルの最新技術(柘植秀樹監修)第7章 マイクロバブル・ナノバブルの応用. 6. 水産分野への応用、シーエムシー出版、2007、pp.222-239

■ 論文

- ・共著、Concluding remarks on the joint survey of macrobenthic fauna on Suncheon Tidal Flats by the participants of "Korea and Japan Joint Symposium on Biology of Tidal Flats 2009"、Plankton and Benthos Research、2010 5、pp.255-263.
- ・単著、持続可能な魚類養殖漁業の実現にむけて一魚類養殖漁業による環境悪化とその解決策一、日本海水学会誌、2010、64：pp.31-38
- ・単著、マイクロバブルとイトゴカイを用いた海底汚泥の浄化～魚類養殖による環境悪化とその解決策～、アクアネット11月号、2009、pp.40-45

主な社会活動等(最近5年間)

- ・福岡市 アイランドシティ整備事業環境モニタリング委員会委員(2008年7月～)
- ・国土交通省 宮崎海岸侵食対策検討委員会(2008年～)
- ・国土交通省 菊池川下流域自然再生委員会委員(2007年～)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=32&back=c> をご参照ください。



富永 昌人

MASATO TOMINAGA

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 准教授

生 年 1965年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 電気化学、生物電気化学、界面電気化学

連絡先 電話：(096)342-3656

e-mail：masato@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①カーボンナノチューブ上での電気化学反応
- ②バイオ分子の電極反応
- ③金属ナノ粒子上での電気化学触媒反応

キーワード：①カーボンナノチューブ ②酵素 ③センサ ④バイオ電池 ⑤金属ナノ粒子 ⑥電気化学触媒反応 ⑦燃料電池

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 富永昌人, 「フェリチンタンパク質のナノスペース電気化学反応とナノ構造体創製」
表面, 広信社, 47(3)(2009)96-107.
- ・ M.Tominaga, S.Nomura, I.Taniguchi,
"D-Fructose Detection Based on the Direct Heterogeneous Electron Transfer Reaction of Fructose Dehydrogenase Adsorbed onto Multi-walled Carbon Nanotubes Synthesized on Platinum Electrode", Biosensors and Bioelectronics, 24(5) (2009) 1184-1188.
- ・ M.Tominaga, M.Ohtani, I.Taniguchi,
"Gold Single-Crystal Electrode Surface Modified with Self-Assembled Monolayers for Electron Tunneling with Bilirubin Oxidase", Physical Chemistry Chemical Physics, 10(46)(2008)6928-6934.
- ・ M.Tominaga, S.Nomura, I.Taniguchi,
"Bioelectrocatalytic Current Based on Direct Heterogeneous Electron Transfer Reaction of Glucose Oxidase Adsorbed on to Multi-Walled Carbon Nanotubes Synthesized on Platinum Electrode Surfaces", Electrochemistry Communications, 10(6)(2008)888-890.
- ・ M.Tominaga, T.Shimazoe, M.Nagashima, I.Taniguchi,
"Composition-Activity Relationships of Carbon Electrode-Supported Bimetallic Gold-Silver Nanoparticles in Electrocatalytic Oxidation of Glucose", Journal of Electroanalytical Chemistry, 615(1)(2008)51-61.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ くまもと技術革新・融合研究会(RIST)会員
- ・ 九州工学教育協会会員
- ・ 社団法人日本工学教育協会会員

可能な共同研究	バイオ電池研究開発、バイオセンサ研究開発、金属ナノ粒子電気化学触媒反応
可能な技術提供	炭素素材分析法、金属ナノ粒子修飾電極作製法、化学センサ(特にバイオセンサ)作製法
可能な講演題目	酵素を用いたバイオセンサ・バイオ電池、カーボンナノチューブ電極

地域の皆様へ

熊本で、育ち・学び・生活、させて頂いています。熊本の発展の一助になれば幸いです。研究は電気化学を基礎にしています。現在、注目度の高い燃料電池はもとより、バイオセンサやバイオ電池などバイオ系の分野を取り入れた生物電気化学の研究にも力を入れています。基礎的な部分を研究の主としていますが、共同研究・開発を通しての応用分野にも興味があります。技術相談にも積極的に応じたいと考えています。地域社会の教育・文化の向上・発展への貢献、そして熊本の教育環境の向上に少しでも寄与できたら幸いです。



中嶋 卓雄

NAKASHIMA TAKUO

所属・職名 東海大学 産業工学部 電子知能システム工学科 教授

生 年 1956年

学 位 博士(工学)

専門分野 計算機システム・ネットワーク

連絡先 電話：(096)386-2837

e-mail : taku@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①コンピュータネットワークプロトコルに関する研究
- ②パフォーマンス評価に関する研究
- ③ネットワークセキュリティに関する研究
- ④アクティブキュー制御に関する研究
- ⑤輻輳制御に関する研究

キーワード：①TCP ②AQM ③AdHocネットワーク ④パフォーマンス評価 ⑤セキュリティ ⑥Heavy-tailedトラフィック
⑦エントロピー

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Takuo Nakashima, Queueing Property for Different type of Self-similar Traffics, International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), vol.6, no.3(B),pp1279-1288 (2010).
- ・ Shunsuke Oshima and Takuo Nakashima, Performance Evaluation for Linux under SYN Flooding Attacks, International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol.5, No.3, pp.555-565 (2009).
- ・ Takuo Nakashima, Natsuru Yamamura, Flooding Features for the AODV Protocol, Proc. of the 2009 International Conference on Wireless Networks (ICWN'09),Vol.II, pp468-473 (2009).
- ・ Takuo Nakashima and Toshinori Sueyoshi, Self-similar Properties under the Bandwidth Restraint, International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol.3, No.3, pp.495-507 (2007).
- ・ Takuo Nakashima, Evaluations of Web Server Performance with Heavy-tailedness, 情報処理学会論文誌、 Vol. 48, No.2, pp.505-513 (2007).
- ・ Takuo Nakashima, Propagation Property of Jitter with Self-similarity, International Journal of Innovative Computing, Information and Control (IJICIC), Vol. 2, No. 3, pp.567-580 (2006)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 情報処理学会九州支部評議員
- ・ 情報処理学会マルチメディアと分散処理運営委員
- ・ 山下記念研究賞受賞、情報処理学会
- ・ 松前重義賞(学術部門)、東海大学
- ・ The 15th IPSJ Workshop on Multimedia Communication and Distributed Processing Outstanding Paper Award, 情報処理学会
- ・ The 17th IPSJ Workshop on Multimedia Communication and Distributed Processing Outstanding Paper Award, 情報処理学会

可能な共同研究	ネットワークパフォーマンスの評価、ネットワークセキュリティ、Ad Hoc無線ネットワークプロトコル
可能な技術提供	攻撃パケットの統計解析、トラフィック生成技術、無線ネットワークルーティング技術
可能な講演題目	ネットワークパフォーマンスの評価、IDS、 ネットワークセキュリティ、AdHoc無線ネットワーク

地域の皆様へ

コンピュータネットワークの特にIPレイヤに注目して、研究は続けていますが、センサーネットワークおよびAdHoc無線ネットワークの構築および、ルーティングプロトコルの評価など、幅広くネットワークに関係したテーマの研究を続けています。

特に、ここ2、3年において、IPレイヤでのセキュリティに注目して、ネットワーク型のIDSの開発、その中で利用できるエントロピーや χ^2 乗検定などの統計解析に基づくアルゴリズムの開発を行っています。



松崎 弘美

MATSUSAKI HIROMI

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 准教授

生 年 1969年

学 位 博士(農学)(九州大学)

専門分野 応用微生物学、食品微生物学、遺伝子工学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①乳酸菌の保存性・機能性を利用した食品開発
- ②バイオプラスチックの生合成

キーワード：①バイオ ②循環型社会 ③健康づくり(食)

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・共著, DNA microarray analysis of genomic responses of yeast *Saccharomyces cerevisiae* to nickel chloride., *J. Toxicol. Sci.*, 35 (1), 2010/2, 125-129
- ・共著, Behavior and mutation of *Ralstonia solanacearum* in *Solanum toxicarium* grown in aseptic culture, *J.Gen.Plant Pathol.*,73(2), 2007/4, 142-146
- ・共著, Application of DNA microarray analysis to wastewater containing heavy metals discharged from university laboratories., *Jpn. J. Environ. Toxicol.*,8(1), 2005/6, 1-11
- ・共著, Application of yeast DNA microarray to evaluate the environmental risk of leachate and the treated leachate of waste disposal site., *J. Environ. Chem.*,15(2), 2005/6, 369-377

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本学術振興会拠点大学方式学術交流事業(山口大学拠点)「耐熱性微生物による生体高分子及び生理活性物質の生産(抗菌物質を生産する耐熱性乳酸菌の探索と利用)」(2000年～2007年)
- ・経済産業省産学人材育成パートナーシップ事業「農工商連携による「地域機能性食品のブランド化に必要な中核バイオ人材育成」」プログラム委員(2008年度～2010年度)
- ・バイオテクノロジー研究推進会企画委員・評議員(2010年～現在)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

バイオ技術や微生物の多様な機能を利用して、地域特産物を用いた機能性食品の開発や地場産業(食品会社など)の振興に役立ちたいと考えています。その中で環境低負荷型で持続成長可能な環境共生型の社会を構築することを目指します。



吉永 圭介

YOSHINAGA KEISUKE

所属・職名 熊本高等専門学校 生物化学システム工学科 助教

生 年 1978年

学 位 工学博士

専門分野 免疫学、抗体工学

連絡先 電話：(0965) 53-1378

e-mail : yoshinaga@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①初期免疫を活性化する物質（アジュバント）によるシグナル伝達の解析
- ②有尾両生類の抗体の多様化、免疫系の成熟に重要な遺伝子群の解析
- ③新しいタイプの抗体ライブラリ設計・構築
- ④抗体分子を物質の検出や分離・精製に応用する方法

キーワード：①アジュバント ②抗体 ③ファージディスプレイ法 ④比較免疫学

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Ig L-chain Shuffling for Affinity Maturation of Phage Library-derived Human Anti-human MCP-1 Antibody Blocking its Chemotactic Activity. J. Biochem. 143: 593-601, (2008)
- ・ 疎水化γ-PGA ナノ粒子デリバリーにおける樹状細胞の活性化メカニズムの解析 日本DDS学会 2010年
- ・ 疎水化γ-PGA ナノ粒子における樹状細胞の活性化シグナルの解析 日本生化学会九州支部例会 2010年
- ・ L鎖交差法による抗ヒトMCP-1 ヒト抗体の親和性向上 日本免疫学会 2008年

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	抗体の工学的応用技術、両生類を用いた免疫の研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	

地域の皆様へ

抗体や免疫だけでなく、生物関連の相談には応じますので、お気軽にご相談ください。基礎研究だけでなく、地域に貢献できる研究もしたいと考えております。



出田 敬三

IDETA KEIZO

所属・職名 平成音楽大学 学長・教授

生 年 1955年

学 位 音楽学士／ディプロマ

専門分野 作曲・指揮

連絡先 電話：(096)282-0506

e-mail：pre-sec@heisei-music.ac.jp

研究テーマ

- ①熊本をテーマにした創作作品（作曲・編曲・採譜）の研究とその実践
- ②こどもをテーマとした作曲作品（童謡・こどものうた）
- ③現代音楽作曲作品の研究と創作
- ④各ジャンルの音楽プロデュース（企画・構成・編曲）
- ⑤各ジャンルの楽曲の指揮（オペラ・合唱・オーケストラ等）

キーワード：①作曲 ②編曲 ③指揮 ④音楽 ⑤童謡 ⑥熊本 ⑦演奏

主な研究業績(最近5年間)

- ・2007年熊本城築城400年記念オペラ「南風吹けば楠若葉」を熊本県より委嘱、自らの指揮で初演（作曲）
- ・2008年「日本の作曲家2008」（東京・サントリーホール）にてマリンバとピアノのための「ノスタルジア」初演（作曲）
- ・2009年「ファゴット協奏曲」（委嘱作品）がオーストリア・リンツにて初演（作曲）
- ・2010年「現代日本の交響楽」演奏会（ロシア・ウラジオストック）にて作品演奏（作曲）
- ・2011年（平成23年度）小学校音楽科教科書（教育出版）に「どんなゆめ」掲載（作曲）
- ・毎年、童謡祭（日本童謡協会主催）にて初演（作曲）

主な社会活動等（最近5年間）

- ・日本作曲家協会・日本現代音楽協会・日本童謡協会各会員
- ・日本音楽著作権協会正会員
- ・日本電子キーボード学会副代表
- ・全国音楽療法士養成協議会副会長・理事
- ・NHK全国学校音楽コンクール、飯塚新人音楽コンクール、熊本県小・中学校作曲コンクール、全国童謡歌唱コンクール他、多数の審査員
- ・2010年全日本音楽教育研究会全国大会熊本大会合同演奏指揮

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	
可能な技術提供	指揮、作曲、編曲、採譜、プロデュース、演奏
可能な講演題目	

地域の皆様へ

熊本の阿蘇をはじめとするすばらしい自然、日本を代表する名城の熊本城、各地に残る「子守唄」や「わらべうた」などを大切にしながら、今年開通する九州新幹線など、新しいものも視野に入れ、音楽を通して熊本を再発見するとともに、たくさんの方々と同じ地域文化向上と教育に貢献できればと思います。



今西 利之

IMANISHI TOSHIYUKI

所属・職名 熊本大学 国際化推進センター 講師

生 年 1968年

学 位 修士(文学)(神戸市外国語大学)

専門分野 日本語学、本語教育学

連絡先 電話：(096)342-2107

e-mail：imanishi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①現代日本語の文法
- ②外国人への日本語教育
- ③外国人への情報提供

キーワード：①日本語の文法 ②日本語教育の方法・内容 ③フォリナー・ライティング

主な研究業績(最近5年間)

- ・今西利之(2006)「文書による留学生への情報伝達をめぐって-『フォリナー・ライティング』研究にむけた取り組み-」
『熊本大学留学生センター紀要』第9号(熊本大学留学生センター)
- ・神崎道太郎・今西利之(2007)「日本語教育における初級語彙をめぐって-初級教科書の語彙選定に関する諸問題-」
『間谷論集』創刊号(日本語日本文化教育研究会)
- ・今西利之(2007)「フォリナー・ライティングの具体例とその分析」 『熊本大学留学生センター紀要』10号
(熊本大学留学生センター)
- ・今西利之・神崎道太郎(2008)「日本語教育初級教科書提示語彙の数量的考察」 『熊本大学留学生センター紀要』11号
(熊本大学留学生センター)
- ・今西利之(2008)「いわゆる『生活の手引き』の語彙についての覚え書き-フォリナー・ライティング研究の視点から-」
『熊本大学留学生センター紀要』12号(熊本大学留学生センター)
- ・今西利之(2010)「いわゆる『生活の手引き』の語彙についての覚え書き(その2)」 『熊本大学国際化推進センター紀要』1号
(熊本大学国際化推進センター)

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	現代日本語の文法、外国人への日本語教育、外国人への情報提供
可能な技術提供	
可能な講演題目	外国人と日本語、異文化理解と日本語

地域の皆様へ

熊本にも多くの外国人が生活しています。彼らは日本人と接し、日本語を学ぶ機会を求めています。彼らが学ぶ日本語とはどんなもののでしょうか。彼らはどのように日本語を学んでいくのでしょうか。また、生活者としての外国人への情報提供は十分行われているのでしょうか。地域の問題として考えてみたいと思っています。



上田 愛彦

UEDA YOSHIHIKO

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 准教授

生 年 1960年

学 位 ベルリン芸術大学

専門分野 木管楽器オーボエのプロフェッショナルな演奏法

連絡先 電話：(090)4485-4301

e-mail：suedama17911205@i.softbank.jp

URL <http://suedama17911205.jimdo.com/>

研究テーマ

①オーボエ演奏法研究

キーワード：①バロック音楽演奏法 ②現代音楽演奏法

主な研究業績(最近5年間)

- 上田愛彦後援会Liebeの会主催上田愛彦第8回オーボエリサイタルinHiroshima
2010年年1月23日広島市中区大手町広島県民文化センターホール・
- フルートとピアノとオーボエの19世紀のフランスのサロン音楽の曲集についての研究およびコンサート
2007年5月27日平成18年度ハノーバーの日記念催事広島市南区広島留学生会館
6月9日魅惑の里森のコンサート広島県廿日市市吉和魅惑の里内ふれあいホール
6月26日広島市民病院サロンコンサート広島市中区広島市民病院講堂他
- Messegeför Tomorrowヒロシマの心を世界に
2007～10年8月6日広島国際会議場フェニックスホール
- 3.19 (ミュージックの日) 「日本音楽家ユニオン春の街角コンサート」<http://www.muj.or.jp/contents/spring/2010.html>
2010年3月22日広島市中区紙屋町ヤマハ広島店ステージ
- 広島市安佐北区可部町柏屋コンサートサロン第12回町家コンサート
2010年5月22日広島市安佐北区可部町柏屋コンサートサロン
<http://kashiwayairie.fc2rs.com/matiyakonsa-to/matiyakonsa-to.htm>
- オーストリア連邦共和国ウィーン市ピリステン教会コンサート
2010年12月28日ウィーン市ピリステン教会出田敬三作曲オーボエ・ソロのための「竹林を渡る風」を演奏
そのほかのコンサート活動については<http://suedama17911205.jimdo.com/コンサートフォトギャラリー/>を参照してください。

主な社会活動等(最近5年間)

- NHK広島文化センター講座2006～2009年平成音楽大学准教授上田愛彦による「クラシック音楽が楽しくなるスーパー鑑賞法」
- 財団法人広島平和文化センター主催平成17～22年度ハノーバーの日記念催事
2006年～2010年5月に開催された広島市の国際交流行事、国際平和都市広島市と姉妹都市提携を結んでいるドイツ連邦共和国のハノーファー市との国際交流の一環として演奏、国際平和都市広島市とドイツ連邦共和国ハノーファー市との国際交流に貢献した。[http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/info/repo-to-naiyou%2043\(hannover2009\).html](http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/info/repo-to-naiyou%2043(hannover2009).html)
- 青少年国際平和未来会議ヒロシマ2007.2009
広島平和記念公園内国際会議場で開催されるヒロシマの心を世界に2008～10に出演演奏被爆65周年を迎える国際平和都市ヒロシマより世界平和のメッセージを発信する一員として演奏した<http://ww2.enjoy.ne.jp/inter-youth/IYCPF2009.pdf>
- 広島芸術学会
- 広島日独協会●広島オーストリア協会国際平和都市広島市とドイツ、オーストリア、両連邦共和国の国際交流に貢献した

地域の皆様へ

世界に音楽家を輩出した桐朋学園や、その後本物の音楽を知ることが出来たベルリン芸術大学やベルリンの音楽環境で研鑽を積んだ私の経験を基に音楽の質の向上に貢献したい。また、広島で育ち多くの教育を受けた平和の大切さを学んだことや、その他、クリスチャンである家族から「隣人を愛せよ」との教育を受け、さらに旧西ベルリンで、自由の大切さを学べた経験から芽生えた感性からも地域の文化向上に貢献したい

そのほかの活動については<http://suedama17911205.jimdo.com/>を参照してください



大石 陽子

OISHI YOKO

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 音楽学科 准教授

生 年 1956年

学 位 音楽修士(武蔵野音楽大学)

専門分野 音楽(ピアノ)

連絡先 電話：(0968)53-0112

e-mail：oishi@heisei-music.ac.jp

研究テーマ

- ①シューベルトのピアノ音楽
- ②古典派のソナタ
- ③室内楽のピアノ
- ④表現のための技術指導法

キーワード：①音楽の本質 ②言葉としての音楽 ③ポリフォニー ④読譜力 ⑤拍子感

主な研究業績(最近5年間)

- ・第39回九州公私立大学音楽学会研究演奏発表(2007年10月)福岡市
- ・大石陽子ピアノリサイタル(2008年6、7月)熊本市・福岡市
- ・大石陽子&安田文子withザルツブルガー・ゾリステン室内楽の夕べ(2008年11月)東京都
- ・玉名演奏者協会創立30周年記念演奏会(2008年11月)玉名市
- ・大石陽子&ザルツブルガー・ゾリステン室内楽の夕べ(2009年11月)東京都
- ・古澤嗣佳子クラリネットリサイタル共演(2010年9月)益城町

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県文化講話会会員(洋楽)
- ・熊本県新人演奏会実行委員
- ・日本ピアノ教育連盟熊本地区副責任者
- ・九州公私立大学音楽学会理事
- ・玉名演奏者協会会長

可能な共同研究	アンサンブルの指導法
可能な技術提供	打鍵法、ペダル研究
可能な講演題目	日常生活と音楽、音楽は言葉である、打鍵法と音色、私と音楽

地域の皆様へ

音楽は衣食住に直接関係するものではないのに、何故人の心に響いたり、大きな影響を与えることができるのだろうか。私は常に真剣で楽しい音楽を心掛けている。人の心の琴線に触れることができるのは、本物の音楽であると確信しているし、音楽は楽しく温かいものでなければと思う。地域の方々にそんな音楽の小さな喜びを提供できて、音楽っていいものだ、と感じて頂き、皆で元氣になれるのが私の希望です。



桑原 理恵

KUWAHARA RIE

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 音楽学科 准教授

生 年 1967年

学 位 芸術学士(東京芸術大学)

専門分野 声楽(メゾ・ソプラノ)

連絡先 電話：(096)366-5026

研究テーマ

- ①ドイツ歌曲
- ②宗教曲
- ③ディクショントと歌唱
- ④声楽アンサンブル

キーワード：①リート ②シューマン「女の愛と生涯」 ③重唱 ④R.シュトラウス

主な研究業績(最近5年間)

- ・2006年3月20日桑原理恵メゾ・ソプラノリサイタル(熊本市総合女性センター)
- ・2006年6月10日熊本オペラ芸術協会主催オペラ「魔笛」出演/侍女Ⅱ役(熊本県立劇場演劇ホール)
- ・2007年12月8日ヘンデル作曲：オラトリオ「メサイア」/アルトソロ(熊本県立劇場コンサートホール)
- ・2008年3月8日八代演奏者協会主催オペラ「フィガロの結婚」出演/ケルビーノ役(やつしろハーモニーホール)
- ・2009年3月9日LiederAbend～ドイツ歌曲と重唱によるジョイントリサイタル～(熊本市健軍文化会館ホール)
- ・2010年11月23日モーツァルト作曲：「レクイエム」/アルトソロ(熊本県立劇場コンサートホール)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本オペラ芸術協会理事

可能な共同研究	
可能な技術提供	歌唱指導
可能な講演題目	歌唱講座

地域の皆様へ

「歌うこと」は奥深く、私自身、探求し続けているところです。その中で今わかっていること、発見したことを大切に伝えていきたいと思っています。歌を通して“心とからだを解き放つ”ことを多くの方々に経験して頂きたいと願っています。



三枝 泰之

SAEGUSA YASUYUKI

所属・職名 崇城大学 芸術学部 教授

生 年 1958年

学 位 芸術工学府後期博士課程在学(九州大学)、文学士(和光大学)

専門分野 グラフィックデザイン学

連絡先 電話：(096)211-3190

e-mail：lunacy@art.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①国際アート・ネットワーク研究
- ②寺山修司研究
- ③戦後グラフィズム研究
- ④表象文化研究

キーワード：①アレゴリーの演劇 ②劇場と表象文化 ③インスタレーション ④再現と一回性
⑤火山活動とアート ⑥地域と文化 ⑦阿蘇

主な研究業績(最近5年間)

- ・『寺山修司』アレゴリーの演劇(2007年)寺山修司研究[創刊号]国際寺山修司学会
- ・『オルタナティブなアート・ネットワークそこのインスタレーション制作』(2008年)崇城大学芸術学部研究紀要
- ・『EU-Kumamoto Art Drive,「イタリア未来派宣言」から100年/looking for NEW EARTH展』(2010年)崇城大学芸術学部研究紀要
- ・九州遊会「劇場的リアルからリアル以前を考える」(2010年)箱崎アートターミナル 九州大学
- ・舞台広告―戦後グラフィズムの考察(2010年)日本デザイン学会第5支部研究発表大会
- ・国際アートネットワークから地域文化政策へ(2010年)第83回九州芸術学会(佐賀)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本日日新聞広告賞審査委員(2001~2010年)
- ・「ハノーバー・広島姉妹都市提携25周年展」に参加して(2008年)文化欄・熊本日日新聞
- ・「河原町アワード」審査員(2009年)河原町文化開発研究所
- ・阿蘇郡高森町Genesis-1起源展実行委員長(2010年)
- ・NPO法人アートプレゼンス理事(2007~2010年)

可能な共同研究	EUのアーティストとの文化交流、アートを使った町おこし
可能な技術提供	EUアーティストのキュレーション(ポーランド、ドイツ、フランスなどのネットワーク活用)
可能な講演題目	国際アートネットワークから地域文化政策へ

地域の皆様へ

昨年、実施した起源展は単に地域再生や観光資源開発を行うだけでなく、人間中心の視点から離れ「地球の声を聴こう」というものです。そこから同時代的でグローバルな異文化交流など実践を通し文化として認識されなかったモノやコトの発見へ繋げようとするものです。

多ジャンル交流パネルディスカッションから「火山・珪石・水晶・精神活動・文化発生など」のキーワードを得ました。今後アートだけではなく文化づくりを考えています。



神野 雄二

JINNO YUJI

所属・職名 熊本大学 教育学部 教授

生 年 1954年

学 位 芸術学修士

専門分野 書道

連絡先 電話：(096)342-2585

e-mail : yjinn@educ.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①日本書道史
- ②篆刻学
- ③書道技法研究
- ④書道教科書歴史研究
- ⑤絵手紙

キーワード：①芸術 ②書道 ③書写 ④書学 ⑤篆刻 ⑥教科書 ⑦絵手紙

主な研究業績(最近5年間)

- ・「日本印人研究—高芙蓉に関する基礎研究(1)—」(2008年)
(『国語国文研究と教育』第46号、熊本大学教育学部国文学会)
- ・「日本印人研究—中井敬所の高芙蓉研究—」(2008年)(『大学書道研究』第1号、全国大学書道学会)
- ・「日本印人研究—小曾根乾堂と星海—」(2008年)(『熊本大学教育学部紀要』第57号、熊本大学教育学部)
- ・「日本印人研究—日本印史とその特色—」(2010年)(『国語国文研究と教育』第48号、熊本大学教育学部国文学会)
- ・「日本印人研究—山田寒山の印学と『印章備正』—」(2010年)(『熊本大学教育学部紀要』第59号、熊本大学教育学部)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県文化懇話会・熊本県文化協会会員
- ・書学書道史学会諮問委員
- ・日本蘭亭筆会国際理事

可能な共同研究	文字に関わる研究、書画に関わる研究
可能な技術提供	書道の技法、絵手紙の技法
可能な講演題目	書道を楽しむ、絵手紙を楽しむ

地域の皆様へ

日ごろ私が研究している書道の分野において、専門的知識や技法などを地域の皆様に提供するとともに、共に学びたい、と考えています。地域の文化や芸術の裾野が更に広がり、地域貢献の一助になれば幸いです。



砂川 典子

SUNAGAWA NORIKO

所属・職名 九州ルーテル学院大学 人文学部 講師

生 年 1971年

学 位 文学修士(九州大学)

専門分野 英米文学・英米文化

連絡先 電話：(096)343-2813

e-mail：sunagawa@klc.ac.jp

研究テーマ

- ①ヘンリー・ジェイムズ研究
- ②英米小説
- ③英米文化

キーワード：①国際小説 ②世紀転換期のアメリカ

主な研究業績(最近5年間)

- ・2007年、八尋春海編著 『映画の中の星条旗』 スクリーンプレイ
- ・2008年、“Henry James’s *The Bostonians*: The Bond of Sisterhood and Gender Issues in the Post-Civil War Era” 『九大英文学』
- ・2010年、“The Representation of America and Colonial Discourse in Henry James’s *The American*” 『日本比較文化研究』

主な社会活動等(最近5年間)

- ・映画英語教育学会 (ATEM) 九州支部運営委員
- ・『比較文化研究』査読委員

可能な共同研究

可能な技術提供

可能な講演題目

地域の皆様へ

“Think globally, act locally” を実践し、広い視野を持ち、地域の企業や人々とも連携しながら、豊かな学術都市を目指して欲しい。



常森 寿子

TSUNEMORI TOSHIKO

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 音楽学科 教授

生 年 1942年

学 位

専門分野 声楽

連絡先 電話：(075)802-1107

e-mail : sigratosca@kyoto.zaq.ne.jp

研究テーマ

- ①発声と歌唱の溝
- ②イタリア歌曲とオペラ
- ③日本歌曲

キーワード：①うぐいす・ばら・そして春 ②日本の名歌 ③バッハ・カンタータ51番・209番
④ベルリーニ「夢遊病の女」 ⑤林光「絵姿女房」

主な研究業績(最近5年間)

- ・2008年8月26日京都楽声の会発足「日本心を歌う」企画公演京都芸術センター共催
- ・2009年9月2日京都楽声の会主催「山田耕柝の世界」企画公演「黒船」を構成演出 京都芸術センター共催

主な社会活動等(最近5年間)

- ・京都創生百人委員会委員
- ・札幌LCアルモーニカ 音楽アドバイザー
- ・2008年 日本イタリアコンクール審査員
- ・2008年、2009年、2010年 飯塚コンクール審査員
- ・2010年 平成音楽大学主催 声楽公開講座を定期的に始める
- ・2011年 大阪池田市アゼリア新人演奏会オーディション 選考委員
- ・2011年 九州音楽コンクール 審査員

可能な共同研究	日本歌曲 オペラ
可能な技術提供	歌唱指導
可能な講演題目	公開歌唱講座

地域の皆様へ

歌は人生の友達と思っている人間の一人です。楽しく歌っていくために、またこれから歌を勉強したいと思っていられる人に歌の喜びをお伝えすることがこれからの私の役目だと考えています。



中川 明夫

NAKAGAWA AKIO

所属・職名 尚絅大学 文化言語学部 文化言語学科 准教授

生 年 1959年

学 位 修士(教育学)(国立ソウル大学校)

専門分野 韓国語教育

連絡先 電話：(096)338-8840

e-mail：akio@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①語彙(韓国語の連語)教育
- ②日韓言語文化比較
- ③日韓交流史
- ④多言語通訳

キーワード：①韓国語 ②語彙(連語) ③外国語教育 ④対照言語学 ⑤通訳・翻訳 ⑥文化比較 ⑦国際(日韓)交流

主な研究業績(最近5年間)

- ・中川明夫・イヘウン(2007年)、『しっかり学べる韓国語』(株)ナツメ社
- ・中川明夫(2008年)、『熊本の朝鮮文化を通じて熊本人像を探る』平成20年尚絅公開講座講義録
- ・中川明夫(2009年)、『言語文化より見た家庭学』月間『En-ichi』
- ・中川明夫(2010年)、『韓国語の連語に対する一考察～外国語教育の観点より～』尚絅学園研究要第4号
- ・中川明夫(2010年)、『韓国語連語教育の研究～(体言+用言)タイプについて～』(韓国)『先清語文』第37・38号
- ・中川明夫(2011年)、『動詞‘부리다’の連語制約について～日本語スピーカーの立場より～』(韓国)鮮文大学校論文集

主な社会活動等(最近5年間)

- ・菊陽町教育委員会委託講師(韓国語講座・DVD『鼻ぐり井出(韓国語版)』を担当)
- ・熊本市国際交流事業団主催の韓国研修旅行事前講座で講義を担当
- ・熊本と韓国(蔚山文人協会など)との交流事業においてサポート(企画、通訳、資料翻訳)
- ・「話してみよう韓国語」熊本大会で審査委員
- ・熊本むくげの会(日韓交流団体)会員

可能な共同研究	日韓言語比較、日韓書籍の翻訳
可能な技術提供	韓国語通訳・翻訳に関するノウハウ、日韓交流に関するサポート
可能な講演題目	韓国語の表現の特徴と文化的な影響、日韓交流の足跡を探る

地域の皆様へ

私は15年間韓国ソウルに住み、5年前に故郷である熊本に帰って来ました。豊かな自然の恵沢を受け、大陸に門戸を開いていた熊本には素晴らしい底力が眠っています。なんとと言っても熊本と地理的に最も近い国・韓国との交流はこれから益々盛んにならざるを得ません。古来、熊本は他のどの地域よりも韓国と文化的に深い絆で結ばれていました。これから熊本が韓国をはじめとする東アジアの国々との交流のメッカになるために貢献したいと思っています。



西川 盛雄

NISHIKAWA MORIO

所属・職名 放送大学熊本学習センター 客員教授(熊本大学学術資料調査研究推進室客員教授)

生 年 1943年

学 位 文学修士(大阪大学)

専門分野 英語学、英語教育論、異文化理解教育

連絡先 電話：(096)342-2305

e-mail：nishik@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①英語学
- ②英語教育
- ③異文化理解(ラフカディオ・ハーン、夏目漱石)
- ④L.L. ジェーンズ

キーワード：①英語 ②日英比較 ③ハーンの熊本時代 ④漱石の熊本時代 ⑤第五高等(中)学校 ⑥熊本バンド ⑦熊本洋学校

主な研究業績(最近5年間)

- ・『英語接辞研究』(開拓社、2006)
- ・『ハーン曼荼羅』(編著：北星堂、2008)
- ・『異界の創造＝ラフカディオ・ハーン＝』、『<異界>を創造する』(玉井・新野編：阪大英文学会叢書3、英宝社、2006)
- ・『ゴンボ・ゼープの三層構造』、『講座小泉八雲II』(平川・牧野編、新曜社、2009)
- ・『夏目漱石の英詩』、『漱石文学の水脈』(坂元・田中ら編、思文閣、2010)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・小泉八雲熊本旧居保存会副会長
- ・熊本アイルランド協会理事
- ・熊本八雲会副会長
- ・熊本漱石倶楽部世話人
- ・『草枕』国際俳句大会副会長・選者(外国語部門)〈熊本市主催〉

可能な共同研究	言語と脳科学、言語(英語)教育、異文化理解教育教育(ハーン、漱石)
可能な技術提供	英語
可能な講演題目	英語学と英語教育、幼児の言語発達、ラフカディオ・ハーン、夏目漱石、ジェーンズ先生(熊本洋学校)

地域の皆様へ

科学・技術の力」に加えて「文化の力」「教育の力」を大切にすることが肝要と心得ます。キーワードは地域貢献と国際貢献です。熊本にあってハーンや漱石や熊本洋学校のジェーンズ先生について今までの研究成果を通して社会貢献が少しでも出来れば嬉しく思います。また英語学を専攻した人間として地域の言語(英語)教育でお役に立てれば幸いです。



半藤 英明

HANDO HIDEAKI

所属・職名 熊本県立大学 副学長 文学部 教授

生 年 1960年

学 位 博士(文学)(成蹊大学)

専門分野 日本語学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①日本語文法
- ②助詞の研究
- ③係結びの研究
- ④徳富蘆花

キーワード：①日本語史 ②現代語 ③助詞 ④係結び ⑤日本文学

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・単著、『日本語助詞の文法』、新典社、2006/6、302頁

■ 論文

- ・単著、主語となる「主体」 解釈 第56巻第11・12号 2010/12、pp.2-8
- ・単著、題目の範囲と真の題目、熊本県立大学文学部紀要第16巻、2010/3、pp.右53-64
- ・単著、題目、題目語とは何か、解釈 第55巻 第11・12号、2009/12、pp.11-16
- ・単著、「は」と題目、熊本県立大学文学部紀要第15巻、2009/3、pp.右1-20

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本地区大学体育会連盟会長(2010年度～)
- ・九州地区大学一般教育研究会委員(2010年度～)
- ・東京都公園協会「徳富蘆花をしのぶ集い」記念講演会(2010年9月)
- ・熊本市東部公民館自主講座「古典入門」講師(2010年4月～)
- ・菊池市徳富愛子生誕135周年記念講演会(2010年2月)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

「灯台下暗し」にならぬよう、地域の歴史や文化に関心をもつことが大切です。



廣江 顕

HIROE AKIRA

所属・職名 尚絅大学 文化言語学部 文化言語学科 教授

生 年 1964年

学 位 修士(文学)(九州大学)

専門分野 言語学(英語学)

連絡先 電話：(096)338-8840

e-mail : hiroe@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①生成文法理論
- ②補文化辞の構造
- ③補文選択④描出話法の統語形式
- ⑤語法

キーワード：①generative grammar ②CP-structures ③complement (non-)selection ④structures of embedding
⑤represented speech ⑥usage

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Hiroe, A. (2010), “命令文の埋め込み制限”, Proceedings of the 82nd General Meeting of the English Literary Society of Japan, pp.107-109.
- ・ Hiroe, A. (2009), “Marry/Get Married Withの容認性”, 英語語法文法研究第16号, pp.175-179.
- ・ 廣江 顕(2009), “「学校文法」の問題点(2)—教員免許状更新講習(予備講習)を終えて—”, 尚絅大学研究紀要, A. 人文社会科学編, 第3号, pp. 59-74.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NIE全国大会(熊本開催)コーディネーター
- ・ オール熊本小学生尚絅英会話暗唱大会審査委員長(第6回～第9回)

可能な共同研究	英語教育、とりわけ「学校文法」の問題点の研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	「学校文法」の問題点

地域の皆様へ

いまや小学校から僅かながらでも導入されることになった英語。コミュニケーション重視の風潮のなか、いまなお「文法悪玉論」は根強い。文法は本当に必要無いか、円滑なコミュニケーションの阻害となるものなのか、もう一度ここで熊本のみなさんと共に考え、英語教育におけるあるべき文法の姿を提示したいと思います。



堀畑 正臣

HORIHATA MASAOMI

所属・職名 熊本大学 教育学部国語教育 教授

生 年 1956年

学 位 博士(文学)(九州大学)

専門分野 人文学、日本語学、古記録

連絡先 電話：(096)342-2582

e-mail : horihata@educ.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①平安～室町期の記録語・記録語法
- ②記録体の文章・文体
- ③日本の敬語
- ④文章表現と口頭表現
- ⑤小・中・高等学校の言語事項

キーワード：①記録語 ②記録語法 ③記録体 ④敬語 ⑤文章表現 ⑥口頭表現 ⑦言語事項

主な研究業績(最近5年間)

- ・堀畑 正臣(2006)。「(さ)せらる」(尊敬)の成立をめぐる。『筑紫語学論叢Ⅱ』, 筑紫国語学談話会編, 風間書房, 211-237
- ・堀畑 正臣(2007)。「古記録資料の国語学的研究」清文堂, 1-670頁。
- ・堀畑 正臣(2008)。「中世古記録・古文書資料に於ける漢語の意味変化―「計會」「秘計」をめぐる―」
『東アジアの文化構造と日本的展開』, 熊本大学拠点形成研究プロジェクト,
北九州中国書店, 246-292頁。
- ・堀畑 正臣(2008)。(書評)遠藤好英著『平安時代の記録語の文体史的研究』。『日本語の研究』,
日本語学会, 98-104頁。
- ・堀畑 正臣(2009)。「寛一本平家物語の『御～あり』をめぐる」。月本雅幸, 藤井俊博, 肥爪周二編
『古典語研究の焦点』, 武蔵野書院, 675-697頁。

主な社会活動等(最近5年間)

- ・荒尾市立荒尾第一小学校：平成20・21・22年度 文部科学省指定「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」『自分の思いを豊かに伝え合う児童の育成～基礎・基本を身に付け、考える力を伸ばす国語科授業の工夫を中心に～』 研究協力者、助言者。
- ・宇土市立網田小学校・網田中学校：平成17-22年度 文部科学省指定研究開発学校、
『網田小中一貫キャリア教育』『創造表現科(表現活動)』 研究協力者、助言者。
- ・熊本市輝きプラン 国語科授業研究会 助言者。(平成18～22年度)
- ・熊本県中学校国語研究会「話すこと・聞くこと部会」研究協力者・助言者。(平成18～22年度)

地域の皆様へ

研究を行い、論文を執筆している分野は、日本語学の中の平安～室町期の古記録・古文書の語彙と文章に関する事です。大学の講義では、日本語学と小・中学校の言語事項や文章表現・口頭表現について、講義をしています。それらに関する事でお役に立てるならば幸いです。小・中・高等学校の先生方と一緒に学んでいけたらと思っています。



水尾 文子

MIZUO AYAKO

所属・職名 熊本県立大学 文学部 准教授

生 年

学 位 Ph.D(English, Loughborough)

専門分野 イギリス文学(小説)

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①Virginia Woolf (特に 1930年代) と現代英国女性作家
- ②母娘関係と過去の時代表象

キーワード：①文学 ②イギリス

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・単著、「リズム」と「意味」の両立—ウルフの『アンティゴネー』言及を読み直す、『テキスト研究』第6号、2010/3、pp. 18-35.
- ・単著、Rewriting the Mother: the Role of Secrets in Daughters of the House、熊本県立大学『熊本県立大学文学部紀要』第14巻67号、2008/3、pp. 99-112
- ・単著、Where Female Narratives Meet History: Michèle Roberts' The Looking Glass、熊本県立大学『熊本県立大学文学部紀要』第13巻66号、2007/2、pp.87-101

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県高等学校英語弁論大会、暗唱大会審査員(2004～2009年)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=18&back=c> をご参照ください。



村里 好俊

MURASATO YOSHITOSHI

所属・職名 熊本県立大学 文学部 大学院文学研究科長 教授

生 年 1952年

学 位 文学修士(九州大学)
文学博士(大阪大学)

専門分野 イギリスの文化と文学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)
e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

①イギリス・ルネサンス詩と散文

キーワード：①外国文学 ②歴史 ③日英の文化

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、村里好俊、大塚定徳、訳・注解、『新訳シェイクスピア詩集』、大阪教育図書、2011/2、294pp.
- ・共著、村里・吉田・高瀬 編著、『映画で楽しむイギリスの歴史』、金星堂、2010/4、255pp.
- ・共著、日本スペンサー協会編『詩人の詩人 スペンサー』、九州大学出版会、2006/6、
[「スペンサーとシドニーのエレジー——〈悲嘆〉から〈感謝〉へ』、269-95]、450pp.
- ・共著、村里好俊・大塚定徳 訳・注解『イギリス・ルネサンス恋愛詩集』、大阪教育図書、2006/5、358pp.
- ・共著、17世紀英文学会編『17世紀英文学と戦争』、金星堂、2006/3、
[「父権制社会における女性の戦い——レディ・メアリ・ロウス論』29-52]、227pp.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本英文学会九州支部機関誌『九州英文学研究』編集委員長
- ・日本スペンサー協会理事
- ・文部科学省大学設置分科会 専門委員会(文学)委員(平成20、21、22年度)

可能な共同研究 地域連携センターへご相談ください。

可能な技術提供 地域連携センターへご相談ください。

可能な講演題目 地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

主としてエリザベス一世時代(在位1558 - 1603.日本の戦国時代から江戸開幕まで)の文化と文学を研究しています。頂点に位するのは、シェイクスピア。シェイクスピアの劇や詩は今なお世界中で盛んに上演され、また読まれています。翻訳でもよいので読んでみましょう。ご自分の生き方に何か指針が得られるかも知れません。



山崎 健司

YAMAZAKI KENJI

所属・職名 熊本県立大学 文学部 日本語日本文学科長 教授

生 年 1960年

学 位 博士(文学)(筑波大学)

専門分野 日本古代文学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①萬葉集及び古今集時代について
- ②古代日本文学における漢語の受容
- ③大伴家持と萬葉集の編纂

キーワード：①日本文学 ②景観整備

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・単著、『大伴家持の歌群と編纂』、塙書房、2010/1、全464頁
- ・共著、『文学史の古今和歌集』、和泉書院、2007/7、第2章 pp.37-58、『古今和歌集』参考文献目録 pp.229-248を担当

■ 論文

- ・単著、萬葉集巻第十七から第十九の歌群―家持の越中国守時代における歌稿と編纂―、熊本県立大学大学院文学研究科論集1、2008/9、pp.49-76

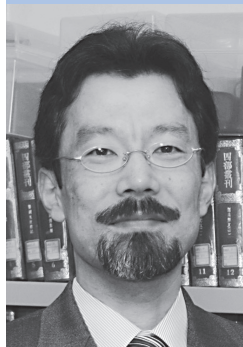
主な社会活動等(最近5年間)

- ・天草市文化振興審議会委員(2007年度)
- ・大学基準協会大学評価分科会評価委員(2009年度)
- ・熊日生涯学習プラザ講師
- ・2010夏季高岡万葉セミナー講師

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=8&back=c> をご参照ください。



山田 俊

YAMADA TAKASHI

所属・職名 熊本県立大学 文学部 文学部長 教授

生 年 1962年

学 位 文学修士(東北大学)
博士(文学)(東北大学)

専門分野 中国哲学・中国思想史

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)
e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

①六朝～宋三教思想交渉史研究

キーワード：①中国思想史 ②中国道教史 ③中国宗教史

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・単著、宋・太宗『逍遙詠』について、麥谷邦夫編『三教交渉論叢編』所収、2011/3、291-322頁
- ・単著、『朱子語類』巻第一百二十五「老子〔莊子附〕」訳注(三)、『熊本県立大学文学部紀要』第17巻所収、2011/3、73-96頁
- ・単著、『朱子語類』巻第一百二十五「老子〔莊子附〕」訳注(二)、『熊本県立大学大学院文学研究科論集』第3号所収、2010/9、15～40頁
- ・単著、『朱子語類』巻第一百二十五「老子〔莊子附〕」訳注(一)、『熊本県立大学文学部紀要』第16巻所収、2010/3、65～91頁
- ・単著、范應元『道德經古本集註』の思想について、『熊本県立大学大学院文学研究科論集』第2号所収、2009/9、1～27頁
- ・単著、六朝以来諸文献所引「洞神經」に就いて－②巻次未詳『洞神經』－、『熊本県立大学文学部紀要』第15巻所収、2009/3、43～64頁
- ・単著、中古漢語に於ける複音節動詞後置成文「乙密」について、Language Issues, vol.13,14&15、2009/3、43～58頁

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

中国の思想・宗教・文化等を研究しています。九州は中国大陸に近いことも有り、長時間に亘って、中国の影響も強く受けている様です。中国を見つめることで自分達の文化を見直すことにつながればと思っています。



吉井 誠

YOSHII MAKOTO

所属・職名 熊本県立大学 文学部 教授

生 年

学 位 Ph.D. (University of South Florida)

専門分野 第二言語習得論、コンピュータ支援言語教育

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①語彙習得論
- ②付随的語彙学習における注の役割と効果

キーワード：①第二言語 ②コンピュータ

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・単著、第二言語におけるリーディングと語彙学習～付随的語彙学習における注の効果、溪水社、2009/3、

■ 論文

- ・単著、マトリックスモデルの検証：長期的な語彙知識変化の安定性に関する一考察、「熊本県立大学文学部紀要」第17巻第70号、2011/3、37-45
- ・単著、A New Approach To Vocabulary Assessment: A Matrix Model For Predicting Future Vocabulary Performance, The Malaysian Journal of ELT Research VOLUME 7(1), 2011/3, 94-117
- ・単著、長期的語彙知識変化パターンの検証：被験者データとシミュレーションデータの比較、「熊本県立大学文学部紀要」、2010/3、33-46
- ・単著、マトリックスモデルを用いたシミュレーションスタディー：長期的な語彙知識変化の検証、「熊本県立大学文学部紀要」第15巻、2009/3、65-79
- ・単著、語彙知識変化の検証～シミュレーションと実際のデータとの比較、「熊本県立大学外国語教育センター紀要」第13、14、15巻 第1号、2009/3、1-22

主な社会活動等(最近5年間)

- ・第6回熊本県高等学校英語ディベート大会審査委員(2010年)
- ・第13回鹿児島県高等学校英語ディベートコンテスト審査委員(2010年)
- ・第5回熊本県高等学校英語ディベート大会審査委員(2009年)
- ・第5回九州地区高等学校英語ディベート大会審査委員(2009年)
- ・山口県教育委員会 英語教員指導力向上研修 講師(2003年～2006年)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

ことばを学ぶ、特に外国語を学ぶことについて研究しています。言語習得の不思議さ、おもしろさ、習得の過程や要因について共に学んでいければと思います。



脇山 純

WAKIYAMA JUN

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 音楽学科 准教授

生 年 1951年

学 位 法学博士(九州大学)

専門分野 人文学(音楽)

連絡先 電話：(092)641-8195

e-mail：wakiyama@heisei-music.ac.jp

研究テーマ

- ①ジャズ研究
- ②電子オルガン
- ③ノーテーション
- ④DAW
- ⑤アートマネジメント

キーワード：①ジャズ ②コード ③楽譜浄書 ④アートマネジメント ⑤電子オルガン ⑥DAW ⑦ノーテーション

主な研究業績(最近5年間)

- ・脇山純他共著(2011年)、「 Hammondオルガン・サウンドボックスvol.3」(株)ハモンドスズキ
- ・脇山純他共著(2010年)、「 Hammondオルガン・サウンドボックスvol.2」(株)ハモンドスズキ
- ・脇山純他共著(2009年)、「 Hammondオルガン・サウンドボックスvol.1」(株)ハモンドスズキ

主な社会活動等(最近5年間)

- ・2009年 Hammondオルガンコンクール全国大会審査
- ・2008年 Hammondオルガンコンクール全国大会審査
- ・2007年 Hammondオルガンコンクール全国大会審査
- ・2006年 Hammondオルガンコンクール全国大会審査
- ・(2010年はJEKS全国大会と重なり辞退)

可能な共同研究	
可能な技術提供	
可能な講演題目	2010年JEKS(日本電子キーボード学会)全国大会パネラー ML(ミュージック・ラボラトリー) 2008年JEKS(日本電子キーボード学会)全国大会パネラー ML(ミュージック・ラボラトリー) 2007年JEKS(日本電子キーボード学会)全国大会パネラー ML(ミュージック・ラボラトリー)

地域の皆様へ

御船町に40年前に開校した熊本音楽短期大学、4年制の平成音楽大学になって10年。

大学はしっかりと地元で根ざした音楽文化の発展に寄与してきました。時代とともに新しい音楽にも対応するよう電子オルガンコース、サウンドデザインコースを担当しています。従来からの西洋音楽の基礎を学びながら、現代の若者の目指す音楽の表現に電子楽器、コンピュータを使用しています。



明石 照久

AKASHI TERUHISA

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 パブリック・アドミニストレーションコース長 教授

生 年 1951年

学 位 博士(法学)(神戸大学)

専門分野 行政学、地方自治、まちづくり

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①社会・経済環境の変化と地方自治体組織の変容
- ②地方自治体における人的資源開発
- ③地方自治体における行政改革
- ④自治体エスノグラフィー

キーワード：①行政 ②地方自治 ③まちづくり

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、現代地方自治論、ミネルヴァ書房、2010/7、pp128-151,pp206-230

■ 論文

- ・単著、都市の再活性化戦略について－神戸医療産業都市構想の事例から－、アドミニストレーション16巻2号、2009/10、pp1-19
- ・単著、政策（行政）評価の新展開－地方自治体の実践事例から－、(財)行政管理研究センター『評価クォーターリー』、2008/7、pp.19-32
- ・単著、地方自治体におけるプロジェクト・マネジメント－神戸国際ビジネスセンターの事例から－、アドミニストレーション第14巻3・4合併号、2008/3、p39～p61
- ・単著、「危機管理のための予備的考察－こうべまちづくりセンターの機能変遷を中心に－」、アドミニストレーション第13巻1・2合併号、2006/12、pp.173-186

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市市民協働モデル事業選定委員会委員長（2006年7月～）
- ・大牟田市行政評価外部評価委員会委員長（2007年～）
- ・大野城市公共サービス改革委員会委員長（2007年～）
- ・熊本市文化芸術振興指針及び熊本市国際化指針策定委員会委員（2009～）

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=98&back=c> をご参照ください。



岩山 恵美子

IWAYAMA EMIKO

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部音楽学科音楽教育 教授

生 年 1948年

学 位 教育学士

専門分野 音楽教育学

連絡先 e-mail : iwayama@heisei-music.ac.jp

研究テーマ

- ①学生の題材開発力を育む指導のあり方
- ②これからの音楽科の指導のあり方

キーワード：①題材開発 ②言語活動の充実 ③鑑賞の学習 ④鑑賞と表現の一体化 ⑤音楽科指導法

主な研究業績(最近5年間)

- ・岩山恵美子著(2009年)「合同演習による音楽づくりについての考察」平成音楽大学
- ・岩山恵美子・佐藤よしみ著(2010年)「これからの鑑賞指導についての一考察」平成音楽大学

主な社会活動等(最近5年間)

- ・「音楽の授業を考える会」代表
- ・全国学校音楽コンクール熊本県コンクール審査員
- ・熊本県音楽教育研究会阿蘇大会助言者
- ・熊本市音楽教育研究会音楽担当者研修会講師
- ・阿蘇郡市音楽教育研究会授業研究会助言者
- ・熊本県合奏教育研究会講習会講師

地域の皆様へ

子どもたちが音楽の楽しさ、美しさに気づき、浸ることができるような授業づくりについて、小学校・中学校の先生方と共に追求していきたいと考えています。教育現場の視線を大切に研究を深めていきたいと考えています。



上野 眞也

UENO SHINYA

所属・職名 熊本大学 政策創造研究教育センター 大学院社会文化科学研究科 教授、学長特別補佐

生 年 1955年

学 位 公共政策学博士

専門分野 政治学、行政学

連絡先 電話：(096)342-2038

e-mail：ueno@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①ソーシャルキャピタル研究
- ②地方自治
- ③ソーシャルネットワーク研究
- ④条件不利地域政策

キーワード：①ソーシャルキャピタル ②自治 ③ソーシャルネットワーク ④過疎 ⑤限界集落

主な研究業績(最近5年間)

- ・山村研一・上野眞也編(2010年)、『地域を創る大学の挑戦』成文堂
- ・山中 進・上野眞也編(2010年)、『山間地政策を学ぶ』成文堂
- ・上野眞也編(2008年)、『地方分権と道州制』成文堂
- ・上野眞也編(2007年)、『政令指定都市をめざす地方都市』成文堂
- ・小野知道・上野眞也編(2006年)、『大学と地域形成－大学政策シンクタンクの挑戦－』九州大学出版会
- ・上野眞也(2005年)、『持続可能な地域社会の形成』成文堂

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市行政区画等審議会副会長
- ・熊本市自治推進委員会会長
- ・天草市総合計画審議会会長
- ・後期高齢者医療運営協議会副会長
- ・熊本県社会教育委員会委員

可能な共同研究	地方自治、政策に関する研究
可能な技術提供	職員研修、地域分析
可能な講演題目	持続可能な地域、道州制、ソーシャルキャピタル、社会的企業など

地域の皆様へ

わが国はいま、「超高齢社会」という未体験ゾーンに突入しつつあります。これまでの社会制度の見直しを行い、新しい時代に適合したライフスタイルを獲得するなど、個人や社会に大きな変化に積極的に対応していくことが求められています。大学が持つ「知」、「技術」、「教育機能」などを活かしながら、地域社会の行政、企業、非営利団体、市民の方々との連携をすすめることで、地域社会を元気にしていく活動をしていきたいと思っております。



岡村 薫

OKAMURA KAORU

所属・職名 熊本学園大学 経済学部 経済学科 准教授

生 年

学 位 博士(国際公共政策)

専門分野 産業組織論、規制政策

連絡先 電話：(096)364-5161

研究テーマ

- ①消費者の選択行動に関する実証分析
- ②規制緩和と技術革新

キーワード：①規制緩和 ②消費者の選択行動 ③政策評価

主な研究業績(最近5年間)

- ・ “Estimating Educational Effects in Waste Management Services” (with Yusuke SAKATA) International Journal of Environment and Waste Management, 7-3/4, 2011
- ・ “Differences in Travel Objectives between First-time and Repeat Tourists: An Empirical Analysis for Kansai Area in Japan” (with Mototsugu FUKUSHIGE) International Journal of Tourism Research 12, 2010
- ・ 「並行在来線鉄道会社の効率性の計測－距離関数を用いた確率的フロンティアモデルの適用－」 (柳川隆、播磨谷浩三共著) 『公益事業研究』第62巻第1号、2010

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	公共事業および観光に関する調査、研究
可能な技術提供	データ分析
可能な講演題目	消費者の観光行動と交通選択

地域の皆様へ

既得権益から脱して、意欲のある人たちが活躍できるような社会となるためには、自分は何ができるのかを考えています。熊本は人材、自然環境いずれもすぐれて豊かであると感じており、これらの資源をより高い生産性へと結びつけるための基礎的な研究を積み重ねていきたいと思っています。



河野 順子

KAWANO JUNKO

所属・職名 熊本大学 教育学部 教授

生 年 1958年

学 位 博士(学校教育学)(兵庫教育大学連合大学院)

専門分野 国語教育

連絡先 電話：(096)337-8290

e-mail : kawano@educ.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①社会構成主義に基づく授業論研究
- ②説明的文章の学習指導理論研究
- ③コミュニケーション能力の発達とその形成過程の研究
- ④入門期のコミュニケーション能力の発達と形成過程に関する研究

キーワード：①社会構成主義 ②授業研究 ③説明的文章 ④コミュニケーション ⑤入門期 ⑥幼小連携

主な研究業績(最近5年間)

- ・河野順子(2005)「小学校中学年におけるメタ認知力を促す教材選定と配列の視点―『学びの履歴』を中核として―」全国大学国語教育学会編『国語科教育』58、42-49
- ・河野順子(2006)『<対話>による説明的文章の学習指導―メタ認知の内面化の理論提案を中心に―』風間書房
- ・河野順子(2006)『入門期の説明的文章の授業改革』明治図書
- ・河野順子(2009)『入門期のコミュニケーションの形成過程と言語発達―実践的実証的研究―』溪水社、1-306
- ・河野順子(2009)「読書教育の新しい試み―説明的文章における『批評読み』から『読書』へ」読書学会編『読書科学』52、103-112

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県教育委員会 社会読書協議会委員2007.4-2009.3
- ・熊本県教育委員会 就学前教育の振興・充実モデル実践研究事業「大学と連携した接続期の研究」委員 2007.4-2009.3
- ・熊本市教育委員会 中学校少人数編成プロジェクト委員 2008.4-2009.3
- ・熊本県教育委員会学力向上委員会座長 2010.4-
- ・熊本市教育委員会放課後プラン委員会座長 2010.4-
- ・熊本県立劇場文部科学省委嘱 演劇を用いたコミュニケーション力育成事業委員 2010.4

可能な共同研究	幼・小・中学校との国語科教育に関する学習指導、授業研究のための共同研究
可能な技術提供	読むこと領域における指導技術、コミュニケーション形成のための指導技術、授業研究のための指導技術
可能な講演題目	「これから育てるべきコミュニケーション能力(話すこと・聞くこと教育)」 「これからの読むこと教育のあり方」

地域の皆様へ

地域の教育を共に開拓していくために、学習者の側からの学習指導のあり方、授業研究のあり方、教材開発、コミュニケーション能力の育成について、実践と理論の統合を目指した共同研究を進めていきましょう。



境 章

SAKAI AKIRA

所属・職名 熊本学園大学 経済学部 経済学科 教授

生 年 1951年

学 位 経済学修士

専門分野 情報科学

連絡先 電話：(096)364-7063

e-mail：kgu7sakai@gmail.com

研究テーマ

- ①東アジアIT地域経済連関
- ②JSPによるサーバサイドプログラミング
- ③e-ラーニングシステム開発
- ④焼酎産業の地域経済分析
- ⑤ICTを活用したまちづくり

キーワード：①情報経営 ②プログラミング ③まちづくり ④焼酎産業 ⑤地域経済 ⑥バーボンウイスキー

主な研究業績(最近5年間)

- ・「まちづくりと大学生の地域貢献活動ーウェブサイトを用いたまちづくりの可能性ー」『日本情報経営学会第55回全国大会予稿集』、2007
- ・「バーボンは如何にしてその名を冠せられたか」『日本産業科学学会研究論叢』第13号、2008
- ・「汚染米転売とブランド管理ー酒類メーカーの問題点を探る」『日本情報経営学会第58回全国大会予稿集』、2009
- ・「水前寺公園活性化報告書」『平成21年度熊本市委託調査水前寺公園活性化検討会議』2009
- ・『グローバル化する九州・熊本の産業経済の自律と連携』（共著）熊本学園大学附属産業経営研究所2010

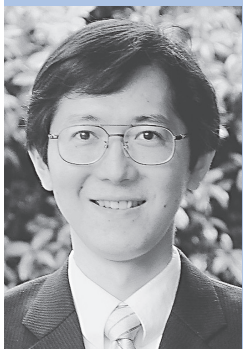
主な社会活動等(最近5年間)

- ・くまもと県民カレッジ運営委員会企画部会委員
- ・熊本市水前寺公園活性化検討会議コーディネーター
- ・委託訓練提案書企画評価委員会（雇用・能力開発機構熊本センター）

可能な共同研究	企業経営及び情報マネジメント
可能な技術提供	
可能な講演題目	焼酎産業の現状と課題

地域の皆様へ

大学では、企業や社会におけるインフォメーション・マネジメントに関する講義を担当しています。情報経営を学ぶ学生と地域・企業が連携して何らかの地域貢献ができないかと考えていますが、これまで二つの実績があるだけで継続的な活動は行なっていません。まちづくり、商店街活性化、公園活性化などの調査や活動に関わってきた経験を活かし、熊本を少しでも元気にするためのお手伝いをしたいと思っています。



澤田 道夫

SAWADA MICHIO

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 准教授

生 年 1970年

学 位 博士(アドミニストレーション)(熊本県立大学)

専門分野 行政学(自治行政)、参加協働論、アドミニストレーション論

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：sawada-m@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①地方自治の充実・強化のための方策
- ②参加・協働のための地域づくり

キーワード：①地方自治 ②参加・協働 ③行財政改革 ④地域づくり ⑤CSR

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・単著、Meta-disciplineとしてのアドミニストレーション、熊本県立大学、アドミニストレーション第17巻 3・4合併号、2011/3
- ・共著、市町村における協働の推進に関する研究、熊本県立大学、2010/3
- ・単著、地方政府における行政組織の意思決定をめぐる基礎理論的研究、熊本県立大学、2009/3
- ・共著、過疎地域における『新たな公』による地域振興策の調査研究、熊本県立大学、2009/3
- ・単著、シティマネジャーシステムの機能的特質の研究、熊本県立大学、アドミニストレーション大学院紀要第3号、2006/3

主な社会活動等(最近5年間)

- ・中山間地域フォーラムinくまもとパネリスト(2009年)
- ・なごみの里プロジェクトにおいて地域住民・企業とともに里山再生活動を実施
- ・H22全国生涯学習センター等研究交流会講師(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)
- ・CSR(企業の社会的責任)についての熊本県庁勉強会講師

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

日常で起こる様々な問題は、一見複雑に見えるものであっても、その本質はごくシンプルです。難しいのは、問題をどのように解決していくか、その手段に隘路が多いことです。今日の地域が抱える課題は、行政のみならず住民やNPO・企業などの様々な主体が、目標を共有し力を合わせていかなければ解決できません。地域づくりに携わる研究者として、地域が抱える課題について一緒に解決策を考えていければと思います。



篠原 弘章

SHINOHARA HIROFUMI

所属・職名 尚絅大学 文化言語学部 文化言語学科 教授

生 年 1943年

学 位 博士(文学)(久留米大学)

専門分野 集団社会心理学・教育心理学

連絡先 電話：(096)338-8840

e-mail：shinohara-hirofumi@izu.bbiq.jp

研究テーマ

- ①リーダーシップ
- ②集団決定法
- ③ヒューマンエラー
- ④達成動機
- ⑤両親の養育類型

キーワード：①監督者のリーダーシップ ②両親のリーダーシップ ③教師のリーダーシップ ④事故防止と集団決定法
⑤子ども達成動機 ⑥子どもの創造性 ⑦集団の発達過程

主な研究業績(最近5年間)

- ・篠原弘章著(2007年)、「五要因尤度比検定と χ^2 検定及びその残差分析法」, 熊本大学教育学部紀要,56,人文科学, 59-72頁,
- ・森正義彦・篠原弘章共著(2007年)、「心理学研究法」, 培風館
- ・篠原弘章著(2009年)、「創造の心理学」, 平成20年度尚絅講座人間探求, 尚絅学園
- ・篠原弘章著(2009年)、「親子関係の心理学」, 尚絅学園, 平成20年度尚絅大学文化言語学部公開講座
- ・篠原弘章著(2010年)、「人間行動と集団決定法の心理学」, 平成21年度尚絅講座人間探求, 尚絅学園
- ・篠原弘章著(2010年)、「いじめの集団構造を考える」, 尚絅学園, 平成21年度尚絅大学文化言語学部公開講座

主な社会活動等(最近5年間)

- ・放送大学熊本学習センター主催, H20年6月公開講座「両親のP-M養育類型の効果性」の講師
- ・//, H21年8月公開講座「達成動機と教育の心理学」の講師
- ・//, H22年6月公開講座「集団決定の効果性」の講師
- ・文部科学省研究開発学校の熊本県天草市立「一町田小学校」と「河浦中学校」において「脳科学的知見を取り入れ, 新設教科による小・中学校の9年間を見通した教育課程の編成, 及び指導の在り方等に関する研究開発」創才育み科の実践研究を指導(2006年度~2008年度)。

可能な共同研究	
可能な技術提供	社会調査等の分析
可能な講演題目	上記公開講座等



城 重幸

JO SHIGEYUKI

所属・職名 平成音楽大学 音楽学部 幼児音楽教育学科 教授

生 年 1946年

学 位 教育学士

専門分野 国語教育学

連絡先 電話：(096)282-0506

e-mail：s.jyo@heisei-music.ac.jp

研究テーマ

- ①国語科教育の改善
- ②生活科の教材開発
- ③「うさぎとかめ」の研究

キーワード：①教師中心から学び手中心へ ②国語科における生きる力の育成 ③熊本城の教材化
④熊本城への感動的な出会わせ方 ⑤世界のうさぎとかめの話の収集 ⑥現代「うさぎとかめ」論

主な研究業績(最近5年間)

- ・「先生力診断」の出版
- ・「来て見て調べて熊本城」の出版
- ・熊本城紀行「熊本城へ行こう」の出版

主な社会活動等(最近5年間)

- ・「熊本城」学習ガイド
- ・熊本市老人会の講師「生きるということ」
- ・熊本市図書館講座司書部会「読むと言うこと」
- ・熊本県市PTA県大会の講師「現在の教育」
- ・各小中学校への研究会講師「国語科、生活科、総合的な学習の時間」
- ・教職10年目研修の教師

可能な共同研究	「小学校における国語科授業の在り方」
可能な技術提供	
可能な講演題目	「熊本城は面白い」

地域の皆様へ

地域は、宝庫です。地域には素晴らしい自然や物がたくさんあります。そして当然人材が。それを気づかないまま、外ばかりをうらやましくみているのではありませんか。まず、地域をよく見て、それから自分たちで考えて、地に足がついたスタートをきりましょう。その地域の中心は、教育だと考えています。社会教育、家庭教育、学校教育等で人や地域が育つのです。



田中 孝明

TANAKA TAKAAKI

所属・職名 尚絅大学 短期大学部 総合生活学科 准教授

生 年 1974年

学 位 博士(アドミニストレーション)(熊本県立大学)

専門分野 社会福祉学、生活経営学

連絡先 電話：(096)362-2011

e-mail：tanaka_t@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①24時間対応型介護システムに関する研究
- ②離島生活高齢者の住民ネットワークに関する研究
- ③生活困窮者のセーフティネットと消費者教育

キーワード：①地域包括ケアシステム ②夜間対応型訪問介護 ③離島における福祉サービス提供体制
④住民自助組織と社会資源 ⑤社会的弱者と金銭教育

主な研究業績(最近5年間)

- ・共著「離島生活高齢者の保健・医療・福祉をめぐる現状と課題～長崎市伊王島における高齢者生活史共同研究を手がかりに～」筑紫女学園大学・短期大学部『人間文化研究所報』第21号(2010年)
- ・単著「福祉サービスの組織運営に関する基礎的研究～施設運営をめぐる近年の動向を踏まえて～」『比較文化研究』第44輯(久留米大学比較文化研究所、2010年)
- ・共著「夜間対応型訪問介護の最重要課題～関係機関への追跡実態調査を踏まえて～」『厚生の指標』第56巻第15号(2009年)
- ・単著「社会福祉対象者の金銭管理と生活支援策～自立支援の観点からみた福祉問題を中心に～」『久留米大学文学部紀要社会福祉学科編』第8号(2008年)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県長洲町消費者行政推進委員会アドバイザー(2010年～)
- ・熊本市社会福祉協議会市民活動・ボランティア運営委員(2010年～)
- ・福岡県看護実習指導者講習会講師(2007年～)
- ・NPO法人えんば理事(2004年～)

可能な共同研究	地域ボランティアの育成に関する研究、障がい者・高齢者の地域生活支援に関する研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	地域で考える介護問題、身近な生活問題からみた社会保障制度の課題

地域の皆様へ

私たちの身近にはさまざまな生活問題を抱えた住民が日々暮らしています。生活困難を抱えた人たちを地域でどのように支えることができるのか？この問題意識を一人でも多くの方たちと一緒に共有し、実践に移していきたいと思っています。



田中 均

TANAKA HITOSHI

所属・職名 熊本大学 教育学部 教授

生 年 1952年

学 位 理学博士(広島大学)

専門分野 教科教育学, 層位・古生物学

連絡先 電話: (096)342-2538

e-mail: hitoshi@educ.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①下部白亜系の層序・古生物学的研究
- ②人吉盆地の地質学的形成史
- ③地質教材開発
- ④災害の発生と防災

キーワード: ①下部白亜系 ②下部白亜系の層序 ③下部白亜系産二枚貝化石 ④教材開発 ⑤斜面崩壊

主な研究業績(最近5年間)

- ・田中均, 坂口静摩, 薬師寺光, 本多栄喜, 村本雄一郎(2010), 横ずれ断層の教材化ー理論と実際ー. 熊大教育実践研究, 第27号, 85-90.
- ・田中均, 宮縁育夫, 本多栄喜, 林智洋, 早川祐真(2009), 熊本県南部の大面积皆伐跡地周辺域における斜面崩壊のメカニズム. 熊本大学教育学部紀要(自然科学), 第58号, 13-19
- ・田中均, 島田秀昭, 鳴海里加, 林智洋, 本多栄喜, 村本雄一郎, 福田貴文, 上田陽一郎(2009), 地域と連携した理科授業実践. 熊大教育実践研究, 第26号, 89-95.
- ・田中均, 高橋努, 田代正之, 加登住誠, 本多栄喜, 一瀬めぐみ(2008), 熊本県南西地域の白亜系宮地層とその分布. 熊本大学教育学部紀要(自然科学), 第57号, 7-17.
- ・田中均・田口清行・村本雄一郎・高橋努・岩永拓也・林智洋(2007), 横ずれ断層による“正断層”および“逆断層”の形成-熊本県人吉盆地に分布する人吉層を例として-, 理科の教育, 通巻654号, 58-61.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・平成22年度天草市千巖山付近の地層観察と化石採集苓北町立坂瀬川中学校2年生合計26名
- ・平成21年度天草市千巖山付近の地層観察と化石採集天草市本渡中学校2年生合計211名
- ・平成20年度天草市小中学校教員のための地質巡検会ー佐伊津層の地層観察会ー教員10人参加
- ・平成19年度球磨村総合運動公園における地学教育実践多良木町立多良木中学校他2校で実施

可能な共同研究	地質分野の共同教材開発
可能な技術提供	堆積実験装置、断層モデル、リーデル剪断実験装置、化石の石膏模型作製法
可能な講演題目	地球科学の最前線、古生物学の最前線、地球と岩石のお話、地球と古生物のお話

地域の皆様へ

小・中学校理科教員および地学分野に興味をお持ちの地域の方々へ地球科学の最新情報を分かりやすく解説するとともに小・中学校の授業等で役立つ堆積実験装置や断層モデルおよび化石等を貸し出します。また、地域に根ざした地質教材開発を現地の教員と共同で行ない、その地域の地質の成り立ちなども子ども達や地域の方々と一緒に明らかにしていきたいと考えています。



徳野 貞雄

TOKUNO SADA0

所属・職名 熊本大学 文学部 教授

生 年 1949年

学 位 文学修士

専門分野 地域社会学

連絡先 電話：(096)342-2404

e-mail : tokuno@kumamoto-u .ac.jp

研究テーマ

- ①地域変動論
- ②農山村振興論
- ③「食と農」の社会学
- ④農村担い手論
- ⑤現代社会論

キーワード：①ムラ・マチ・都市 ②人口減少社会 ③過疎化・高齢化 ④食糧問題

主な研究業績(最近5年間)

- ・『農村の幸せ、都会の幸せ』2008、NHK出版
- ・『地方からの社会学』2009、学文社
- ・「ブラックボックス化する地域づくりと“モエ集団”」2011、季刊中国総研
- ・「縮小論的地域社会の可能性を求めて」2010、日本都市社会学学会年報第28号
- ・『少子・高齢化時代の農山村における環境担い手に関する研究』2007、科研報告書

主な社会活動等(最近5年間)

- ・九州・番頭さんの会主催者
- ・「食農ほんわかネット」理事長
- ・全国合鴨水稲会世話人
- ・トクノ・スクール「ムラ塾」塾長
- ・国土交通省「均衡ある国土形成委員会」委員

可能な共同研究	地域社会に関する共同研究
可能な技術提供	[T型集落点検]技術の提供
可能な講演題目	地域に関することならすべて

地域の皆様へ

農は、簡単には壊れない。頑張りましょう。



中内 哲

NAKAUCHI SATOSHI

所属・職名 熊本大学 法学部 教授

生 年 1969年

学 位 修士(法学)(神戸大学)

専門分野 労働法学

連絡先 電話：(096)342-2823 <研究室直通>

e-mail：katabami@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①企業間労働力移動の法的構造
- ②労働法上の労働者性・使用者性
- ③失業／職業能力開発

キーワード：①在籍出向 ②労働者派遣 ③転籍 ④使用従属関係 ⑤指揮命令 ⑥人事（権）

主な研究業績(最近5年間)

- ・単著「有期労働契約に対する法規制の今後：有期労働契約研究会報告書を読んで」季刊労働法231号（2010年）4～13頁
- ・単著「ドイツ真正賃借労働関係と従業員代表法制との結節点に関する基礎的考察：事業所所属性をめぐる裁判例を中心に」熊本法学119号（2010年）131～177頁
- ・単著「プロ野球選手の法的地位：契約とその将来像」法政策学の試み（法政策研究第11集）（2009年）43～61頁
- ・単著「家族の介護等を担う現地採用労働者に対する配転命令の法的是非：ネスレ日本（配転本訴）事件」熊本法学121号（2010年）109～123頁
- ・単著「労組法上の『労働者』概念と合唱団員：国・中労委（新国立劇場運営財団）事件」法律時報81巻10号（2009年）161～164頁

主な社会活動等(最近5年間)

- ・福岡紛争調整委員会 委員（2005年6月～2011年9月）
- ・福岡県労働政策審議会 委員（2009年7月～2011年7月）
- ・熊本大学生生活協同組合 理事（2008年6月～2009年5月）
- ・熊本大学生生活協同組合 監事（2009年6月～2011年5月）

可能な共同研究	労働法・労働政策・労働問題に関すること
可能な技術提供	
可能な講演題目	労働法・労働政策・労働問題に関すること

地域の皆様へ

2006年度に北九州市立大学から熊本大学へ移籍して5年経ちますが、熊本とのご縁をなかなか深められずにいます。コンソーシアム熊本を通じて、他機関や地域の皆様と結びつきあえることを切に希望する次第です。

大学教員という身分上、研究というフィルターを通じたつながりがどうしても多くなりますが、労使が開催されている勉強会や地域の方々との集会等へも、テーマや日程次第で出かけていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。



永尾 孝雄

NAGAO TAKAO

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 地域・福祉ネットワークコース長 教授

生 年 1950年

学 位 博士(法学)(九州大学)

専門分野 基礎法学(法哲学、生命倫理学、憲法原理)

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①現代の法哲学、法思想史（特にカント、ヘーゲル）
- ②ケルゼンの憲法理論
- ③ロールズの社会哲学
- ④生命・医療倫理と法

キーワード：①法学 ②法哲学 ③生命倫理

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・編集、『現代の国家と法律』、創言社、2008/10

■ 論文

- ・共著、出生前診断の現状と課題、アドミニストレーション・第16巻2号、2009/10、137-159
- ・単著、ヘーゲル法思想と近代、日本法哲学会編「法哲学年報2007」（有斐閣刊）、2008/10、pp.91-103
- ・単著、福祉と人権—ホームレスの自立支援をめぐる一、熊本県立大学・全学共通テキスト編集委員会編『熊本学のススメ—地域学入門—』、2008/4、pp.193-200

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県個人情報保護制度審議会委員（2007年2月～）
- ・熊本県本人確認情報保護審議会委員（2007年1月～）

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=gaku&back=t> をご参照ください。



西崎 信男

NISHIZAKI NOBUO

所属・職名 東海大学 総合経営学部マネジメント学科 教授

生 年

学 位 博士(経営学)

専門分野 経営学、金融、中小企業論、スポーツマネジメント

連絡先 電話：(096)386-2705

e-mail：nnishiza@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①スポーツマネジメント
- ②金融・財務
- ③経営コンサルティング(中小企業、国際ビジネス)

キーワード：①経営学 ②スポーツビジネス ③中小企業 ④投資銀行業務

主な研究業績(最近5年間)

- ①西崎信男(2010)「英国プロサッカークラブの経営問題に関する一考察」『長崎大学経済学研究科論集』第5号 pp.1-19 国立大学法人 長崎大学
- ②西崎信男(2009)「プロ・スポーツクラブへのファンの経営参加：英国サポータートラストの仕組み・意義」『スポーツ産業学研究』第20巻第1号 pp.53～64 日本スポーツ産業学会
- ③西崎信男(2008)「プロ・スポーツにおけるスタジアム戦略～英国プロ・サッカークラブのスタジアム・マネジメント～」『日本経営診断学会論集⑧』第8号 pp.145～151 日本経営診断学会
- ④西崎信男(2007)「スポーツマネジメントとホスピタリティ～スポーツが自立するためのマネジメント～」『日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌HOSPITALITY』第14号 pp. 37-46日本ホスピタリティ・マネジメント学会
- ⑤西崎信男(2006)「地域振興のための医療機関債に関する一考察」『日本経営診断学会論集⑥』pp153-165 .同友館
- ⑥西崎信男(2006)「株式非公開化とホスピタリティ」『日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌 HOSPITALITY』第13号 pp. 141-150 日本ホスピタリティ・マネジメント学会

主な社会活動等(最近5年間)

- (2010) 厚生労働省委託事業(みずほ総研)・最低賃金地域調査委員会委員(熊本県)
- (2009) 大学基準協会大学評価委員会経営学系専門評価分科会委員
- (2009) 教育講演：(社)熊本県栄養士会熊本市支部平成21年度第2回研修会「グローバル競争時代の食ビジネスの方向性」
- (2009) 教育講演：東海大学九州地区企業懇談会講演会「ビジネス(金融)から教育現場へ～英米のビジネス・教育を経験して～」
- (2007～現在) 日本経営診断学会 論文編集委員
- (2007) 教育講演：新北九州を考える会(第19回例会)「金融から教育へ」

可能な共同研究	プロサッカークラブへのファンの参加の仕組みづくり(日本版サポータートラスト)
可能な技術提供	
可能な講演題目	スポーツマネジメント、金融、国際ビジネス、英米教育

地域の皆様へ

長年、大手銀行・証券会社で投資銀行業務を専門に従事してきました。その間、留学も含めて在英9年で、ヨーロッパ、特に英国事情に詳しいです。英国でのビジネスについては、現地にネットワークがあります。また中小企業診断士として国内中小企業への経営コンサルティングでもお役に立ちたいです。(国内銀行・証券他のネットワークがあります。)更に最近では、スポーツマネジメントが研究テーマであり、プロスポーツとしてのサッカーに興味があります。特にファンの経営参加の仕組みづくりに興味があります。よろしくお願ひします。



増淵 千保美

MASUBUCHI CHIHOMI

所属・職名 尚綱大学 短期大学部 幼児教育学科 講師

生 年 1973年

学 位 博士(社会学)(佛教大学)

専門分野 児童養護問題、保育問題、児童福祉、社会保障

連絡先 電話：(096)338-8840

e-mail：masubu@shokei-gakuen.ac.jp

研究テーマ

- ①保育士の健康問題に関する調査研究
- ②児童養護問題に関する調査研究
- ③貧困に関する調査研究
- ④保育問題と保育制度についての調査研究
- ⑤社会政策と社会保障に関する研究

キーワード：①保育問題 ②児童養護問題 ③母子世帯 ④労働問題 ⑤貧困 ⑥保育士の健康問題 ⑦保育制度

主な研究業績(最近5年間)

- ・増淵千保美著(2006年)「児童養護問題における保育問題との共通性・連続性について－歴史的分析を踏まえて－」
佛教大学大学院紀要第34号
- ・滋賀県東近江地域障害児(者)サービス調整会議・発達障害部門編(2006年)「発達障害児・者とその家族の生活実態と対策の課題－調査報告書」滋賀県東近江地域障害児(者)サービス調整会議
- ・増淵千保美著(2008年)「児童養護問題の構造とその対策体系－児童福祉の位置と役割」高菅出版
- ・近江八幡市社会福祉協議会編(2008年)「障害児・者とその家族のかかえている生活問題－近江八幡市障害者生活実態調査報告書」近江八幡市社会福祉協議会
- ・熊本保育研究会編(2010年)「子どもたちの健やかな成長を育む保育の向上にむけて－保育士の健康とくらしに関する実態調査報告書」熊本保育研究会
- ・増淵千保美著(2011年)「子どものくらしと発達を保障し、健康で働きつけられるための条件～「生存権」保障の担い手である保育士の健康問題から～」『季刊保育問題研究』247号新読書社

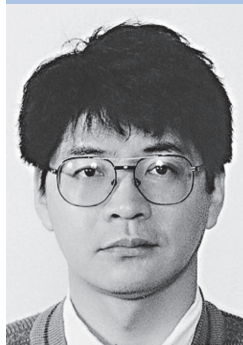
主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本社会福祉学会奨励賞受賞(日本社会福祉学会)
- ・佛教大学学術奨励賞受賞(佛教大学)

地域の皆様へ

熊本に在住して6年が過ぎようとしています。日頃から地元を愛する人々との交流の中で子育てをしながら研究をしています。熊本には、まだまだ人と人との顔が見える地域の関係が残っています。それを大きく育てながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりの一環としての社会保障や児童福祉の役割・課題について研究していきたいと考えています。

とくに、地域に潜在化している貧困や児童養護問題を住民の共通課題や社会的な問題として把握するために、フィールドワークをベースにしながら、私たちのくらしや子育ての条件づくりの課題について実証的な構造分析に取り組んでいます。この研究が何かの形で地域におけるくらしづくりのお役に立つことができれば幸いです。



松尾 隆

MATSUO TAKASHI

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 ビジネス・アドミニストレーションコース長 教授

生 年

学 位 経済学修士(九州大学)

専門分野 貨幣・金融論

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①現代貨幣金融の研究
- ②Allyn A. Young研究

キーワード：①貨幣 ②金融

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・単著、「不換通貨制度と投機—Allyn A. Youngの所説—」、『アドミニストレーション』第16巻3/4合併号・熊本県立大学、2010/3、pp. 229-259
- ・単著、「叡智としての金本位制—A. A. Youngの所説—」、『アドミニストレーション』第15巻3.4合併号・熊本県立大学、2009/3、pp. 43-74.
- ・単著、「Allyn A. Youngの金融政策—景気循環の管理との関連で—」、『アドミニストレーション』第14巻3.4合併号・熊本県立大学、2008/3、pp. 133-174.
- ・単著、「A.A.Youngの景気循環対策-知識、失業保険、公共事業-」、『アドミニストレーション』第12巻3・4合併号・熊本県立大学、2006/3、pp.107-130

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=76&back=c> をご参照ください。



棟方 信彦

MUNAKATA NOBUHIKO

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 教授

生 年 1948年

学 位 経営学修士(慶應義塾大学)

専門分野 ・企業および非営利事業(宗教団体等)のマーケティング戦略
・ブランド論およびコミュニケーション戦略
・消費者行動論・マーケティングリサーチ

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①人間主義的な視点からマーケティングを捉え、人間の全体的、とりわけ精神的価値観の把握と、人間の集団的行動との関係のメカニズムを明らかにしたい。
- ②ブランド論に代表されるコミュニケーションの機能と組織文化、地域文化の関係について究明したい。

キーワード：①ブランド ②マーケティング ③コミュニケーション

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、『1からの戦略論』、碩学社、2009/9、第11章 経営資源
- ・共著、『熊本学のススメ』、熊本県立大学、2008/3、「熊本とブランド」

■ 翻訳書

- ・共訳、「エキクメニカルな信仰告白に向けて」、日本聖書神学校、2007/2

■ 論文

- ・単著、「地域ブランドの現状と課題」、日本経済新聞社、2008/8『広研レポート』、2008年8-12月号

主な社会活動等(最近5年間)

- ・県新幹線くまもと創りシンポジウム「九州・ASO大陸」コーディネータ(2008年)
- ・熊本県民カレッジ「熊本ブランド大作戦」企画協力および講師(2008年)
- ・熊本市、「熊本城桜の馬場観光交流施設整備事業等事業者審査委員会」委員(2008年)
- ・天草市「天草ブランド調査」企画実施(2009年2月)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=91&back=c> をご参照ください。



望月 信幸

MOCHIZUKI NOBUYUKI

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 准教授

生 年 1978年

学 位 博士(経営学)(横浜国立大学)

専門分野 原価計算、管理会計

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①責任会計
- ②業績評価
- ③管理可能性
- ④組織構造と管理者の権限および責任

キーワード：①ビジネス

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・編集、『スタンダード・テキスト 管理会計論 問題演習編』、中央経済社、2010/3、問題2「費目別計算」を担当

■ 論文

- ・共著、原価企画に求められる役割期待の多様化—意思決定支援機能が及ぼす業績評価とサプライヤーの疲弊問題への影響—『企業会計』Vol. 62, No. 12、中央経済社、2010/11、pp. 73-80.
- ・単著、責任会計論研究の課題、『アドミニストレーション』第17巻、第1・2合併号、2010/10、pp. 59-75.
- ・単著、未利用キャパシティの利用と管理者の業績評価—責任会計論の観点から—、『原価計算研究』Vol. 34, No. 2、日本原価計算研究学会、2010/3、pp. 58-67.

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

管理会計は、特に会計の側面から経営をマネジメントする研究領域ですので、管理会計の視点から地域活性化に貢献できればと考えています。



山口 裕子

YAMAGUCHI YUKO

所属・職名 熊本保健科学大学 保健科学部 講師

生 年 1962年

学 位 文学修士(熊本大学)

専門分野 看護学(在宅分野)、教育社会学、地域研究

連絡先 電話：(096)275-2111

e-mail：yamaguch@kumamoto-hsu.ac.jp

研究テーマ

- ①発達障害研究
- ②自己決定と言語

キーワード：①言語機能 ②発達障害者の支援 ③相互作用

主な研究業績(最近5年間)

- ・山口裕子(2010年)、「発達障害児の『親の会』における語りと障害の構築」熊本大学社会文化研究8
- ・佐藤哲彦・田口宏昭・山口裕子(2009年)、「制度を形作る発話／制度に形作られる発話」熊本大学社会文化研究科学際的共同研究の拡充・推進プロジェクト報告書
- ・山口裕子・内山久美・大澤早苗(2008年)、「看護学生の抱く患者イメージの変化の分析」第38回日本看護学会論文集-看護教育-
- ・田中道子・赤木陽子・多久島寛孝・山口裕子(2007年)、「認知症高齢者の家族看護に関する研究-家族看護の6段階の発展過程と社会的支援-」保健科学研究誌4
- ・大澤早苗・内山久美・山口裕子(2006年)、「看護者による育児に関する援助活動の意味」第37回日本看護学会論文集-小児看護-

主な社会活動等(最近5年間)

- ・県北の発達障害の子どもをもつ「親の会」の活動のアドバイザー
- ・いるかの会健康教室「高機能自閉症・アスペルガー症候群の特性」研修担当

可能な共同研究	地域で生活を営む療養者について
可能な技術提供	
可能な講演題目	発達障害者支援法について

地域の皆様へ

病気や障害を持ちながら地域で暮らす療養者やその家族を対象とする在宅看護について、大学では学生と一緒にその支援の多様性を考えています。最近の数年間は『障害者自立支援法』の趣旨や、『発達障害』について考えることが多く、改めて多様性を認めていく難しさや、これまでいかに同質であるようにコントロールされていたかを実感している毎日です。異質さを認めていくことにつながる発達障害者支援と、社会のコントロールと、どう折り合いをつけていくのが、今後の課題だと感じています。



吉田 勇

YOSHIDA ISAMU

所属・職名 放送大学熊本学習センター 客員教授

生 年 1945年

学 位 法学修士

専門分野 法社会学(紛争解決、ADR)

連絡先 電話：(096)288-4796

研究テーマ

- ①日本社会と法
- ②ADR論
- ③「誠意」規範論
- ④交渉と紛争解決

キーワード：①誠意ある対応 ②納得のいく解決 ③対話促進型調停 ④裁判員制度

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 吉田勇編著、『法化社会と紛争解決』（成文堂、2006）
- ・ 六本佳平・吉田勇編著『末弘厳太郎と日本の法社会学』（東大出版会、2007）
- ・ 吉田勇編著『紛争解決システムの新展開』（成文堂、2009）
- ・ 吉田勇『対話促進型調停論の試み』（成文堂、2011）

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ シンポジウムの企画・運営「裁判外の紛争解決(ADR)を考える」(熊本大学法学部・法曹養成研究科共催)、(2006)
- ・ シンポジウムの企画「熊本地域におけるADRの現状と課題」(2009年)(熊本大学大学院交渉紛争解決・組織経営専門職コース主催)
- ・ シンポジウムの企画「調停の可能性を考える」(2010年)(熊本大学大学院交渉紛争解決・組織経営専門職コース主催)
- ・ 犯罪被害者支援シンポジウムにパネリストのひとりとして参加(2010)(熊本県司法書士会主催)
- ・ 土地家屋調査士会の研修会でADRについて講演(2010)
- ・ 放送大学熊本学習センター公開講演会で講師(テーマ:「法的責任と道徳的責任」(2010))

可能な共同研究	
可能な技術提供	
可能な講演題目	交渉と紛争解決、ADRの現状と課題、日常世界と法の世界の架橋を求めて、対話促進型調停、裁判員制度、日常のことばと法のことば、隣人訴訟事件などの紛争事例など。

地域の皆様へ

高校を卒業して長崎県佐世保市を出てから、福岡に15年住み、熊本に来て30年を過ぎました。最近、熊本を「終の住み処」にしようと思ったところ、熊本に対する愛着が強まってきたのを実感しています。そして、熊本の地で私にできることをしたいという思いが強くなってまいりました。私にできることは限られていますが、法と社会を架橋するような役割を担うことができれば幸いです。



吉光 清

YOSHIMITSU KIYOSHI

所属・職名 九州看護福祉大学 看護福祉学部 教授

生 年 1948年

学 位 文学修士(心理学)(早稲田大学)

専門分野 障害者支援、リハ・カウンセリング、発達心理学

連絡先 電話：(0968)75-1893

e-mail : kiyoshi@kyushu-ns.ac.jp

研究テーマ

- ①障害者支援技術
- ②雇用政策
- ③カウンセリング
- ④キャリア支援
- ⑤職業問題

キーワード：①障害者 ②雇用就業（就労）支援 ③職業カウンセリング ④職業能力開発

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 桐原宏行編集（2008）「就労支援サービス 雇用支援・雇用政策」分担執筆、弘文堂
- ・ 高齢・障害者雇用支援機構編（2008）「障害者雇用ガイドブック」分担執筆、雇用問題研究会
- ・ 日本発達障害学会監修（2008）「発達障害基本用語事典」分担執筆、金子書房
- ・ 吉光清（2006）「職業リハビリテーション」、障害者職業カウンセラー厚生労働大臣指定講習テキスト
- ・ 松為、菊池編集（2006）「職業リハビリテーション学」分担執筆、協同医書出版社

主な社会活動等(最近5年間)

- ・（独）高齢・障害者雇用支援機構：「高齢者と障害者がともに働きやすい職場推進研究会」（2009～）
- ・ くまもと障がい者就業支援研究会代表(2008～)
- ・ 日本職業リハビリテーション学会九州ブロック理事(2007～)
- ・（独）高齢・障害者雇用支援機構：「障害者のための職場改善好事例」審査員(2007～)
- ・ 福岡障害者職業センター「精神障害者雇用支援連絡協議会」委員（2007～）
- ・ 玉名市：「障害者福祉計画」策定委員（2007）

可能な共同研究	地域支援ネットワーク、障害者問題、就業(労)支援、地域雇用環境、キャリア問題
可能な技術提供	職業アセスメント、リハ・カウンセリング、事業所調査
可能な講演題目	障害者の就労支援、ノーマライゼーションとソーシャルファーム

地域の皆様へ

保護的な福祉対策以上に、自立支援に向けた福祉対策がますます重要になってくる。地域生活支援とともに必要になるのが就業（労）支援であろう。地域の中で障害のある人々が生活でき、意思と能力に応じて働くことを実現できてこそ、権利の保障となり、生きがい・幸福感のようなQOLの獲得も可能にすることになるであろうし、ノーマライゼーションに近づけるものと言えよう。障害のある人々に限らず、職業生活の実現、維持のために支援が必要な人々があり、その場合には、限られた専門職の、期限付きの支援によって目標が達成されることは難しい。地域という場で、専門職が地域の社会資源とどのように繋がり、地域の企業とどのような協働ができるかが問われることになる。地域というものを捉えなおし、従来の就業（労）支援の枠組みを超えた発想や実践が必要になってくる。



吉村 純一

YOSHIMURA JUNICHI

所属・職名 熊本学園大学 商学部 教授

生 年 1962年

学 位 博士(商学)(福岡大学)

専門分野 マーケティング論

連絡先 電話：(096)364-5161

e-mail：junichi@kumagaku.ac.jp

研究テーマ

- ①流通と消費研究
- ②消費文化理論視点による日本ブランドのグローバル化可能性についての分析
- ③地域経済とクリエイティブクラス

キーワード：①マーケティング ②消費文化 ③流通経済 ④ブランド ⑤クリエイティブクラス

主な研究業績(最近5年間)

- ・「消費文化理論がマーケティング研究にもたらすもの」『熊本学園商学論集』16/1, 13 2010
- ・「熊本市中心市街地とまちづくりマーケティングの視点」『調査研究報告』（『熊本市中心市街地の形成と展開～文化発信と商業集積の観点から～』）（熊本学園大学産業経営研究所）/101, 72 2010
- ・『地域再生の流通研究』（共編）中央経済社、2008年
- ・『NPOと公共サービス～政府と民間のパートナーシップ』（レスター・サラモン著：共訳）ミネルヴァ書房、2007年
- ・『現代流通入門』（共著）有斐閣、2007年
- ・「流通情報高度化と地域商業の対応－商人の回想にみる動態プロセス－」『熊本学園商学論集』13/3, 77 2007

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県障害者支援施設等工賃アップ推進委員（2007年～）
- ・財団法人福岡アジア都市研究所評議委員（2007年～）

可能な共同研究	地域マーケティングおよび地域の流通経済に関するテーマ
可能な技術提供	
可能な講演題目	マーケティング論に関する題目

地域の皆様へ

新幹線開通および熊本市の政令指定都市昇格など、熊本をめぐる社会環境は新しい時代を迎えようとしています。これは同時に、熊本が激しい本格的な地域間競争の舞台に押し上げられていくことを意味します。このような時代には、長期的な都市の展望を描き、戦略的な対応をとることが求められると考えています。研究分野であるマーケティングが何らかのアイデアを提供できるとすれば幸いです。



黄 在南

HWANG JAE NAM

所属・職名 熊本県立大学 総合管理学部 大学院アドミニストレーション研究科長 教授

生 年

学 位 博士(経済学)

専門分野 組織論、比較経営論

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①組織変動
- ②比較経営
- ③組織学習
- ④経営戦略
- ⑤組織の知恵（倫理）

キーワード：①組織 ②経営

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・単著、「後期近代における組織化のテクスチャー(texture)-知識と知恵の視点から-」、「アドミニストレーション」第12巻1・2巻合併号、2005/12、pp.125-159

■ その他

- ・共著、「平小城地域活性化に向けたマーケティング戦略について」、「アドミニストレーション」第12巻3・4巻合併号、2006/3、pp.173-210
- ・共著、「平成21年度地域貢献研究 県南地域における企業誘致のポテンシャルについて」、2010/8、pp.1-51

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/site2010/php/researcher/detail.php?id=77&back=c> をご参照ください。



赤井 一郎

AKAI ICHIRO

所属・職名 熊本大学 衝撃・極限環境研究センター 教授

生 年 1962年

学 位 博士(理学)(大阪市立大学)

専門分野 物性物理学、光物性物理学

連絡先 電話：(096)342-3296

e-mail : iakai@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①光捕集性有機材料の物性研究
- ②フェムト秒超高速分光を用いた物性研究
- ③光機能性半導体ナノ構造の物性研究
- ④有機高分子材料の光機能性
- ⑤新規光機能性材料の探索

キーワード：①光捕集性 dendrimer ②光エネルギー変換 ③エネルギー伝達 ④フェムト秒レーザー
⑤コヒーレントフォノン ⑥半導体量子井戸構造 ⑦顕微発光分光法

主な研究業績(最近5年間)

- ・ I. Akai等, 共著 (2011)、「Rapid energy transfer process through π^* -conjugation network in meta-linked branching dendrimers」phys. status. solidi in press.
- ・ K. Kanemoto 等, 共著 (2010)、「Direct optical probing of negative carriers from an operating [6,6]-phenyl C61 butyric acid methyl ester diode」Appl. Phys. Lett. 97, 033307.
- ・ J. Takeda等, 共著 (2009)、「Highly efficient light-harvesting nano- and biomaterials: material design and new laser spectroscopy」(招待解説論文) Photosynthesis: theory and applications in energy, biotechnology and nanotechnology, Chap. 1, pp.1-42, Nova Science Publisher .
- ・ K. Kanemoto 等, 共著 (2009)、「Morphology-dependent carrier and exciton generations in regioregular poly(3-hexylthiophene) polymer diodes as revealed by bleaching spectroscopy」Phys. Rev. Lett., 103 187402.
- ・ I. Akai等, 共著 (2008)、「Rapid energy transfer in a dendrimer having π -conjugated light-harvesting antennas」(招待論文) New J. Phys., 10 (特集 " Molecular electronics ") 125024.
- ・ I. Akai等, 共著 (2008)、「Energy transfer dynamics in wire-type dendrimers having oligophenylene peripheries」J. Lumin. 128, 948-951 (2008).

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 光物性研究会組織委員

可能な共同研究	光機能性有機材料の応用研究、フェムト秒領域の超高速分光、半導体ナノ構造の光機能性
可能な技術提供	フェムト秒領域の超高速分光、顕微発光分光とそれらの温度変化測定
可能な講演題目	光捕集性 dendrimer の光機能性

地域の皆様へ

無機半導体から有機物まで多彩な物質系で、光を用いた物性探索と評価の研究を行っています。その分野で地域のために何かご協力出来ればと考えています。



岩尾 航希

IWAO KOKI

所属・職名 熊本高等専門学校 共通教育科（八代キャンパス） 講師

生 年 1975年

学 位 理学博士（九州大学）

専門分野 大気科学

連絡先 電話：(0965) 53-1244

e-mail：iwao@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①温暖化などに伴う世界の気候変動の解析
- ②極端な気象現象（異常気象）の解析
- ③オゾンなどの大気微量成分のモニタリング

キーワード：①気候変動 ②異常気象 ③大気波動 ④大気微量成分 ⑤温暖化⑥オゾン

主な研究業績(最近5年間)

- ・岩尾航希・廣岡俊彦（2006年）、
Dynamical quantifications of ozone mini-hole formation in both hemispheres. *J. Geophysical Research* 111, D02104, doi:10.1029/2005JD006333.
- ・岩尾航希・高橋正明（2006年）、
Interannual change in summertime precipitation over northeast Asia. *Geophys. Res. Lett.*, 33, L16703, doi:10.1029/2006GL027119.
- ・岩尾航希・高橋正明（2008年）、
A precipitation seesaw mode between northeast Asia and Siberia in summer caused by Rossby waves over the Eurasian continent. *J. Clim.*, 21, doi:10.1175/2007JCLI1949.1, 2401-2419.
- ・岩尾航希（2009年）、冬季日本周辺で起きる爆弾低気圧の長期的変化、熊本高専紀要、1、p39-44.
- ・岩尾航希・稲津将・木本昌秀（2010年）、冬季日本周辺で起きる爆弾低気圧の長期変化、2010年度日本気象学会春季大会講演予稿集、97、p92.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本気象学会九州支部奨励賞受賞

可能な共同研究	気象・気候研究
可能な技術提供	気象データ分析法
可能な講演題目	気象・気候関係

地域の皆様へ

気象・気候の研究は、パソコンが1台あればできます。異常気象のニュースや、身近に面白い現象があれば、調べてみて下さい。



大島 洋一

OOSHIMA YOICHI

所属・職名 放送大学熊本学習センター 客員教授

生 年 1942年

学 位 理学博士(大阪大学)

専門分野 数学一般(確率論)

連絡先 電話：(096)341-0860

e-mail：oshima@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ① マルコフ過程
- ② 確率解析
- ③ 確率微分方程式
- ④ 確率制御

キーワード：①ディリクレ形式 ②マルコフ過程 ③ 確率部分方程式 ④最適制御

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Y. Ooshima, On an optimal stopping problem of time inhomogeneous diffusion processes, SIAM J. Control and Optim., Vol.45 (2006), pp.569-575
- ・ D.H.Kim and Y.Ooshima, Some inequalities related to transience and recurrence of Markov processes and their applications, J. Theor. Probab., Vol.23 (2010), pp.148-168
- ・ M. Fukushima, Y.Ooshima and M.Takeda, Dirichlet forms and symmetric Markov processes, 2nd extended edition, Walter de Gruyter, 2010, 489pages

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本大学非常勤講師
- ・ 熊本県立技術短期大学校非常勤講師

可能な共同研究	
可能な技術提供	
可能な講演題目	数学(解析、確率統計)関連講演

地域の皆様へ

数学関連は現場の技術あるいは共同研究とは直接の関連は無いと思いますが、色々の分野での間接的な基礎になっていると思います。必要があればご相談下さい。



城本 啓介

SHIROMOTO KEISUKE

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科(工学系)応用数理講座 教授

生 年 1971年

学 位 博士(理学)(熊本大学)

専門分野 情報数学、離散数学

連絡先 電話：(096)342-3626

e-mail : keisuke@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①符号理論
- ②暗号理論
- ③組合せ論
- ④量子情報理論

キーワード：①誤り訂正符号 ②暗号 ③組合せデザイン ④マトロイド ⑤量子誤り訂正符号 ⑥グラフ理論

主な研究業績(最近5年間)

- ・城本 啓介 他(共著) (2010年)、「暗号とセキュリティ」オーム社
- ・T. Britz, G. Royel, K. Shiromoto (2009年)、「Designs from matroids」SIAM J. Discrete Math. 23, pp.1082-1099
- ・M. Jimbo, K. Shiromoto (2009年)、「A construction of mutually disjoint Steiner systems from isomorphic Golay codes」Journal of Combinatorial Theory, Series A 116, pp.1245-1251
- ・T. Britz, K. Shiromoto (2008年)、「Designs from subcode supports of linear codes」Designs, Codes and Cryptography, 46, pp.175-189
- ・T. Britz, K. Shiromoto (2008年)「A MacWilliams type identity for matroids」Discrete Mathematics, 308, pp.4551-4559
- ・D. Britz, T. Britz, K. Shiromoto, H. Sorensen (2007年)、「The higher weight enumerators of the doubly-even, self-dual [48,24,12] code」IEEE Transactions on Information Theory, 53, pp.2567-2571

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ Discrete Mathematics、IEEE Transactions on Information Theory 等査読委員
- ・熊本大学夢科学探検出展(2010年度)
- ・愛知県立大学公開講座講演(2008年度)

可能な共同研究	離散数学の応用研究(含、誤り訂正符号、暗号等)
可能な技術提供	2次元バーコード技術
可能な講演題目	身近に使われている数学、符号と暗号の数理

地域の皆様へ

数学をどのような場面に応用できるかに主眼をおいて研究を行っています。私自身、熊本出身ということもあり、機会があれば積極的に地域貢献を行いたいと思っております。よろしく申し上げます。



中村 能久

NAKAMURA YOSHIHISA

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 助教

生 年 1970年

学 位 博士(理学)

専門分野 数学(偏微分方程式論)

連絡先 電話：(096)342-3642

e-mail : yoshin45@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①偏微分方程式
- ②非線形分散型方程式
- ③シュレディンガー方程式

キーワード：①散乱理論 ②大域解 ③漸近挙動 ④平滑化効果 ⑤ポテンシャル効果 ⑥磁場効果

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 2008年度日本数学会秋季総合分科会一般講演
「Starkポテンシャルを伴った非線形Schrödinger方程式のコーシー問題について」
- ・ 第118回日本数学会九州支部例会一般講演
「シュタルクポテンシャルを伴った非線形シュレディンガー方程式の時間大域解について」
- ・ 第117回日本数学会九州支部例会一般講演
「シュタルクポテンシャルを伴った非線形シュレディンガー方程式のコーシー問題について」
- ・ 研究論文
「On the Cauchy problem of quadratic nonlinear Schrödinger equations with Stark potential in three spacedimensions」,
The Proceeding of the Fifth International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis (2009年)掲載,
p129-140
- ・ 研究論文
「Remarks on the scattering theory for nonlinear Schrödinger equations with Stark potential-alternative proof on the nonexistence of the wave operator」,
The Proceeding of the Forth International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis (2007年)掲載,p461-470
- ・ 研究論文
「Recurrent dimensions and Diophantine conditions of discretedynamical systems given by circle mapping」(内藤幸一郎氏との共著), Journal of Nonlinear Convex Analysis, (2007年)掲載,p105-120

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	テンシャルを伴った／伴わない非線形シュレディンガー方程式の散乱理論について
可能な技術提供	
可能な講演題目	



木幡 進

KOHATA SUSUMU

所属・職名 熊本高等専門学校 生物化学システム工学科 教授

生 年 1952年

学 位 工学博士（九州大学）

専門分野 応用化学

連絡先 電話：(0965) 53-1373

e-mail : kohata@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①未利用資源の有効利用
- ②光触媒による水処理
- ③シクロデキストリンの利用
- ④熱分析

主な研究業績(最近5年間)

- ・ S. Kohata, M. Matsunaga, Y. Hamabe, K. Yumihara, T. Sumi, Photo-stability of Mixture of Violet Pigments Phycoerythrin and Phycocyanin Extracted without Separation from Discolored Nori, Food Science and Technology Research, Vol.16, No.6, pp.617-620 (2010)
- ・ 木幡進, 工藤加奈, 種村公平, 井山裕文, 吉田修二, 下田誠, 服部守男, 光触媒装置と炭素繊維を用いた稚鰓養殖排水の処理, 技術・教育研究論文誌(電気化学会), Vol.16, No.1, pp.9-15 (2009)
- ・ 木幡 進, 川口 寿奈, TRUONG CAO TUE, 本村 朋子, 種村 公平, 弓原 多代, 金属切削油洗浄液から発生する不快臭気的光触媒処理による低減効果, 技術・教育研究論文誌(電気化学会), Vol.16, No.2, pp.63-67(2009)
- ・ 木幡進, 種村公平, 墨利久, 坂本卓, 田中利和, 長山公紀, 齋藤剛, 森下惟一, 生地暢, 大和田紘一, リサイクルガラスを用いた海藻養殖基質の試作, 日本海水学会誌, Vol. 62, No1, pp.42-48(2008)
- ・ S. Kohata, T. Sumi, S. Izumi, M. Asakawa, Methods for Purification of Pigment Proteins in Discolored Nori Seaweed from the Ariake Sea and Stability Against Light, J. Technology and Education, Vol.13, No.1, pp.19-31 (2006)

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	未利用資源の有効利用
可能な技術提供	分析機器による測定評価
可能な講演題目	新しい材料の科学

地域の皆様へ

熊本県の産業界における、生産技術やエネルギー・環境等に関連した諸問題の技術相談の一助として、な範囲で対応させていただきます。



田崎 和博

TAZAKI KAZUHIRO

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 准教授

生 年 1965年

学 位 博士(理学)(熊本大学)

専門分野 固体物性

連絡先 電話：(096)232-9700

研究テーマ

①自動化技術

キーワード：①マイコン ②PLC ③空気圧装置

主な研究業績(最近5年間)

・田崎和博 2008年 「ロボット競技会への参加」 (熊本県立技術短期大学校 紀要 10号)

主な社会活動等(最近5年間)

・技能検定委員 (空気圧装置組立て、電気系保全、集積回路チップ製造、集積回路組立て)

可能な共同研究	
可能な技術提供	PICマイコンを用いたメカトロニクス制御、空気圧実習装置を用いたシーケンス制御
可能な講演題目	

地域の皆様へ

「ものづくりはひとづくりから」地域と連携し明日の実践技術者となる「人財」を育てていきます。



赤松 隆

AKAMATSU TAKASHI

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 応用微生物工学科 教授

生 年 1952年

学 位 工学博士(大阪大学)

専門分野 微生物遺伝学, ゲノム工学

連絡先 電話: (096)326-3929

e-mail: akamatsu@bio.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①種の壁を越える遺伝育種
- ②竹からのバイオエタノール生産に適する酵母の創製

キーワード: ①枯草菌 ②プロトプラスト ③形質転換 ④組み換え ⑤酵母 ⑥竹 ⑦バイオエタノール ⑧遺伝育種

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 1) Takeno, M., Taguchi, H., and Akamatsu, T., Role of ComFA in controlling the DNA uptake rate during transformation of competent *Bacillus subtilis*. J. Biosci. Bioeng., (2011) (in press).
- ・ 2) Saito, Y., Taguchi, H., and Akamatsu, T., DNA taken into *Bacillus subtilis* competent cells by lysed-protoplast transformation is not ssDNA but dsDNA. J. Biosci. Bioeng., 101, 334-339 (2006).
- ・ 3) Saito, Y., Taguchi, H., and Akamatsu, T., Fate of transforming bacterial genome following incorporation into competent cells of *Bacillus subtilis*: a continuous length of incorporated DNA. J. Biosci. Bioeng., 101, 257-262 (2006).

■ 特許

- ・ 1) 赤松 隆 他, “エタノール発酵性ヘテロタリズム酵母”、特願2008-015864
- ・ 2) 赤松 隆 他, “キシロースからエタノールを発酵する酵母”、特願2009-240167 2 0 0 9 - 2 4 0 1 6

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本生物工学会九州支部支部長
- ・ 日本農芸化学会九州支部評議委員
- ・ 九州沖縄農業研究センター遺伝子組換え生物実験等安全委員会委員

可能な共同研究	納豆菌の遺伝育種, 酵母の遺伝育種
可能な技術提供	遺伝子操作に関わる実験技術, 形質転換, プロトプラスト融合, 酵母単細胞分離, 4孢子解析
可能な講演題目	竹からのバイオエタノール生産に供する酵母の育種, 種の壁を越える遺伝育種

地域の皆様へ

二酸化炭素を減らすクリーンなエネルギー生産に役立つように応用研究で地域に貢献します。



荒牧 憲隆

ARAMAKI NORITAKA

所属・職名 崇城大学 工学部 エコデザイン学科 准教授

生 年 1969年

学 位 博士(工学)(山口大学)

専門分野 地盤工学

連絡先 電話：(096)326-3805

e-mail：aramaki@eco.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①破砕性土の静的・動的特性に関する研究
- ②特殊土地盤の地盤改良に関する研究
- ③建設発生土と廃棄物の地盤工学的有効利用に関する研究

キーワード：①火山灰質粗粒土 ②液状化 ③地盤改良 ④建設発生土 ⑤廃棄物 ⑥リサイクル ⑦火山灰質粘性土

主な研究業績(最近5年間)

- ・拘束圧の異なる締固めたしらすの非排水繰返しせん断特性 土木学会地震工学論文集 2007年
- ・火山灰質粘性土の生石灰安定処理効果に及ぼす配合試験条件の影響 材料 2008年
- ・竹炭化材を活用した有明海干潟土の底質改善効果 土木学会海洋開発論文集 2009年
- ・竹炭の地盤改良および地盤環境技術への適用性 地盤改良シンポジウム論文集 2010年
- ・環境と経済を考慮した建設発生土と廃棄物の有効利用 地盤工学会九州支部編 2004年
- ・地盤環境および防災における地域資源の活用 地盤工学会九州支部編 2010年

主な社会活動等(最近5年間)

- ・地盤工学会 九州における地盤災害と防災技術に関する研究委員会委員兼幹事 (H17～H19)
- ・地盤工学会 地盤環境・防災における地域資源の活用に関する研究委員会委員兼幹事 (H19～H21)
- ・土木学会 土砂災害のリスク評価手法の開発と実用化に関する調査・研究委員会委員 (H20～)
- ・地盤工学会 大ひずみ領域を考慮した土の繰返しせん断特性に関する研究委員会委員 (H22～)

可能な共同研究	土の動的・静的特性の実験的検討, 模型・要素試験による地盤対策工法の実証実験
可能な技術提供	土質試験(要素及び模型), 吸光光度計による溶出試験
可能な講演題目	地盤工学一般(主に『研究テーマ』に関すること), ISO14001に基づく環境活動

地域の皆様へ

九州には、『特殊土』と分類される地盤材料が多く、とりわけ、熊本は、海洋～山間部に、粘性土から粗粒土まで幅広く分布しています。そのため、地域特性に基づいた土質特性の把握、新工法の開発、災害での地域への影響等について、研究を推進しています。また、昨今、環境問題の一つでもあります『リサイクル』について、廃棄物の地盤材料への有効利用を進めるべく、物理・化学・力学的特性を踏まえた対策もしくは新材料の開発を行っております。

また、上記とは別に、ISO14001の環境審査員としての観点から、組織内での環境活動、環境マネジメントシステムの構築、認証審査に関わる事項等についても、対応することが可能です。



伊藤 是清

ITO KOREKIYO

所属・職名 東海大学 産業工学部建築学科 講師

生 年 1972年

学 位 博士(工学)

専門分野 建築材料学・施工学

連絡先 電話：(096)386-2688

e-mail：kitou@ktmail.tokai-u.jp

研究テーマ

- ①産業副産物のコンクリートへの有効利用に関する研究
- ②暑中コンクリートの製造、施工、品質に関する研究

キーワード：①建築材料 ②建築施工 ③コンクリート ④暑中コンクリート ⑤フライアッシュ ⑥中性化 ⑦耐久性

主な研究業績(最近5年間)

- ・共著：シリーズ〈建築工学〉6建築材料，全163ページ，朝倉書店，2009
- ・伊藤是清，小山智幸，小山田英弘，松藤泰典：フライアッシュを外割混合したコンクリートの中性化の評価，都市・建築学研究，九州大学大学院人間環境学研究院紀要，第16号，pp.141-148，2009.7
- ・小山智幸，松藤泰典，伊藤是清，小山田英弘：フライアッシュを大量混合したコンクリートの実大模擬部材試験体による検証，日本建築学会技術報告集，第28号，pp.383-388，2008
- ・伊藤是清，小山智幸，小山田英弘，船本憲治，松藤泰典：フライアッシュを混合したコンクリートの自然曝露環境下における中性化性状に関する研究，都市・建築学研究，九州大学大学院人間環境学研究院紀要，第10号，pp.115-121，2007.7
- ・小山智幸，松本尚樹，伊藤是清，小山田英弘，松藤泰典：無機粉体スラリーを用いたコンクリートの流動性向上効果に関する研究スラリーのゼータ電位とコンクリートの流動性に関する検討，都市・建築学研究，九州大学大学院人間環境学研究院紀要，第10号，pp.103-109，2006.7
- ・陶山裕樹，小山智幸，伊藤是清，松藤泰典：副産物系無機粉体を外割混合したコンクリートの強度発現性状，コンクリート工学年次論文集，Vol.28，No.1，pp.269-274，2006.7

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本建築学会九州支部 材料・施工委員会委員
- ・NPO法人エコプロダクツ開発研究会会員
- ・特殊混和材の製造管理システムを構築するための研究会会員

可能な共同研究	産業副産物のコンクリートへの有効利用，コンクリートの耐久性(中性化，アルカリ骨材反応，硫酸劣化など)
可能な技術提供	フライアッシュなどの副産粉体を大量混合したコンクリートの用法，暑中コンクリートの品質管理技術
可能な講演題目	コンクリートの最新技術，フライアッシュのコンクリートへの有効利用技術

地域の皆様へ

フライアッシュなどの副産粉体を大量混合した高性能コンクリートの開発，ならびに暑中環境下に施工されるコンクリートの生コンプラントでの製造から構造体の物性に至る一連の品質管理方法について研究しています。また，NPO法人エコプロダクツ開発研究会では，熊本県内の企業・大学と連携して建設廃材のリサイクル技術や新建材の開発について取り組んでいます。熊本の更なる発展のために微力ながら尽力できれば幸いです。



伊藤 重剛

ITO JUKO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1951年

学 位 工学博士

専門分野 建築史

連絡先 電話：(096)342-3586

e-mail：itoj@arch.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①地中海古代建築の設計法と施工法
- ②歴史的建築の調査と保存
- ③熊本市の都市史の研究

キーワード：①地中海古代建築 ②古代ギリシア・ローマ建築 ③設計法と施工法 ④実測調査 ⑤熊本の明治・大正建築

主な研究業績(最近5年間)

- ・伊藤重剛 他、『古代都市街路』（吉田伸之・伊藤毅編、「伝統都市3・インフラ」、pp.73-101、東京大学出版会、2010年7月）
- ・伊藤重剛 他2名、「旧安田銀行山鹿支店の建築」、日本建築学会九州支部研究報告 計画系 Vol.49, No.3, pp.529-532, 2010年3月
- ・伊藤重剛 他2名、「旧制玉名中学校本館の建築に関する研究（1）建物の概要」、「同（2）復元と考察」日本建築学会九州支部研究報告 計画系 Vol.49, No.3, pp.521-524, pp.525-528, 2010年3月
- ・伊藤重剛 他2名、「ギリシア古代都市メッセネにおけるメッセネ神殿の周柱の平面に関する研究」、日本建築学会計画系論文集 No.638, pp.955-962, 2009.4

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市景観審議会委員
- ・平戸市海外交流史研究委員会委員
- ・宇城市三角西港保存管理委員会委員

可能な共同研究	
可能な技術提供	歴史的建築の調査
可能な講演題目	西洋古代建築、熊本の明治大正の建築、熊本の都市史

地域の皆様へ

私の研究室では、歴史的建築の調査や研究を行なっています。地中海の古代建築の研究が専門的研究の分野ですが、熊本の特に明治以降の歴史的建築も研究しています。そのために、まず実測調査をして図面を作成して記録を作り、そのあとにこれをもとに保存の方法などを考えます。歴史的建築を保存することは、現在では半分当たり前のようになっていますが、実際には経済的な問題などがあり、難しい点もあります。地域の文化や伝統を維持するために、貢献したいと思っています。



井上 高宏

INOUE TAKAHIRO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1946年

学 位 工学博士(九州大学)

専門分野 アナログ電子回路工学

連絡先 電話：(096)342-3844

e-mail：pt-inoue@cs.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①能動フィルタ構成法の研究
- ②スイッチトキャパシタ回路の研究
- ③RFIDタグ用集積回路の研究
- ④低電圧低消費電力CMOSアナログ回路の研究

キーワード：①フィルタ ②アナログ電子回路 ③アナログ集積回路 ④RFIDタグ ⑤CMOS ⑥低電圧
⑦低消費電力

主な研究業績(最近5年間)

- ・ A. Nakajima, T. Inoue, and A. Tsuneda, "A Proposal of a Novel RFID Tag with Biomedical Signal Sensing Functions," IEEJ Trans. EIS, Vol.130, No.5, pp.790-798, May 2010.
- ・ 中島晃, 榎永大輔, 井上高宏, 常田明夫, "能動ICタグのための高速スタートアップ特性をもつ電流再利用形LC発振回路," 電気学会論文誌C, Vol.129, No.12, pp.2239-2240, Dec. 2009.
- ・ T. Yamakawa, T. Inoue, and A. Tsuneda, "Design and Experiments of a Novel Low-Ripple Cockcroft-Walton AC-to-DC Converter for a Coil-Coupled Passive RFID Tag," IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E91-A, No.2, pp.513-520, Feb. 2008.
- ・ F. Tmischl, T. Inoue, A. Tsuneda, D. Masunaga, "A New Low-Power 13.56-MHz CMOS Ring Oscillator with Low Sensitivity of f_{osc} to V_{DD} ," IEICE Trans. Fundamentals, Vol.E91-A, No.2, pp.504-512, Feb. 2008.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ JABEE審査オブザーバー
- ・ NEDO技術委員

可能な共同研究	RFIDタグ用集積回路の設計, スイッチトキャパシタ回路の設計
可能な技術提供	スイッチトキャパシタ回路, 能動RCフィルタ, MOS集積化アナログフィルタ
可能な講演題目	能動フィルタ, RFIDのための集積回路, アナログ集積回路の設計法

地域の皆様へ

九州の熊本県域は、現在、わが国の半導体生産拠点の一つとしてその地位を確保しているが、経済のグローバル化の進展に伴い単なる生産のみの拠点では生産工場の海外流出の流れはいずれ熊本地域にも及ぶことが予想される。そのような場合にあってはこの地域が半導体産業の拠点の一つであり続けるには、自前の技術開発能力と製品設計能力を備え、かつ世界を視野においたマーケティング能力をもつ集団を地域に根付かせておく必要があると日頃感じている。有能な学生が地域に根付いてその能力を発揮でき、自己研鑽できる場や仕掛けの存在が地域の将来を左右すると言って過言ではないと思っている。微力ではあるが、若手技術者の課題発見と課題解決能力の涵養には今後も力を注いでいこうと思っている。



伊山 義忠

IYAMA YOSHITADA

所属・職名 熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科 教授

生 年 1955年

学 位 工学博士（東北大学）

専門分野 マイクロ波工学

連絡先 電話：(096) 242-6073

e-mail : yiyama@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①マイクロ波制御回路研究
- ②マイクロ波半導体回路研究
- ③マイクロ波実装回路研究
- ④マイクロ波伝送回路研究

キーワード：①マイクロ波 ②ミリ波 ③高周波半導体 ④高周波実装 ⑤高周波伝送 ⑥マイクロ波コンポーネント

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Yoshitadalyama, 「Q-factorformulationsasafunctionofladdernetworktransmissionphase」, 2009Korea-Japan MicrowaveConference, pp.109-112, 2009年4月.
- ・ 伊山義忠, 「伝送線路を用いた発振回路における通過位相に注目したQファクタ」, 電子情報通信学会技術報告MW2010-66, pp.1-6, 2010年9月.
- ・ 草野美智子, 遠山徹, 伊山義忠, 堀本博, 「学校版環境ISO自主宣言への取り組み」, 高専教育, 32号, pp.787-792,2009年3月.
- ・ 伊山義忠, 「はしご形の移相回路における通過位相特性及びQファクタに関する検討」, 電子情報通信学会技術報告MW2008-41, pp.53-57, 2008年6月.
- ・ 伊山義忠, 大山英典, 下田道成, 「プラスチック素材を基板としたマイクロストリップ線路のマイクロ波帯における実効誘電率評価結果」, 熊本電波工業高等専門学校研究紀要, 33号, pp.39-44,2006年11月.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ ものづくり分野の人材育成・確保事業カリキュラム作成委員会委員長
- ・ 高専等を活用した中小企業人材育成事業カリキュラム作成委員会委員長

可能な共同研究	マイクロ波半導体回路応用研究
可能な技術提供	マイクロ波回路技術
可能な講演題目	最先端のマイクロ波回路

地域の皆様へ

高専等を活用した中小企業人材育成事業やものづくり分野の人材育成・確保事業を通じて、これまで地域の中で実践的技術の提供に努めてまいりました。今後も引き続き、ものづくりに根ざした技術の創出に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



岩井 善太

IWAI ZENTA

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 校長

生 年 1941年

学 位 工学博士(京都大学)

専門分野 制御工学、機械力学

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail : iwai@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①PID制御系設計
- ②SAC (単純適応制御) の応用
- ③機械振動の解析
- ④実用数学教育
- ⑤熊本洋学校と中原淳蔵

キーワード： ①適応制御 ②PID制御 ③多変数制御 ④アクティブ制振 ⑤振動制御 ⑥技術系数学基礎 ⑦L.L.ジェーンズ

主な研究業績(最近5年間)

- ・岩井善太著(2010年)「技術系数学基礎」、日新出版
- ・岩井善太(2010年)「熊本が生んだ明治の実践工学者中原淳蔵」、工学教育、第58巻第2号
- ・岩井善太・水本郁朗・大塚弘文著(2009年)「単純適応制御SAC」、森北出版
- ・水本郁朗・岩井善太(2009年)「特集(適応制御の新しい潮流)：概強正実(ASPR)性にもとづく適応PID制御系設計」、計測と制御、第48巻第8号
- ・Zenta Iwai(2008)「Active Vibration Control: Design Issues and Practical Implementation (Keynote Speech)」, International Symposium on Advanced Control of Industrial Processes(AdCONIP),CD-ROM, Jasper, Canada

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県工業連合会参与
- ・熊本県ものづくり工業会顧問
- ・RIST参与
- ・AdCONIP2011 in China, Member of Advisory Committee
- ・ジェーンズの会理事
- ・高等教育コンソーシアム熊本理事

可能な共同研究	制御手法の応用
可能な技術提供	PID制御(適応及び非適応)の応用、振動解析
可能な講演題目	制御工学・振動工学関連、熊本洋学校の教育

地域の皆様へ

「制御」という技術は、最適化を目標とする。典型的な例として、石油化学プラントの、製品の質の向上と運転コスト削減を運転方法(制御方法)を工夫することにより同時に達成することへの適用がある。この場合、ハードウェアに関する投資はさほど必要ではないので、大きなプラントではそれによる経費削減額が巨額になることがある。多くの分野で、似たような課題があり、その場合上手な稼働方法で収益増大を図ることが可能であろう。ただ、適用に際して、制御工学における高度な知識が必要となる場合がある。その場合には、大学等の研究機関と連携すれば問題解決が容易になる場合が多いので、一度相談されることをお勧めする。



上野 賢仁

UENO TAKAHITO

所属・職名 崇城大学 工学部 エコデザイン学科 准教授

生 年 1966年

学 位 博士(工学)(九州大学)

専門分野 土木工学、環境システム工学、都市熱環境

連絡先 電話：(096)326-3794

e-mail：ueno@eco.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①都市熱環境（土地被覆、空調負荷、エネルギー消費）
- ②水環境（水質、低濃度汚濁水処理）
- ③ライフスタイルと環境
- ④リモートセンシング
- ⑤GIS

キーワード：①都市 ②熱環境 ③エネルギー ④緑化 ⑤ライフスタイル ⑥リモートセンシング ⑦数値計算

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Byungdug Jun, et. al. : Spatial Database of the Northern Area of Yellow River for Research of Sediment Discharge, The 26th Asian Conference on Remote Sensing (ACRS2005) (7-11 November 2005, Melia Hotel, Hanoi, VIETNAM), 2005 (CD-ROM).
- ・ Byungdug Jun, , et. al. : A method for River Morphology of the Yellow river Tributary used by LANDSAT and SRTM Data, International Conference on Space Technology and Geo-Informatics 2006, (5-8 November, Ambassador City Hotel, Pattaya City, Chonburi, Province, Thailand), 2006 (CD-ROM).
- ・ 上野賢仁他：熊本市中心市街地の暑熱環境と衛星情報等による周辺状況との比較研究，第36回環境システム研究発表会 講演集 Vol.36, pp.325-330, 2008.
- ・ 上野賢仁他：崇城大学の防火水槽の水質浄化実験について，崇城大学研究報告，第34巻，第1号，pp.51-56, 2009.
- ・ Takahito Ueno, Kazunori Tamaoki , THERMAL CHARACTERISTICS OF URBAN LAND COVER BY INDOOR LAMP-IRRADIATION EXPERIMENT, The seventh International Conference on Urban Climate, 29 June - 3 July 2009, Yokohama, Japan (CD-ROM).
- ・ 村田重之他：木山水系河川浄化プロジェクト，崇城大学研究報告，第35巻，第1号，pp.35-48, 2010.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 土木学会調査研究部門環境システム委員会委員
〔土木学会調査研究部門環境システム委員会 論文審査小委員会 委員〕 平成19年4月～23年3月

可能な共同研究	都市熱環境研究、都市の土地被覆改善による熱環境改善の効果
可能な技術提供	リモートセンシング解析
可能な講演題目	都市の土地利用・土地被覆と熱環境、都市温暖化とヒートアイランド

地域の皆様へ

熊本の夏の厳しい熱環境を改善することと、それに伴う都市エネルギー消費の低減を目標として、少しでも役立つ研究ができればと考えています。そして、研究成果を熊本から、国内だけでなく世界にも発信したいと考えています。



上村 武

UEMURA TAKESHI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 准教授

生 年 1943年

学 位 工学博士(東京都立大学)

専門分野 機械工学、材料力学、材料強度学、構造健全性

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail：uemura@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①材料の疲労特性研究
- ②ベイズ更新の応用
- ③構造物の健全性の研究

キーワード：①疲労 ②金属疲労 ③材料強度 ④破壊力学 ⑤疲労特性

主な研究業績(最近5年間)

- ・上村 武 ベイズ更新を用いた少数サンプルによる統計量の推定(2011年)、「第25回熊本県産学官技術交流会」第25回熊本県産学官技術交流会事務局

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	材料強度特性の評価、破面解析、事故解析
可能な技術提供	ベイズ更新法、疲労設計手法
可能な講演題目	ベイズ更新法による統計量の推定、疲労設計手法

地域の皆様へ

実業界(重工業の研究開発部門)において学習(経験)した構造体の健全性評価手法が新規開発や事故解析にお役に立てるかと思えます。



王 斗艶 (オウトエン)

DOUYAN WANG

所属・職名 熊本大学 大学院先端機構 特任助教

生 年 1975年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 パルス放電工学、放電プラズマ工学、バイオエレクトロクス

連絡先 電話：(096)342-3945

e-mail：douyan@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①ナノ秒パルス放電プラズマによる汚染気体・液体の浄化
- ②ナノ秒パルス放電プラズマによるオゾンの高効率生成
- ③放電プラズマによる一酸化窒素の生成
- ④放電プラズマによる植物・キノコ類の生育制御
- ⑤放電プラズマによる細胞内への物質導入

キーワード：①放電プラズマ ②大気浄化 ③水質浄化 ④水中有害生物の駆除 ⑤植物生育制御 ⑥遺伝子導入
⑦タンパク質導入

主な研究業績(最近5年間)

- ・ D. Wang et al., "Pulsed discharge induced by nano-seconds pulsed power in atmospheric air", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.38, No.10, pp.2746-2751, 2010.
- ・ D. Wang et al., "Development of Higher Yield Ozonizer Based on Nano-Seconds Pulsed Discharge", Journal of Advanced Oxidation Technologies, Vol.13, No.1, pp.71-78, 2010.
- ・ D. Wang et al., "A New Application of Underwater Pulsed Streamer-like Discharge to Transcriptional Activation of Retrotransposon of Porphyra yezoensis", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.38, No.1, pp.39-46, 2010.
- ・ D. Seki, D. Wang et al., "Protein Transduction into Eukaryotic Cells Using Pulsed Power Technologies", 7th International Bioelectrics Symposium, Norfolk, VA, USA, 2010.
- ・ J. Choi, D. Wang et al., "Inactivation of spores using pulsed electric field in a pressurized flow system", Journal of Applied Physics, 104, 094701, 2008.
- ・ Z. Li, S. Sakai, C. Yamada, D. Wang et al., "The effects of pulsed streamer-like discharge on cyanobacteria cells", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.34, No.5, pp.1719-1724, 2006.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ “第3回くまもとバイオビジネス大賞・優秀賞” 受賞 (受賞形態：研究連携先)
- ・ “平成21年電気学会全国大会優秀論文発表賞” 受賞

可能な共同研究	パルス放電プラズマに関する応用研究、植物・キノコ類の生育制御およびストレス耐性に関する応用研究
可能な技術提供	気体・液体の浄化技術、植物細胞制御技術
可能な講演題目	放電プラズマによる環境・バイオへの応用

地域の皆様へ

放電プラズマを用いた環境浄化・バイオ分野に関する応用研究を行っています。お気軽にご相談下さい。



大坪 武廣

OTSUBO TAKEHIRO

所属・職名 熊本県立技術短期大学校精密機械技術科 准教授

生 年 1947年

学 位 工学博士(桐蔭横浜大学)

専門分野 歯車、ねじ、機構、工作機械、CAD/CAM、リコーダー

連絡先 電話：(096)232-9700(直通9806)

e-mail：otsubo@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①円弧歯形非円形歯車
- ②バレル研磨機
- ③コイルロッド
- ④スネークネジ
- ⑤リコーダー

キーワード：①歯車 ②非円形歯車 ③円弧歯形 ④歯車創成 ⑤研磨機 ⑥バレル ⑦ねじ ⑧コイル ⑨スネーク
⑩楽器 ⑪リコーダー

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Method of manufacturing Asymmetric Gear, Asymmetric Gear, Non-circular and Asymmetric Gear, Gear Mechanism, and Barrel Finishing Machine. United States Patent, US 6,991,522, and European Patent EP1355087(2006)
- ・ 円弧歯形非円形歯車の研究－円弧歯形非円形歯車の開発と各種機械への応用－、熊本県立技術短期大学校紀要、第7号(2006)
- ・ リコーダー、登録実用新案 第3127107号(2006)
- ・ 送りねじ装置及びウオーム歯車装置、特許公開公報(2009)
- ・ フリーピッチコイルロッドの開発、熊本県立技術短期大学校紀要、第10号(2009)
- ・ Generation of Precision Gear Tooth Profile, Bulletin of Kumamoto Prefectural College of Technology No.12(2011)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 「九州工学教育協会賞」受賞(九州大学、2007)
- ・ 「HONOR ROLL AWARD」受賞(Society of Manufacturing Engineers, USA, 2008)
- ・ 「上級教育士」取得(工学・技術、教授級、(公社)日本工学教育協会、2008)
- ・ 熊本県職業能力開発協会会長より永年国家技能検定業務貢献に対する感謝状受領(2009)
- ・ 天草池田電機株式会社・池田博嗣社長より産学連携技術支援に対する感謝状受領(2009)
- ・ 熊本県商工観光労働部・部長表彰(2010)

可能な共同研究	円弧歯形非円形歯車の応用、開発品の長いねじや曲線ねじの応用
可能な技術提供	円弧歯形非円形歯車、コイルロッド、スネークネジ関連技術
可能な講演題目	ダビンチのようなエンジニアの薦め、非円形歯車の有用性と応用分野、長いねじや曲線ねじの有用性と応用分野

地域の皆様へ

私は、工作機械製造メーカーの技術者として20年、教育訓練指導教員として20年の経験があります。滋賀県在住の折りには、滋賀県知事委託の技術アドバイザーの任命を受け、滋賀県内企業の技術指導も行っていました。現在、熊本県内企業に対して、産学官連携事業として技術開発支援も行っています。



小川 厚治

OGAWA KOJI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科環境共生工学専攻 教授

生 年 1949年

学 位 工学博士(大阪大学)

専門分野 工学、建築学、建築構造

連絡先 電話：(096)342-3564

e-mail：ogawa@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①鋼構造骨組の地震応答性状
- ②最大層間変位指定型耐震設計法
- ③偏心を有する鋼骨組の単純化動力学モデルの開発 ④薄肉開断面材の座屈解析

キーワード：①制震ダンパー ②応答制御 ③ねじれ振動 ④筋違 ⑤地震応答解析 ⑥座屈解析 ⑦曲げねじれ座屈

主な研究業績(最近5年間)

- ・前田珠希・上林正・小川厚治(2010年)軸圧縮を受ける溝形鋼柱の座屈耐力に関する研究、鋼構造年次論文報告集
- ・横尾雅代・小川厚治(2010年)柱脚の復元力特性が鋼構造骨組全層の最大層間変位角に及ぼす影響、鋼構造論文集
- ・酒井快典・小川厚治(2010年)水平2方向地動を受ける鋼構造骨組の適正な柱梁耐力比、鋼構造論文集
- ・川島敏夫・出口義史・小川厚治(2009年)鋼構造骨組の部材耐力分布の適正化に関する研究、日本建築学会構造系論文集
- ・木原 隆志・福田 光俊・小川 厚治(2009年)直交2構面の梁の剛性・耐力が異なる鋼構造骨組の最大層間変位角応答に関する研究、日本鋼構造協会鋼構造論文集
- ・横尾雅代・小川厚治(2009年)相対的に弱い柱脚をもつ鋼構造骨組の部材耐力適正分布、鋼構造年次論文報告集

主な社会活動等(最近5年間)

- ・(財)熊本県建築住宅センター 構造評価委員会委員(2008.10～)
- ・(株)全国鉄骨評価機構 評価員(2001.10～)
- ・(株)日本鉄骨評価センター 評価員(2008.10～)
- ・熊本県鉄骨問題協議会 顧問(2006.4～)
- ・(社)日本建築学会九州支部構造委員会鋼構造部会 部会長(2007.4～2009.3)
- ・鉄鋼連盟九州地区サブネットワーク 幹事(200.5.4～)

可能な共同研究	
可能な技術提供	地震応答解析、塑性解析、座屈解析
可能な講演題目	地震と建物、耐震・制震・免震の考え方

地域の皆様へ

熊本・九州・日本の建築鉄骨の質的向上、特に耐震性能の向上に協力させていただきたいと思っています。



小田 明範

ODA AKINORI

所属・職名 熊本高等専門学校 機械知能システム工学科 教授

生 年 1962年

学 位 工学博士（九州大学）

専門分野 原子力工学

連絡先 電話：(0965) 53-1281

e-mail：odaki@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①放射線計測システムを用いた実験
- ②霧箱の製作とこれを用いた放射線の飛跡の観察
- ③産業用多軸ロボットのプログラム制御
- ④レーザー核融合炉開発のための数値シミュレーション法による基礎的研究
- ⑤磁場閉じ込め方式核融合炉の燃焼制御

キーワード：①放射線測定 ②霧箱 ③原子力人材育成 ④産業用多軸ロボット ⑤燃焼制御 ⑥数値シミュレーション ⑦核融合

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Akinori Oda, Genki Minawa(2010年) “Practice of Upbringing of Students for Nuclear Energy Industry”、4th Int.Symp.On Advances in Technology Education (ISATE2010)、Kagoshima、2PS12
- ・ 田中裕一、河崎功三、福田泉、開豊、豊浦茂、小田明範、井山裕文(2009年)「八代高専における機械系設計教育の現状」、第2回 高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップ
- ・ 小田明範,木幡進,中原潤士(2009年)「原子力人材育成に向けた八代高専での取り組み」、熊本高等専門学校研究紀要第1号、PP.9-15
- ・ 木幡進、小田明範（2008年）「環境放射能測定実習への講義への導入による放射線教育の実践」、技術・教育研究論文誌 Vol.15, No.2,pp.47-50
- ・ 小田明範,中尾安幸,粉幸太郎（2006年）「高速点火方式に基づく先進燃料核融合のシミュレーション研究」、レーザー研シンポジウム2006、PP.22-23

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 3D-CAD人材育成事業講師
- ・ 「原子力・放射線に関する教職員セミナー 八代高専コース」の開催（2009年）
- ・ 八代子供科学フェア、テクノサイエンスキッズへの放射線測定器・霧箱等の出展（2009年、2010年）

可能な共同研究	
可能な技術提供	霧箱による放射線の飛跡観察、放射線測定
可能な講演題目	放射線と原子力、環境とエネルギー

地域の皆様へ

私たちの身の回りには、地球が誕生してからずっと自然界に存在している放射線や、人工の放射線などさまざまなものがあります。霧箱は肉眼で放射線が通過した跡を観る装置です。霧箱を用いて、放射線の存在を体感してみませんか。原子力エネルギーは怖いイメージがありますが、日本の電気発電の約3割を占めています。原子力を初めとするエネルギーについて一緒に考えてみましょう。



釜田 浩

KAMADA HIROSHI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校機械制御技術科 教授

生 年 1953年

学 位 博士(工学)(京都大学)

専門分野 電気応用精密加工

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail：kamada@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①歯科技工作業用咬合器の改良
- ②CAD/CAM/CAE技術のからくり人形への適用に関する研究
- ③タップ穴加工の加工精度の向上に関する研究

キーワード：①歯科技巧 ②CAD/CAE ③タップ加工

主な研究業績(最近5年間)

- ・釜田、岩井；実践的能力育成のための機械設計教育手法、日本工学教育協会 工学・教育研究講演会（2009.8）
- ・釜田；実践的能力育成のための機械設計教育手法、熊本県立技術短期大学校紀要（2009）
- ・釜田；研磨抵抗の動的計測に基づく研磨加工の特性評価、熊本県立技術短期大学校紀要（2007）

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県 射出成形技能検定1級 検定員（～2010）
- ・熊本県ものづくり工業会 機械分野人材育成研究会委員（～2009）
- ・社団法人電気加工学会理事（～2008）

可能な共同研究	電解応用加工、射出成形、精密加工計測、3次元CAD/CAEおよび3次元造形
可能な技術提供	上記分野にかかわる専門技術
可能な講演題目	

地域の皆様へ

長年、関西の民間企業において精密加工に関する研究開発および各種自動化機械の設計開発業務に従事してきました。幅広い専門分野の実務経験と知識をベースに、熊本においては人材育成の経験も積ませていただきました。熊本県産業の総合技術力向上のために貢献したいと願っています。



川寄 義則

KAWASAKI YOSHINORI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 特別准教授

生 年 1946年

学 位 工学博士(京都大学)

専門分野 制御工学、機械力学

連絡先 電話：(096)232-9783

e-mail : kawasaki@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①適応制御応用
- ②制振制御応用
- ③機器開発 (福祉、環境、医療、防災)

キーワード：①位置決め ②振れ止め ③障害者のための福祉機器 ④手術用機器

主な研究業績(最近5年間)

- ・川寄、「全国高専の先生のものづくりのタネ」吉田喜一編著、全商連付属・中小商工業研究所発行(2009)
- ・川寄、笠野、村上、「障害児のための普及型教育的自走車の開発とその走行安定性の検討」有明工業高等 専門学校紀要、第45号(2009)
- ・川寄、木下、「技術職員の集中化による再組織化」有明工業高等専門学校紀要、第44号(2008)
- ・高橋、木下、五郎丸、川寄、岩井、「未知パラメータをもつ系に対する完全非弾性衝突を利用した自由振動抑制法」、日本機械学会論文集、C編、第73巻、第734号(2007)
- ・高橋、木下、葭原、川寄、岩井、「完全非弾性衝突による自由振動抑制法」、日本機械学会論文集、C編、第72巻、第718号(2006)
- ・木下、川寄、「障害児のための工房バギー用乗り込み型自走車の開発」リハビリテーション・エンジニアリング、No.21、Vol.2、(2006)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・大牟田市福祉ものづくり研究会委員(2009~2010)
- ・平成21年度大学教育等推進事業委員会 書面審査委員(2009)
- ・平成20年度質の高い大学教育推進プログラム(現代GP) 選定委員会 高等専門学校部会ペーパーレフェリー(2008)
- ・地域密着型福祉全国セミナー、「ノーマリゼーションin大牟田」実行委員会委員(2008)
- ・日本機械学会 九州支部商議員(2007~2008)
- ・日本機械学会 技術と社会部門 運営委員会委員(2007~2009)

可能な共同研究	機械システムの制御、福祉、環境、医療、防災などの各種機器開発
可能な技術提供	同上
可能な講演題目	同上

地域の皆様へ

これまで、機械システムの制御の研究を機軸に、並行して福祉、環境、医療、防災などの各種機器開発研究を行ってきました。特に後者では、従来手つかずであった隙間技術に興味を持ち、人の手足の延長にある機器開発に着目して実践してきました。ハイテク、また大きな設備投資をせずに社会に貢献できるこれらの機器開発を継続展開できればと考えています。地域から、小さいが元気のある新技術の情報発信をしませんか。



河邊 真二郎

KAWABE SHINJIROU

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 精密機械技術科 教授

生 年 1961年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 機械設計

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail : kawabe@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

①水中衝撃波を用いたガラス容器の破砕解析評価とリサイクルに関する研究

キーワード：①水中衝撃波 ②ガラス容器 ③リサイクル

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 爆破エネルギーによるガラス容器の破砕挙動評価／(共著)／第24回 熊本県産学官技術交流会講演論文集、pp.44-45,2010.2
- ・ High-Speed Fracture Phenomena of Glass Bottle by Underwater Shock Wave／(共著)／Materials Science Forum Vols. 654-656 (2010) pp.2543-2547.
- ・ OBSERVATION OF HIGH-SPEED FRACTURE OF GLASS CONTAINERS BY USING UNDERWATER SHOCKWAVE／(共著)／International Symposium on Explosion, Shock Wave and High-energy reaction Phenomena 2010 (3rd ESHP Symposium)
- ・ Experimental and numerical analyses of high-speed fracture behaviors in glass bottles by using underwater shockwave／(共著)／Proceeding of International Symposium on Shock Wave、pp.418,St.Pwtersburg,Russia,2009-7.
- ・ 水中衝撃波を用いたガラス容器の破砕の光学的観察／(共著)／第22回 熊本県産学官技術交流会講演論文集、pp.106-107,2008.1
- ・ Visualization of high-speed fracture behavior of glass container by using underwater shockwave／(共著)／International Workshop on Explosion, shock Wave and Hypervelocity Phenomena 2008、pp.78-79,2008.9

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 在職者セミナー(機械製図、CAD)
- ・ 技術・技能者育成「就職支援セミナー(機械製図)」
- ・ 技能検定委員(射出成形、機械系保全 等)
- ・ 中級教育士(工学・技術)取得

可能な共同研究	JIS機械製図、2DCAD、3DCAD
可能な技術提供	
可能な講演題目	

地域の皆様へ

地域連携による研究が行なわれることはたいへん素敵なことだと思います。さらに研究と産業とが結ばれることで、互いに活性化され、地域全体の発展につながることも期待されます。地域の優秀な人材が活躍できる場も増え、同時に人材育成の役割も重要性を増してきそうです。いつの日か私も何らかの形で地域貢献できることを夢見ています。



北園 芳人

KITAZONO YOSHITO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1949年

学 位 工学博士

専門分野 地盤工学, 防災工学

連絡先 電話：(096)342-3540

e-mail : kitazono@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①火山灰質粘性土の安定処理
- ②斜面崩壊危険度マップの作成
- ③自然災害に対する危機管理
- ④ひとにやさしい歩道・自転車道

キーワード：①火山灰質粘性土 ②安定処理 ③斜面崩壊 ④ハザードマップ ⑤自然災害 ⑥危機管理 ⑦遮熱性舗装

主な研究業績(最近5年間)

- ・北園・清野・高橋・橋本・牧：地域の防災リーダーの養成事業の現状，自然災害科学，Vol.26,No.2,pp.105-148，2007
- ・長谷・岩内・長峰・永尾・工藤・坂本・福田・北園：2003年水俣宝河内土石流災害，日本応用地質学会九州支部会報，No.28，pp.2-10，2007
- ・周・横矢・陳・北園：GISを活用した数量化理論による斜面崩壊ハザードマップ作成手法の開発と適用，応用地質，第49巻，第1号，pp.2-12，2008
- ・北園・田嶋・野原・田中・西村：火山灰質粘性土の化学的安定処理について，第54回地盤工学シンポジウム，pp.55-58，2009
- ・北園芳人・井上敦裕：斜面崩壊の素因に注目した斜面の危険度評価，第4回土砂災害に関するシンポジウム，pp.97-102，2008
- ・北園芳人：歩道の歩きやすさの評価(2)，日本福祉のまちづくり学会第13回全国大会，2E-4,2010

主な社会活動等(最近5年間)

- ・NPO法人熊本自然災害研究会理事(2005年～)
- ・日本自然災害学会編集委員会委員(2005年～)
- ・地盤工学会九州支部「九州における地盤災害と防止技術に関する研究委員会」委員(2005-2007年)
- ・熊本県「異常気象時における事前通行規制の見直しに伴う検討委員会」委員長(2007年)
- ・土木学会西部支部第4回土砂災害に関するシンポジウム実行委員長(2008年)
- ・木学会西部支部「土砂災害のリスク評価手法の開発と実用化に関する調査・研究委員会」副委員長(2008年～2010年)
- ・各市町村が設定する土砂災害避難勧告等基準の事例検討会議委員(2010～)

可能な共同研究	地盤の安定処理, 土砂災害対策, 危機管理, 土砂災害のデータベース化
可能な技術提供	地盤の安定処理, 数量化理論による統計的解析, 危機管理システム
可能な講演題目	土砂災害対策, 地盤の安定処理, 自主防災組織の活動

地域の皆様へ

地域の安全・安心への貢献を目指して、国・県・市の土木技術アドバイザーを種々務めています。専門は地盤に関する問題ですが、地盤は社会基盤整備の土台となるものです。地盤をどれだけ知っているかが社会基盤整備を進める上で重要です。地域の安全・安心さらに快適さを求めて研究をしています。気軽に声を掛けてください。



北原 昭男

KITAHARA AKIO

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科長、教授

生 年 1959年

学 位 博士(工学)(京都大学)

専門分野 木質構造学、建築耐震構造、都市地震防災

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①木質系構造物に関する耐震性評価のための構造実験
- ②木質系構造物の耐震設計法・耐震診断法・耐震補強法に関する研究
- ③都市防災のための既存不適格建物に関する耐震性向上・住民の耐震安全性に対する意識向上方策に関する研究
- ④都市木質系住宅群を対象とした地震応答計算手法および地震被害推定手法の構築
- ⑤地域・地区を対象とした地震防災計画策定のための調査・研究

キーワード：①木造構造物 ②建築耐震構造 ③伝統的構造物 ④都市地震防災

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著、静的実験による斜め貫を有する木造軸組の耐震性能評価（その2：込み栓留め斜め貫の性能）、日本建築学会九州支部研究報告、2009/3、pp.613-616
- ・ 共著、格子を用いた伝統木造軸組の耐震性能に関する研究（その2：伝統的意匠を備えた格子の性能）日本建築学会九州支部研究報告、2009/3、pp.617-620
- ・ 共著、拡張樹脂アンカー工法を用いた木質構造物の性能評価、日本建築学会九州支部研究報告、2010/3、pp.653-656

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 全国い産業連携協議会提携システム構築推進委員会（2010年6月～ ）
- ・ 熊本県林業研究指導所外部評価委員（2006年～ ）
- ・ 小国町省エネルギービジョン策定委員会委員長（2008年7月～2009年3月）

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

地域の木材を用いた在来構法・伝統構法による木造建物の構造性能評価や、都市における建物群の耐震性・安全性に関する研究を通して、地域への貢献を続けていきたいと考えています。



木場 信一郎

KOBA SHINICHIRO

所属・職名 熊本高等専門学校 専攻科 教授

生 年 1957年

学 位 工学博士（鹿児島大学）

専門分野 超伝導、応用物性・結晶工学

連絡先 電話：(0965) 53-1308

e-mail : koba@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①Y系超伝導薄膜研究
- ②Y系とBa系銅酸化物の積層構造超伝導研究
- ③頂点フッ素銅酸化物薄膜超伝導の研究

キーワード：①超伝導材料 ②ナノレベル薄膜 ③超伝導薄膜 ④銅酸化物積層膜

主な研究業績(最近5年間)

- ・ “Superconducting transitions of Y-123/Ba-Ca-Cu-O/Y-123 layered structure” ,
Jarnal of Physics:Conference Series of IOP,150,052114,(2009).
- ・ “Superconductivity of Y-123/Ba0.1CuOz/Y-123 Thin Film System” ,
American Institute of Physics Conference Proceedings Vol. 850, pp.457,(2006).
- ・ [出願特許] マルチターゲットスパッタ装置 特願2010-007609
- ・ [公開特許] 酸化物超伝導薄膜の製造方法 特願2009-065969

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	超伝導薄膜の物性研究,超伝導体の薄膜化研究,酸化物のナノレベル薄膜化研究
可能な技術提供	超伝導薄膜の応用,パルスレーザー堆積(PLD)による薄膜作製,薄膜のX線回折分析
可能な講演題目	PLDによる高温超伝導体の薄膜作製,Ba系銅酸化物及びY系銅酸化物の薄膜作製と高温超伝導

地域の皆様へ

超伝導体は、医療分野で応用されているMRIやリニアモーター、カー、スマートグリッドでも取り上げられている低損失の送電システム、未来の超高速コンピュータなど応用範囲の広い材料の一つです。高温超伝導体も、これらへの活用の範囲を拡大しつつあります。また、さらに高い温度の超伝導物質が発見されれば、応用範囲はさらに拡大する可能性があります。また、高い機能性をもちながら、電子素子、センサー応用などに有利な薄膜として実現されていない材料もあります。本研究室でもこれらの物質探索や薄膜化研究を進めています。



齊藤 郁雄

SAITO IKUO

所属・職名 熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 教授

生 年 1955年

学 位 工学博士

専門分野 建築環境工学

連絡先 電話：(0965) 53-1345

e-mail : saito@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①都市環境に関する研究
- ②自然エネルギー利用に関する研究
- ③建材や建物形態の環境緩和効果

キーワード：①ヒートアイランド ②GPS ③リモートセンシング ④調湿効果 ⑤屋根形態

主な研究業績(最近5年間)

- ・久保隆太郎・齊藤郁雄・酒井孝司・石原修（2007年），「熊本市における夏季・冬季の気候特性および定点観測と移動観測による実測結果の比較—中規模都市のヒートアイランド現象に関する研究第2報—」，日本建築学会環境系論文集，NO.619，pp.33-38
- ・齊藤郁雄・久保隆太郎・酒井孝司・石原修（2007年），「熊本市における気温・湿度分布の長期定点観測—第1報中規模都市のヒートアイランド現象に関する研究—」，日本建築学会環境系論文集，NO.611，pp.59-66
- ・朴明浩・齊藤郁雄・石原修（2005年），「ランドサットTMデータによるハルビン市，上海市の都市化状況の把握」，日本建築学会環境系論文集，NO.595，pp.91-96
- ・奥倫・齊藤郁雄・石原修（2005年），「ランドサットデータによる内モンゴル半乾燥地帯における土地被覆変化と砂漠化の解析」，日本建築学会環境系論文集，NO.591，pp.83-88

主な社会活動等(最近5年間)

- ・八代市都市計画審議会会長
- ・八代市建築審査会会長
- ・八代市計画区域マスタープラン検討委員会委員長
- ・新八代駅周辺まちづくり委員会委員長
- ・八代市公共事業再評価第三者委員会委員
- ・八代市国土利用計画策定審議会委員

可能な共同研究	リモートセンシング技術等を用いた都市の環境解析
可能な技術提供	
可能な講演題目	環境に配慮したまちづくり

地域の皆様へ

熊本高専は、平成21年10月に旧熊本電波高専と旧八代高専が高度化再編し、「国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成と科学技術による地域社会への貢献」を理念として掲げ、新たにスタートしました。地域の発展のため、お役に立てることがありましたら、遠慮無く声をかけてください。



崎元 達郎

SAKIMOTO TATSURO

所属・職名 放送大学熊本学習センター 所長

生 年 1945年

学 位 工学博士(大阪大学)

専門分野 構造力学、土木構造工学、耐震構造工学

連絡先 電話：(096)341-0870

e-mail：t-sakimoto@ouj.ac.jp

研究テーマ

- ①鋼構造の座屈・耐荷力
- ②アーチの面外座屈・耐荷力・耐震設計
- ③橋梁・橋脚の耐震設計
- ④新型式橋梁の開発
- ⑤国立大学法人の管理運営

キーワード：①鋼構造 ②座屈・耐荷力 ③橋梁・橋脚 ④耐震設計 ⑤新型式橋梁の開発 ⑥国立大学法人の管理運営

主な研究業績(最近5年間)

- ・崎元達郎(1991～)「構造力学(上)」 「構造力学(下)」 森北出版
- ・崎元達郎(2010)「国立大学法人の目指したものは達成されたか?!」 財務経営センター
- ・崎元達郎(2009)「鋼アーチ橋の面外座屈耐荷力と耐震性能設計」土木構造・材料論文集
- ・オサマ・中村・山尾・崎元(2006)「Performance Evaluation Method for a Seismic Design of Deck-type Steel Arch Bridges」鋼構造年次論文報告集
- ・崎元達郎(2005)「国立大学法人の運営資金の構造と可能性」大学財務経営研究
- ・Osama Mohamed・Tatsuro Sakimoto・Tashitaka Yamao(2005)「Ductility of Stiffened Steel Box Member」Advances in Steel Structures

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本大学顧問、熊本大学国際交流支援者会会長
- ・熊本県産業政策顧問、
- ・テクノ産業財団名誉顧問
- ・くまもと未来会議委員
- ・「熊本城400年と熊本ルネッサンス」県民運動 副会長
- ・文部科学省 国立大学法人評価委員会委員

可能な共同研究	熊本を元気にする方策の研究
可能な技術提供	土木建造物の建設・維持管理に関するアドバイス
可能な講演題目	橋の歴史 建造物の形と強さ 国立大学法人の現状と課題

地域の皆様へ

国立大学法人化前後6年間の熊本大学長経験を生かして、産・学・民・行政 を繋ぐ役目を果たし、住みやすく豊かな熊本の充実発展に微力をつくしたい、

いつでも、放送大学熊本学習センター（熊大図書館南棟2F所長室）にお立ち寄りください



佐々木 満

SASAKI MITSURU

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 准教授

生 年 1972年

学 位 博士(工学)

専門分野 化学工学、超臨界流体工学、バイオマス科学

連絡先 電話：(096)342-3666

e-mail：msasaki@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①バイオマス再資源化
- ②水熱電解処理
- ③超臨界パルス放電
- ④機能性材料合成

キーワード：①環境軽負荷 ②バイオマス ③セルロース・糖 ④超臨界流体 ⑤パルスパワー ⑥廃水処理 ⑦炭素材料製造

主な研究業績(最近5年間)

- ・後藤元信・佐々木満 著 (2010) 「超臨界流体中でのプラズマ生成および分子変換への応用」、ケミカルエンジニアリング, 55 (12), pp. 15-19
- ・佐々木満・後藤元信 著 (2007) 「セルロースの分解と再資源化」、『亜臨界水反応による廃棄物処理と資源・エネルギー化』(シーエムシー出版編), pp. 132-141.
- ・M. Sasaki et al. (2010), "Application of hydrothermal electrolysis for conversion of 1-butanol in wastewater treatment", Fuel Processing Technology, 91, pp. 1125-1132
- ・M. Sasaki et al. (2010), "Pulsed Discharge Plasma Treatment of Phenol in Sub-critical and Supercritical Fluids for Polymer Synthesis", Trans. of Mat. Res. Soc. Jpn., 35(3), 607-610.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・H22年度 化学工学会九州支部若手研究者の会(Q・NET) 会長
- ・H20年6月～現在 プラスチックリサイクル化学研究会(FSRJ) 幹事
- ・H20, 21年度 JICAエキスパート事業(ベトナム・ホーチミン工科大学での技術指導)
- ・H21年度～ 熊本県リーディング企業育成支援事業 サポートチームメンバー
- ・H19, 21年度 日本学術振興会 ひらめき☆ときめきサイエンス(高校生への科学実験指導) 主催
- ・H18年11月 日本高圧力学会 奨励賞(日本高圧力学会) 他、多数

可能な共同研究	バイオマス有効利用技術開発、超臨界流体利用技術の開発全般、有機廃水無害化処理技術の開発
可能な技術提供	超臨界・亜臨界水反応(または抽出)技術、高圧ガス製造技術
可能な講演題目	最先端の超臨界流体工学、身近なバイオマス科学、環境にやさしい廃水処理技術(または材料製造技術)

地域の皆様へ

私は「超臨界流体」と呼ばれる高温・高圧状態の水や炭酸ガスを有効に利用し、環境にやさしい技術を提案しています。これまで開発してきた技術やノウハウを地域の皆様の社会生活上のために使うことができれば最高の幸せです。「難しそう」、「コストがかかりそう」などとお考えの方、ぜひとも一度、本技術についてお問い合わせください！きっと、「案外簡単で、使えそう！」ということがおわかりになるとと思います！！



佐田富 道雄

SADATOMI MICHIO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1952年

学 位 工学博士(九州大学)

専門分野 機械工学, 流体工学, 動力エネルギー工学

連絡先 電話: (096)342-3757

e-mail: sadatomi@mech.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①マイクロバブル発生装置の性能評価
- ②ミスト発生装置の性能評価
- ③バブルジェット式エアリフトポンプの性能評価
- ④細管内気液二相流の流動予測
- ⑤原子炉内における冷却材の熱流動予測

キーワード: ①マイクロバブルによる水質改善 ②ミスト噴霧 ③ミスト冷却 ④堆積汚泥の除去 ⑤空調・冷却
⑥原子炉安全性 ⑦新型原子炉

主な研究業績(最近5年間)

- ・松山史憲, 金澤智史, 佐田富道雄, 川原顕磨呂, 加野敬子: “新型マイクロバブル発生装置の性能と応用性に関する研究(高水深域における流体力学的性能),” 混相流研究の進展1, pp. 25 - 32, (2006, 4月).
 - ・松山史憲, 佐田富道雄, 川原顕磨呂, 深町健太郎, 大流量ミスト発生装置の開発と性能予測, 日本機械学会論文集(B編), Vol. 74, No. 742, pp. 1270-1277, (2008, June).
 - ・佐田富道雄, 川原顕磨呂, 木村隆直, 中尾淳一, バブルジェット式エアリフトポンプの開発(実現性確認試験と性能予測), 日本機械学会論文集(B編), Vol. 74, No. 742, pp. 1263-1269, (2008, June).
 - ・佐田富道雄, 川原顕磨呂, 樋口達也, “稠密格子サブチャンネル間のポイドドリフトに及ぼす表面張力低下の影響,” 混相流研究の進展4, pp. 69-76 (2009).
- など約50編.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本機械学会フェロー
- ・日本機械学会論文集B1編編修委員長
- ・日本混相流学会論文審査委員長
- ・日本混相流学会筆頭副会長
- ・第6回日欧二相流専門家会議議長
- ・熊本県環境審議委員

可能な共同研究	マイクロバブル発生装置, ミスト発生装置, バブルジェット式エアリフトポンプの産業への応用
可能な技術提供	同上の性能
可能な講演題目	同上の性能と産業への応用

地域の皆様へ

熊本県内の企業が元気になる, 多くの若者が県内で働けるようになることを希望しています。



下塩 義文

SHIMOSHIO YOSHIFUMI

所属・職名 熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科 教授

生 年 1953年

学 位 工学博士（九州工業大学）

専門分野 環境電磁工学

連絡先 電話：(096) 242-2121

e-mail：shimoshio@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①伝送線路におけるノイズ問題
- ②EMCに関する研究
- ③高周波計測技術

キーワード：①電磁ノイズ ②EMC/EMI ③ノイズ対策 ④ネットワークアナライザ ⑤TDR計測

主な研究業績(最近5年間)

- ・下妻陽介, 下塩義文, 秋山佳春, 桑原伸夫, “電力線搬送通信信号が誘導によりVDSL通信に与える影響の研究,” 電子情報通信学会論文誌B, Vol.J89-B, No.4, pp.585-593, 2006.
- ・松田豊稔, 西山英治, 石橋孝昭, 下塩義文, 村上和哉, 今村輝章, 松崎茂樹, 田口健治, “送電線設備が中波放送送信アンテナの入カインピーダンスに及ぼす影響に関する研究”, 信学技報, EMCJ2009-39, pp.23-28, 2009.

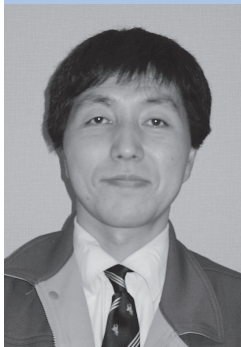
主な社会活動等(最近5年間)

- ・九州EMC技術者協会会長
- ・熊本インターカレッジコープアカデミア理事長

可能な共同研究	EMC関連、ノイズ対策技術、高周波関係技術
可能な技術提供	EMC計測・対策技術、高周波計測技術
可能な講演題目	高周波計測技術

地域の皆様へ

高周波計測関連技術、電磁ノイズ対策技術等において貢献できればと思っています。また、地域の子供たちの科学実験の出前授業にも取り組んでいますので、気軽にご依頼ください。



新貝 和史

SHINGAI KAZUFUMI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 電子情報技術科 主任講師

生 年 1971年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 電子回路

連絡先 電話：(096)232-9836

e-mail：shingai@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①組み込み
- ②ネットワーク

キーワード：①マイコン ②電子回路 ③プログラミング

主な研究業績(最近5年間)

- ・組み込みソフトウェアのモデリング手法 第25回熊本県産学官技術交流会
- ・TCP/IPを用いた動画配信の考察 熊本県立技術短期大学校紀要 第10号

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	組み込みソフトウェア マイコン応用機器
可能な技術提供	
可能な講演題目	

地域の皆様へ

身の回りの電子機器にはマイコンが多く用いられています。マイコンなどを応用した電子機器を地域の産業に導入するための手助けになるよう頑張ります。



滝川 清

TAKIKAWA KIYOSHI

所属・職名 熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター 教授

生 年 1948年

学 位 工学博士(京都大学)

専門分野 海岸環境工学、防災工学、応用水理学

連絡先 電話：(096)342-3548

e-mail : taki2328@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①海域・干潟域環境の評価と環境変動予測及び再生・維持手法の開発
- ②複合型災害対策、防災と減災システム
- ③有明・八代海の流動モデル及び生態系モデルの開発研究
- ④防護・環境・利用の調和した地域社会づくり、など

周囲を海に囲まれ、外海からの厳しい自然条件の中にありながら国土の狭いわが国において、沿岸海域の有効活用は、災害防止だけでなく、自然環境との調和を図る必要があり、このための高度な技術力が不可欠であり、海岸環境の安全・防災、開発・利用、自然・生態にわたる沿岸海域全般の広範囲な研究を行っている。特に、地域特性の強い沿岸海域の環境に関しては、特定分野の個人的研究のみでは不十分であり、様々な研究分野、さらには公的機関、民間企業など広範な分野からの取り組みが重要であり、このような視点から、国、県等の行政や民間企業などと数多くの共同研究プロジェクトによる研究の進展と展開を行い政策に反映している。またNPOみらい有明・不知火を設立するなど地域活動も活発に展開中である。

キーワード：有明・八代海環境の再生・維持、防災・減災対策、環境と防災の調和、複合型災害対策

主な研究業績(最近5年間)

- 1) 滝川清(熊本大学代表)：「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」文部科学省特別研究プロジェクト、平成23～27年度、総額約330,000(千円)の研究開始
- 2) 滝川清(熊本大学代表)：「有明海生物生態環境の不俯瞰型再生と実証試験」文部科学省科学技術振興調整費研究重要課題解決型研究、平成17～21年度。総額約400,000(千円)の研究実施。
- 3) 滝川清(代表)：「有明海干潟環境の回復・維持方策に関する研究」、基盤研究(A)(2)一般(総額53,040千円)、平成14～17年度研究 成果報告書、428p.、2006.3
- 4) 滝川清(有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会委員長：熊本県)：「委員会報告～有明海・八代海干潟等沿岸海域の再生に向けて～」、熊本県 有明海・八代海干潟等沿岸海域再生検討委員会、353p.、2006.3(有明・八代海再生のマスタープラン)
- 5) 滝川清(熊本県河川・海岸減災対策プロジェクト、総合アドバイザー)：「熊本県洪水浸水想定区域図作成指針(116p.)」、「熊本県高潮浸水想定区域図作成指針(144p.)」一県が管理する海岸等における作成のために、2006；「熊本県洪水・高潮ハザードマップ作成マニュアル～市町村での作成の参考として～(71p.)」、熊本県、2006。
- 6) 滝川清(代表)：「有明・八代海における高潮ハザードマップ形成と干潟環境変化予測システムの構築」、基盤研究(A)(2) 展開(総額39,650千円)、平成13～15年度研究成果報告書、246p.、2004.3
その他、最近3年のみの学術研究著書80編以上

主な社会活動等(最近5年間)

わが国海域の環境・防災に関する学術研究の学識経験者として、40数年に及び各省庁・県等の委員会の委員長・委員を務め、有明・八代海環境の保全・再生および防災に関して行政等への指導・提言を行い大いに社会に貢献中で、国家レベルでの極めて重要な政策立案に直接的に関わり、数十億単位の事業実施にも貢献中。

- 1) 熊本県公共事業再評価監視委員会委員長(熊本県:2004.7～2010.3)
- 2) 有明海漁場環境改善技術検討委員会委員(水産庁,2005～継続)
- 3) 有明海・八代海総合調査評価委員会委員(環境省2003.2～継続、有明・八代海の特別措置法に基づく国の諮問委員会)
- 4) 有明・八代海海域環境検討委員会委員長(国土交通省:2004～継続)
- 5) NPO:みらい有明・不知火 理事長(2002.6～)
- 6) 農林水産省 有明海ノリ不作等対策関係調査検討委員会委員、同数値モデル部会委員長(2000～) … 等々

可能な共同研究	海域・干潟環境再生・維持の技術開発、防災・減災対策に関するハード及びソフト対策技術 など
可能な技術提供	海域・干潟環境の調査・分析・評価手法、海域の流動・生態系モデル
可能な講演題目	有明・八代海の環境そして防災との調和、複合型災害と減災対策、環境・防災対策の技術とシステム作り など

地域の皆様へ

有明海・八代海は、かつて豊穡の海と言われてきましたが、今や水産資源は疲弊し、海域の環境は悪化の悪循環に陥っているものと懸念されています。また、不知火海高潮災害や水俣土砂災害で代表されるように、台風・高潮・洪水の常襲地域であるため頻りに自然災害を被っています。この熊本の両海域が直面する“環境と防災”という二律相反する大きな課題に対処しなければなりません。私たちの大切な有明・八代海の自然環境と、古くからの歴史と文化を含む地域の個性とが調和し、安心・安全で生き活きた地域社会を守り、伝えていく為には、地元の人々を中心となって取り組む事が不可欠です。皆さんと大学、地元企業として、国・県・市などの行政とが連携し、一体となって頑張りましょう。



田中 誠一郎

TANAKA SEI-ICHIRO

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 精密機械技術科 主任講師

生 年 1970年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 衝撃工学、機械加工

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail：tanakas@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①ワイヤー放電加工の加工技術検討
- ②プレス金型の設計製作

キーワード：①ワイヤー放電加工 ②加工技術 ③プレス金型 ④打ち抜き加工

主な研究業績(最近5年間)

- ・精密機械技術科の金型実習について、田中誠一郎ほか、熊本県立技術短期大学校紀要第11号，pp.19-24,2010

主な社会活動等(最近5年間)

- ・技能検定検定委員(数値制御旋盤、数値制御フライス盤、ワイヤー放電加工、型彫り放電加工、射出成形、機械検査、機械保全)
- ・熊本県工業連合会技術・技能者育成事業講師
- ・熊本県立技術短期大学校在職者セミナー「NC機械加工基礎」講師

可能な共同研究	ワイヤー放電加工の加工技術検討
可能な技術提供	NCプログラミング基礎、ワイヤー放電加工
可能な講演題目	精密機械技術科の金型実習について

地域の皆様へ

熊本県の製造業の活発化に少しでも寄与できるよう頑張ります。



鳥居 修一

TORII SHUICHI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1960年

学 位 工学博士(九州大学)

専門分野 熱流動工学、エネルギー工学、燃焼工学

連絡先 電話：(096)342-3756

e-mail：torii@mech.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①バイオマスを用いたエネルギー生成技術及び利活用の研究
- ②ナノ流体を用いた対流伝熱の基礎研究と電子冷却機器への応用研究
- ③次世代プレート型熱交換器の最適設計に関する研究
- ④廃液中からの希薄金属の抽出技術に関する基礎研究
- ⑤体内埋め込み型マイクロポンプの開発

キーワード：①再生可能エネルギー ②ナノ流体 ③熱交換器 ④マイクロポンプ ⑤ 数値シミュレーション
⑥燃焼ガス分析 ⑦脱CO₂

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Shuichi TORII and Wen-Jei YANG, "Heat Transfer Mechanisms in Thin Film with Laser Heat Source", International Journal of Heat and Mass Transfer, Vol. 48, pp. 537-544, 2005.
- ・ Shuichi TORII and Wen-Jei YANG, "Thermal-Fluid Transport Phenomena over Slot-Perforated Flat Fins with Heat Sink in Forced Convection Environment", Journal of Enhanced Heat Transfer, Vol. 14, No. 2, pp. 123-134, 2007.
- ・ Shuichi TORII, Wen-Jei YANG, and Takahiro FURUKAWA, "OPTIMAL PACKAGE DESIGN OF STACKS OF CONVECTION-COOLED PRINTED CIRCUIT BOARDS USING ENTROPY GENERATION MINIMIZATION METHOD", International Journal of Heat and Mass Transfer, Vol. 51, pp. 4038-4046, 2008
- ・ Shuichi TORII, Takahiro Furukawa, and Wen-Jei Yang, "Optimization of Stacked Packaging Laminar-Convection-Cooled Printed Circuit Boards Using Entropy Generation Minimization Method," AIAA J., Journal of Thermophysics and Heat Transfer, Vol. 22, No. 2, pp. 315-318, 2008.
- ・ Shuichi TORII and Wen-Jei YANG, "Simulation of Thermal Fluid Flow Transport in a Channel Containing Slot-Perforated Flat Plates", ASME, Journal of Heat Transfer, Vol. 130, No. 9, 114506-1-114506-3, 2008.
- ・ Shuichi TORII and Wen-Jei YANG, "Heat Transfer Augmentation of aqueous suspensions of nano-diamonds in turbulent pipe flow", ASME, Journal of Heat Transfer, Vol. 131, pp.043203-1 - 043203-5, 2009.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NEDO：地域バイオマス熱利用フィールドテスト事業評価委員
- ・ 九州バイオマス発見活用協議会座長
- ・ 社団法人空気調和・衛生工学会九州支部学術幹事
- ・ 独立行政法人科学技術振興機構の研究成果最適展開支援事業 フィージビリティスタディステージ専門委員
- ・ 熊本市西部環境工場代替施設に係る焼却炉及び事業方式検討委員会委員
- ・ みなまた環境まちづくり研究会委員

可能な共同研究	有機系廃棄物のエネルギー利用、廃棄物の有効利用、有機系廃棄物の燃料化、廃液からのレアメタルの回収
可能な技術提供	含水率計測、燃焼ガス分析、発熱量計測、室内空間温度計測、廃液・廃棄物の利活用、廃棄物の人工漁礁化
可能な講演題目	地球温暖化と再生可能エネルギー、バイオマス利活用の現状と各地域での取り組み、たい肥の燃料化について

地域の皆様へ

地域で排出される廃棄物（有機系廃棄物、汚泥、畜産糞尿など）を有効利用することが環境保全を高めながら、新規産業化を促進すると考えている。廃棄するのではなく、如何に利活用するかが今後の産業化の方向を示すものと考えている。



中野 貴之

NAKANO TAKAYUKI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 精密機械技術科 准教授

生 年 1965年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 機械加工

連絡先 電話：(096)232-9700

e-mail：nakano@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

ダイヤモンド焼結体の精密加工に関する研究

キーワード：①PCD ②定圧研削 ③研磨 ④CVD ⑤精密加工

主な研究業績(最近5年間)

- ・中野, 峠, 渡邊：定圧研削によるPCDの鏡面加工に関する研究, 砥粒加工工学会誌, 52, 7 (2008) 30
- ・中野貴之：PCDの超精密加工に関する研究, 博士論文, 熊本大学, 2009.3.25
- ・中野, 三好, 峠, 渡邊：紫外線援用研磨によるPCDの超精密加工, 砥粒加工工学会誌, 53, 4 (2009) 42
- ・中野, 田中, 河邊：プラスチック成形金型製作による技術者教育について, 平成22年度工学・工業教育研究講演会講演論文集, pp.12-15, 2010
- ・中野, 久保田, 峠：PCDおよびダイヤモンドコーティング層の高精密加工, 2010年度 精密工学会九州支部 熊本地方講演会講演論文集, pp.157-158, 2010
- ・山口, 峠, 久保田, 中野, 渡邊：単結晶SiC基板の高効率鏡面仕上げ技術に関する研究, 精密工学会誌, 77, 1 (2011) 116

主な社会活動等(最近5年間)

- ・技能検定委員 (機械加工関係)
- ・在職者セミナー講師 (測定基礎, 3次元CAD/CAM 他)
- ・2008年度 技術・技能者育成 就職支援セミナー「テクニカルスキルアップセミナー」講師
- ・2009年度 くまもとマグネ商品化研究会 切削加工研究会講師

可能な共同研究	PCDやSiC等の高硬度材料の加工技術開発
可能な技術提供	切削・研磨加工技術等
可能な講演題目	PCDの定圧研削に関する研究

地域の皆様へ

PCDの精密加工に取り組んでいます。NC旋盤やマシニングセンタを使用した鏡面加工技術の開発です。また、本校は在職者セミナーやオーダーメイドの訓練も行っています。社員教育や加工技術開発に協力出来るかもしれません。ご相談ください。



浪平 隆男

NAMIHIRA TAKAO

所属・職名 熊本大学 バイオエレクトリクス研究センター 准教授

生 年 1975年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 放電プラズマ工学、パルス放電工学、環境浄化技術

連絡先 電話：(096)342-3645

e-mail：namihira@cs.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①ナノ秒パルス放電プラズマによるオゾンの高収率生成
- ②ナノ秒パルス放電プラズマによる空気の浄化
- ③ナノ秒パルス放電プラズマによる水の浄化
- ④ナノ秒パルス放電プラズマによる土壌の浄化

キーワード：①ナノ秒 ②パルス ③放電 ④プラズマ ⑤環境浄化

主な研究業績(最近5年間)

- ・ T. Matsumoto, T. Namihira at el, "Energy efficiency improvement of nitric oxide treatment using nano-seconds pulsed discharge", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.38, No.10, pp.2639-2643, 2010.
- ・ D. Wang, T. Namihira at el, "Pulsed discharge induced by nano-seconds pulsed power in atmospheric air", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.38, No.10, pp.2746-2751, 2010.
- ・ 岡田翔, 浪平隆男 at el, "酸素原料オゾンナイザにおけるパルス幅の影響", 電気学会論文誌A, Vol.130, No.9, pp.825-830, 2010.
- ・ 飯笹真也, 浪平隆男 at el, "モルタル部の性質がパルス放電法によるコンクリートの破砕過程に及ぼす影響", 日本コンクリート工学協会 コンクリート工学年次論文集, Vol.32, No.1, pp.1559-1564, 2010.
- ・ D. Wang, T. Namihira at el, "Development of higher yield ozonizer based on nano-seconds pulsed discharge", Journal of Advanced Oxidation Technologies, Vol.13, No.1, pp.71-78, 2010.
- ・ D. Wang, T. Namihira at el, "A new application of underwater pulsed streamer-like discharge to transcriptional activation of retrotransposon of Porphyra yezoensis", IEEE Transactions on Plasma Science, Vol.38, No.1, pp.39-46, 2010

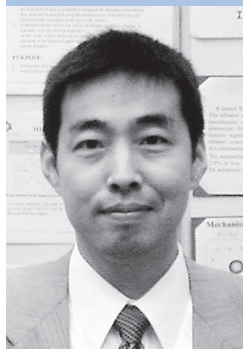
主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本県立西高等学校理数科2年パルスパワー実習 講師
- ・ 熊本県立西高等学校SPP「最先端科学「パルスパワー技術」にふれよう！」 指導教員
- ・ ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
「衝撃エネルギーと超臨界流体を融合した科学実験と環境教育」 指導教員,

可能な共同研究	パルス放電プラズマに関する応用研究、ナノ秒パルス電源の試作
可能な技術提供	空気・水・土壌の浄化技術、空気・水・土壌の分析法
可能な講演題目	放電プラズマを用いた環境浄化技術

地域の皆様へ

パルス放電プラズマを用いた環境浄化装置など、パルス放電プラズマは様々な応用可能性を秘めております。何でもご相談下さい。



葉山 清輝

HAYAMA KIYOTERU

所属・職名 熊本高等専門学校 情報通信エレクトロニクス工学科 准教授

生 年 1966年

学 位 工学博士

専門分野 計算機工学, 半導体工学, 工学教育

連絡先 電話：(096) 242-6066

e-mail : hayama@kumamoto-nct.ac.jp

研究テーマ

- ①自律型ロボットの研究
- ②マイコン応用システムの研究
- ③半導体デバイスの信頼性評価
- ④工学教育教材の開発

キーワード：①自律型ロボット ②UAV ③GPS ④AVRマイコン ⑤Arduino ⑥FPGA ⑦マイクロマウス

主な研究業績(最近5年間)

- ・葉山清輝, ハードウェア設計教育へのPBL導入の試み, 日本産業技術教育学会誌, 第51号巻第1号, (2009), pp.49-54
- ・K. Hayama, T. Matsumoto, "Practice of creativity Education by the subject of micromouse competition", CD proceedings of 8th IFAC Symposium on Advances Control in Education (ACE 2009), 2009, 21-23 Oct., Kumamoto Japan.
- ・葉山清輝, "自律型ロボットコンテスト出場を動機付けとした創造性育成教育の実践", 論文集「高専教育」, 第33号, (2010), pp.209-214.
- ・K.Hayama, K. Takakura, T. Ohtani, T. Kudou, H. Ohyama, A.Mercha, E.Simoen and C. Claeys, "Radiation damage in proton-irradiated strained Si n-MOSFETs", Materials Science in Semiconductor Processing, Vol. 11 (2008), pp.314-318.
- ・葉山清輝, "作って学ぶCPU設計入門", 森北出版, 平成19年4月.
- ・大山英典, 葉山清輝, "半導体デバイス工学", 森北出版株式会社, 平成16年3月.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・マイクロマウス九州地区大会実行委員

可能な共同研究	自律型ロボットの研究, マイコン応用システムの研究
可能な技術提供	マイコン応用技術
可能な講演題目	電子技術に関するもの

地域の皆様へ

センサやアクチュエータを搭載し, PCやマイコンを使って自律的に動作するロボットやシステムの研究を行っています. 例えば, GPS, レーザ測位センサ, カメラ, 磁気・加速度センサ, オドメトリを組込んだ自律移動ロボットを製作し, 公園を自律で走る競技に参加しました. ほかに, マイクロマウスという迷路を自分で考えながら走るロボットを作ったり, 自律で飛ぶ飛行機も作っています. 技術的な相談など出来る限りお引き受けします.



日野 満司

HINO MITSUSHI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 教授

生 年 1959年

学 位 博士(工学)(熊本大学)

専門分野 制御工学、振動工学

連絡先 電話：(096)232-9783

e-mail：hino@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

①制御技術の工学教育への応用に関する研究

キーワード：①制御工学 ②シーケンス制御 ③自動制御 ④振動工学 ⑤工学教育

主な研究業績(最近5年間)

- ・日野・熊谷(2006年)「わかりやすいPLC活用技術ーシーケンス制御を活用したシステムづくり入門」森北出版
- ・松尾・野田・松野・日野・柴原(2006年)「わかりやすい機械工学 第2版」
- ・日野・小笠原(2008年)「MATLABによる倒立振子のシミュレーションとVisual Basicを使った実験例」機械設計、第52巻 第5号2008年4月号、p.46-60
- ・熊谷・大石編著(2008年)「MATLABと実験でわかるはじめての自動制御」の「第9章 状態フィードバックを使った実験とシミュレーション」を分担執筆、日刊工業新聞社

主な社会活動等(最近5年間)

- ・くまもと技術革新・融合研究会(RIST) 幹事
- ・技能検定委員(空気圧制御) 熊本県職業能力開発協会
- ・上級教育士(工学・技術) 九州工学教育協会

可能な共同研究	制御技術応用研究、自動制御機器の試作
可能な技術提供	自動制御技術、振動工学技術、シーケンス制御技術
可能な講演題目	自動制御の理論と応用

地域の皆様へ

機械の制御には、製造ラインのように動作の順番が決まっている場合と、位置決めなどのように目標値に一致させなければならない場合があります。前者はシーケンス制御といい、後者をフィードバック制御(自動制御)といいます。いずれも工場の製造ラインやメカトロニクスなどに必要な技術ですが、制御対象に応じて使い分けをし、きちんと動作させなければなりません。そこに奥深いものがあり、日々探究に勤しんでおります。



廣江 哲幸

HIROE TETSUYUKI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1946年

学 位 工学博士(東京大学)

専門分野 機械強度学、材料力学、衝撃工学、非弾性構成式

連絡先 電話：(096)342-3690

e-mail : hiroe@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①機械構造要素の爆発分裂破壊挙動
- ②エンジニアリングプラスチックの変形挙動と数値解析
- ③硬質ゴム材料の変形挙動と数値解析
- ④円筒構造体の衝突変形挙動と数値シミュレーション
- ⑤ 平板衝突による剥離破壊挙動と数値解析

キーワード：①爆発 ②衝突 ③分裂破壊 ④ 高分子材料 ⑤ゴム変形 ⑥変形回復 ⑦応力緩和

主な研究業績(最近5年間)

- ・ T. Hiroe et. al, Materials Science Forum, Vol.673, pp.191-196, (2011)
- ・ T. Hiroe et. al, Proc. 7th International Symposium on Ompact Engineering, pp.285-290(2010)
- ・ T. Hiroe et. al, Journal of Materials Science Forum Vols. 638-642, pp.1035-1040 (2010)
- ・ 伊東雅晴, 廣江哲幸, 日本機械学会論文集A編, 第75巻, 第755号, 113頁-119頁 (2009)
- ・ T. Hiroe et. al, Proc. 6th Asia-Australasian Conference on Composite Materials Journal of Materials Science Forum Vols. 638-642, pp.1035-1040 (2008)
- ・ T. Hiroe et. al, Science and Technology of Energetic Materials, Vol.69, No.4, pp.99-107, (2008)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本機械学会フェロー (2006年度～)
- ・ 日本機械学会2006年度年次大会実行委員長
- ・ 合志町学校評議員 (2006-2007年度)
- ・ 日本航空宇宙学会西部支部支部長 (2007年度)
- ・ 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 (2009年度)
- ・ 原子力発電施設等核物質防護対策事業 評価委員 (2008-2009年度)

可能な共同研究	衝撃強度関係、高分子材料の変形・強度関係
可能な技術提供	爆発衝撃関連の実験計測および数値シミュレーション、高分子材料の変形回復実験
可能な講演題目	爆発衝撃による材料・構造体の超高速変形・破壊特性、高分子材料の変形特性と数値解析

地域の皆様へ

重工業で18年間、強度関係の研究業務に従事した後、熊大で22年間、構造要素の衝撃強度、高分子材料の変形解析などの研究を行ってまいりました。残り1年間となりましたが、地域産業の皆様のお役に立てることがありましたらご連絡下さい。



円山 琢也

MARUYAMA TAKUYA

所属・職名 熊本大学 政策創造研究教育センター 准教授

生 年 1976年

学 位 博士 (環境学) (東京大学)

専門分野 交通政策分析、交通計画、土木計画学

連絡先 e-mail : takumaru@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①交通需要予測技術の開発・改良
- ②交通ネットワーク分析
- ③費用便益分析

キーワード：①交通ネットワーク均衡分析 ②混雑料金政策 ③誘発交通

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Maruyama, T., Takaki, R., Sumalee, A. and Mizokami, S.: The optimal area-based network congestion pricing problem: Determining optimal toll level and charging boundary, Selected Proceedings of the 12th World Conference on Transport Research Society, paper ID – 02101, 2010.
- ・ 円山 琢也: 熊本大学が地域に及ぼす経済効果: 産業連関分析による試算例, 熊本大学政策研究, Vol.1, 53-68, 2010.
- ・ 円山琢也: 都市域における混雑課金の政策分析: レビューと展望, 土木計画学研究・論文集, Vol.26(1), pp.15-32, 2009.
- ・ Maruyama, T. and Sumalee, A.: Efficiency and equity comparison of cordon- and area-based road pricing schemes using a trip-chain equilibrium model, Transportation Research Part A, 41(7), pp. 655-671, 2007.
- ・ Maruyama, T. and Harata, N.: Difference between area-based and cordon-based congestion pricing: Investigation by trip-chain-based network equilibrium model with non-additive path costs, Transportation Research Record, No.1964, pp.1-8, 2006.
- ・ 円山琢也: 交通需要のレベル別便益指標の一致性, 土木学会論文集D, Vol. 62, No. 3, pp.460-473, 2006

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 国土交通省道路局 道路課金制度に関する研究会 委員 (2010.12)
- ・ くまもと県民カレッジ 運営委員会企画部会 委員 (2009.9)
- ・ 首都高速道路 交通量推計手法検討会 委員 (2008.08)
- ・ 阪神高速道路 将来交通量推計検討会 委員 (2008.12)
- ・ 平成21年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞

可能な共同研究	交通プロジェクトの需要予測と便益評価技術の改良と実用化 など
可能な技術提供	需要変動型交通ネットワーク均衡モデル など
可能な講演題目	望ましい道路料金制度のあり方 など

地域の皆様へ

工学的・経済学的アプローチで、交通政策の立案に役に立つ政策評価技術の開発に取り組んできました。高度な政策分析技術も、現実の政策立案に役に立たなければ意味がありませんので、現実都市圏への適用・実用化を重視した研究を進めています。ただ、どのような技術にも限界はありますので、分析技術の特徴・限界を的確に把握しつつ、それを活かした政策・計画立案のあり方を探ることも重要と考えています。



溝上 章志

MIZOKAMI SHOSHI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1955年

学 位 工学博士(名古屋大学)

専門分野 都市交通計画

連絡先 電話：(096)342-3541

e-mail：smizo@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①交通行動分析
- ②都市交通計画
- ③地域公共交通政策
- ④まちづくり
- ⑤コンパクトシティ

キーワード：①交通まちづくり ②コンパクトシティ ③地域公共交通 ④QOL ⑤費用便益分析

主な研究業績(最近5年間)

1. 溝上章志・橋本淳也・末成浩嗣(2010), 利用実態調査による利用促進を目的としたMM施策の有効性評価, 土木学会論文集D, Vol.66, No.2, pp.147-159
2. Youhei EITOKU and Shoshi MIZOKAMI (2010), An Evaluation Method of Transportation Policies by the Quality of Mobility Index based on Capability Approach, Asian Transport Studies, Vol.1, Issue 1, pp.77-89.
3. 溝上章志, 神谷 翔, 津田圭介(2010), モビリティ水準指標QoMの合志市地域公共交通計画評価への適用, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.4, pp.881-892.
4. 溝上章志, 平野俊彦, 竹隈史明(2010), 橋本淳也:階層化手法による熊本都市圏バス路線網の再編, 土木計画学研究・論文集, Vol.27, No.4, pp.1025-1034.
5. Yavuz Duvarci and Shoshi MIZOKAMI(2009), A suppressed demand analysis method of the transportation disadvantaged in policy making, Transportation Planning and Technology, Vol.32, No.2, pp.167-194.
6. 溝上章志, 橋内次郎(2009), 行動意図法と従来モデル法による熊本電鉄LRT化後の転換需要予測結果の比較分析, 土木学会論文集D, Vol.65, No.3, pp.198-210.

主な社会活動等(最近5年間)

1. 熊本市都市計画審議会, 会長, 2010.3.22~, 熊本市
2. 熊本市中心市街地活性化協議会広域総合部会, 部会長, 2008.04.01~, 熊本商工会議所
3. 九州地域における道路の新たな評価手法に関する検討会, 座長, 2009.09.29~, (社)九州経済連合会
4. 平成22年度熊本市チャレンジ25地域づくり計画策定協議会, 座長, 2010.7.15~, 熊本市
5. 社会資本整備審議会, 委員, 社会資本整備委員会道路分科会九州地方小委員会, 委員長, 2010.12.10~, 国交省

可能な共同研究	交通計画やまちづくり施策に関する調査・分析, モデル化, 評価, 政策立案に関する調査研究
可能な技術提供	標本調査, 統計的解析, 交通需要予測, 費用便益分析, QoL評価など
可能な講演題目	交通まちづくり, 地域公共高越政策, 中心市街地活性化など

地域の皆様へ

交通やまちづくりに関わる計画・評価・政策立案のための考え方や技術を開発し, その有用性を検証し, 実践することを旨としています。そのためには, 人の交通や立地に対する行動の調査・分析とその数学モデルによる記述, これらに基づいた交通需要や土地利用の将来予測, 整備プロジェクトの経済的評価手法が必要であり, これらに資する調査・分析・モデル化・評価といった総合的なシステムの開発を目指して研究を行っています。



宮内 肇

MIYAUCHI HAJIME

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 准教授

生 年 1959年

学 位 工学博士(京都大学)

専門分野 電力システム工学、電力経済

連絡先 電話：(096)342-3612

e-mail：miyauchi@cs.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①電力市場価格の計量経済学的分析
- ②期待効用理論を用いた電気事業評価
- ③分散型電源を含む小系統の供給信頼度評価
- ④電力貯蔵装置によるアンシラリーサービス

キーワード：①回帰分析 ②事業価値評価 ③UNPV ④分散型電源 ⑤電力貯蔵装置

主な研究業績(最近5年間)

- ・ K. Kawamoto, H. Miyuchi : " Generation Investment Project of Power System in Small Island Considering Adequacy" , Proc. of 16th Int. Conf. of Electrical Eng., PSS&R-05, 2010.
- ・ N. Hirata, H. Miyuchi, T. Misawa : "Composition of Probit Model of Simplified UNPV Method" , Proc. of 16th Int. Conf. of Electrical Eng., PM-01, 2010.
- ・ H. Miyuchi, D. TAshiro : "Value Evaluation of Ancillary Service Offered by Energy Storage Sytems" , Proc. of IEEE T&D in Asia, OR4-4, 2009.
- ・ 竹内裕也、宮内肇、喜多敏博：「電力市場価格のコスト性に関する基礎的検討」、電気学会論文誌、B129巻7号、pp.897-904、2009.
- ・ H. Miyuchi, K. Miyahara, T. Misawa, K. Okada : "Risk assessment for generation investment based on utility indifference pricing" , CIGRE Osaka Symposium, 405, 2007.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 電気学会 電力系統の高度利用を実現するシステム技術調査専門委員会委員
- ・ 電力中央研究所 電力経営問題研究会委員
- ・ 電力系統利用協議会 経済産業省委託業務プロジェクトチームメンバー
- ・ JICA インドネシア・ハサヌディン大学工学部強化計画短期派遣専門家
- ・ 長洲町 環境・産業都市創造会議座長

可能な共同研究	電力システムの解析・計画・運用、分散型電源の計画・運用
可能な技術提供	電力システムの解析技術、リスク評価、回帰分析
可能な講演題目	電力システムの特徴、電気事業の自由化、電気事業史

地域の皆様へ

電力システムは身近にありながら、実は巨大で複雑なシステムです。それを研究者としての立場から、いかに効率的に計画し運用するかということを研究しています。最近、太陽光発電など分散型電源の導入やスマートグリッドなどを耳にする機会も多くなっていますが、実際はどうなのというお尋ねもよくお聞きます。現在、そして未来のあるべき電力供給を分かりやすく姿に見せることができれば、より地域の皆様の疑問にもお答えしていけると思っています。そして、本当に大事なものは何かを考えながら、地域に貢献できることを願っています。



宮崎 幸治

MIYAZAKI KOJI

所属・職名 熊本県立技術短期大学校 情報映像技術科 主任講師

生 年 1972年

学 位 修士(工学)(宮崎大学)

専門分野 画像計測、画像処理、並列処理、システム性能評価

連絡先 電話：(096)232-9834

e-mail：miyazaki@kumamoto-pct.ac.jp

研究テーマ

- ①画像計測における高精細キャリブレーションに関する研究
- ②並列処理に関する研究

キーワード：①キャリブレーション ②歪み補正 ③画像計測 ④並列化 ⑤GPGPU ⑥性能評価

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Koji Miyazaki and Kikuhito Kawasue, Fast processing method for PIV using GPGPU, Proc. of the 15th International Symposium on Artificial Life and Robotics, Beppu, Japan, pp.106-109, 2010
- ・ Koji Miyazaki and Kikuhito Kawasue, Elimination of Un-uniformed Image Distortion Using LCD, Proc. of the 14th International Symposium on Artificial Life and Robotics, Beppu, Japan, pp.182-185, 2009
- ・ Koji Miyazaki, Kikuhito Kawasue, Li Tao and Shigeki Ohyama, Calibration Technique of PIV for Distorted Image Using LCD, Proc. of the 2009 IEEE International Symposium on Industrial Electronics, Seoul, Korea, pp. 301-306, 2009
- ・ 宮崎幸治 川末紀功仁, 画像計測のための液晶ディスプレイを用いた画像歪み除去法, 熊本県立技術短期大学校紀要, 第10号, pp.23-29, 2009

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 県市町村共同利用型地理情報システムの開発及び運用業務技術審査委員会委員

可能な共同研究	画像の歪補正に関する研究、画像計測に関する研究、GPGPUによる高速化に関する研究
可能な技術提供	コンピュータシステムの性能評価法、GPGPUを利用したアプリケーション開発技法
可能な講演題目	

地域の皆様へ

現在は、画像計測や画像処理を主な研究テーマにしていますが、民間企業で7年間、情報処理システムの設計や構築、性能評価に携わった経験があります。特に、システム性能評価に関しては、30システム以上の性能評価に携わりました。画像計測の分野に限らず、性能評価などでもお手伝いできることもありますので、お気軽にご相談いただければと思います。熊本の企業様からのご連絡をお待ちしております。



森山 聡之

MORIYAMA TOSHIYUKI

所属・職名 崇城大学 工学部 エコデザイン学科

生 年 1958年

学 位 博士(工学)

専門分野 環境情報学・防災情報学・レーダ水文学

連絡先 電話：(096)326-3791

e-mail：moriyama@eco.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①防災情報システムの構築
- ②環境情報アーカイブ
- ③雨水グリッド
- ④センサーネットワーク
- ⑤洪水・土石流予測

キーワード：①降水レーダ ②防災情報システム ③環境情報アーカイブ ④環境モニタリング
⑤土砂災害危険度マップ ⑥洪水予測

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 森山聡之ほか(2010年)、giSight を用いた災害時要援護者マップの開発、土木学会年次学術講演会
- ・ 森山聡之ほか(2010年)、giSightを用いた土砂災害危険度マップの表示システム、第5回土砂災害に関するシンポジウム論文集
- ・ 森山聡之ほか(2010年)、DEVELOPING AN ECOSYSTEM DATABASE USING GISIGHT, Proc. of 6th congress of IAHR-APD
- ・ 森山聡之ほか(2009年)、水俣久木野地区を中心とした地域情報共有システムの構築、不知火海・球磨川流域圏学会誌、第3巻
- ・ giSightを用いた防災システムの開発、日本災害情報学会第10回学会大会予稿集、2008
- ・ 森山聡之ほか(2008年)、giSightを用いた防災システムの開発、日本災害情報学会第10回学会大会予稿集、2008
- ・ 森山聡之ほか(2006年)、降水レーダを用いたリアルタイム土石流危険度マップ、第3回土砂災害に関するシンポジウム論文集

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NPO法人観測データ公開機構理事長
- ・ NPO法人防災ネット研究所所長
- ・ NPO法人コロボックルプロジェクト理事
- ・ 不知火海・球磨川流域圏学会副会長
- ・ 熊本市水守(ネット水守)
- ・ 国土交通省TECH-DOCTOR、菊池川・緑川・球磨川リバーカウンセラー

可能な共同研究	防災情報システムの開発構築、環境アーカイブの開発構築、スマート雨水タンクによる雨水グリッドの構築。防災情報教育システムの開発
可能な技術提供	土砂災害発生予測、洪水位予測。防災情報システムや環境アーカイブの貸し出し
可能な講演題目	地球環境とゲリラ豪雨、雨水タンクでミニダムをつくらう

地域の皆様へ

毎年ホタルの時期になると、毎晩のようにホタルの数をカウントしています。
大学内にビオトープ池を造ったり、流域の環境及び防災情報をアーカイブ化する事も行っています。
災害が起こりそうな時はスマートフォンで洪水や土石流の発生予測をおこなったり、情報伝達を行うシステムを開発構築しています
ホームページ：http://river2.eco.sojo-u.ac.jp/



矢野 隆

YANO TAKASHI

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1951年

学 位 工学博士

専門分野 建築環境工学

連絡先 電話：(096)342-3560

e-mail：yano@gpo.kumaoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①騒音に対する社会反応
- ②吸音材料の開発
- ③遮音材料の開発

キーワード：①騒音 ②吸音 ③遮音

主な研究業績(最近5年間)

- 1.中村哲男、矢野隆、村上聖、長谷川麻子、江藤留寿、高橋優樹、北原良誠、木質3層構造材の遮音性能(第1報)3層壁の音響透過損失、木材学会誌、Vol.56、No.2、pp.84-92、2010.5
- 2.中村哲男、矢野隆、村上聖、長谷川麻子、江藤留寿、高橋優樹、北原良誠、木質3層構造材の遮音性能(第2報)3層床の床衝撃音レベル、木材学会誌、Vol.56、No.2、pp.93-103、2010.5
- 3.H.Y.T. Phan, T. Yano, T. Sato and T. Nishimura, Characteristics of Road Traffic Noise in Hanoi and Ho Chi Minh City, Vietnam, Applied Acoustics, Vol. 71(5), pp.479-485, 2010.5
- 4.H.Y.T. Phan, T. Yano, H.A.T. Phan, T. Nishimura, T. Sato and Y. Hashimoto, Community response to road traffic noise in Hanoi and Ho Chi Minh City, Applied Acoustics, Vol. 71 (2), pp.107-114, 2010.2
- 5.Y. Nishimura, S. Nishimura, T. Nishimura and T. Yano, Sound propagation in soundproofing casement window, Applied Acoustics, 70(9), pp.1160-1167, 2009.9

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県環境影響評価審査会会長
- ・熊本県環境基本指針・計画検討委員会会長
- ・熊本県公害審査会委員
- ・International Commission on Biological Effects of noise, Team 6 Chair

可能な共同研究	広帯域吸音材料の開発、木質遮音材料の開発
可能な技術提供	騒音対策、吸音・遮音測定
可能な講演題目	グローバルな騒音政策

地域の皆様へ

吸音、遮音、騒音対策など建築音響に関わる事項で地域に貢献したいと思います。



山尾 敏孝

YAMAOKA TOSHITAKA

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1952年

学 位 工学博士

専門分野 構造力学, 構造工学, 耐震工学

連絡先 電話: (096)342-3533

e-mail: tyamao@kumaoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①アーチ橋の耐震設計
- ②制震ダンパーの開発
- ③石橋の健全度評価
- ④土木遺産の保存・活用

キーワード: ①鋼構造 ②耐震ダンパー ③石橋 ④土木遺産 ⑤健全度評価 ⑥座屈・耐荷力 ⑦耐震設計

主な研究業績(最近5年間)

- ・山尾敏孝他2名: 松島橋の補強前後の耐震性と耐震補強対策の検討, 鋼構造年次論文報告集, 第17巻, 2009
- ・山尾敏孝他3名: 損傷を有する石造アーチ橋の力学的挙動特性の検討, 構造工学論文集, Vol.55A, pp.23-33, 2009.3
- ・山尾敏孝他3名: 断層変位を受ける中路式鋼アーチ橋の地震時挙動に関する研究, 構造工学論文集, Vol.55A, pp.583-592, 2009.3
- ・山尾敏孝, 王 占飛: 高架橋システムにおける十字型補剛壁を有する鋼製橋脚の耐震性能照査, 構造工学論文集, Vol.56A, pp.356-366, 2010.3
- ・九州地区における橋梁の維持管理に関する研究分科会: 地方自治体のための橋梁維持管理の手引き, 九州橋梁・構造工学研究会, 2009

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県文化財保護審議会委員
- ・熊本県橋梁長寿命化修繕計画策定検討委員会委員長
- ・熊本市特別史跡熊本城跡保存活用委員会委員
- ・国土交通省九州仕法整備局道路防災対策連絡会委員
- ・NEXCO西日本コンソーシアムアドバイザー

可能な共同研究	低コスト維持管理法, 制震ダンパーの試作, 構造物の結露防止
可能な技術提供	橋梁一般の耐震検討と健全度評価, 石橋等の実験・測定・損傷度評価, 霧除去システム
可能な講演題目	石橋の強さの秘密, 鋼アーチの耐震挙動特性

地域の皆様へ

これからは、橋梁をはじめとする土木構造物の維持管理の時代です。高度紙長期に作られた構造物は損傷を受けており、地震や災害に対する安全性の確保あるいは適切な補修・補強等の維持管理が求められます。

しかしながらこれらの更新には高いコストが必要であることから、低コストな維持管理手法を開発し、技術提供をしたいと思えます。ご相談があれば遠慮なくお尋ねください。



澤 進一郎

SAWA SHINICHIRO

所属・職名 熊本大学 大学院自然科学研究科 教授

生 年 1971年

学 位 博士(理学)(京都大学)

専門分野 植物分子遺伝学

連絡先 電話：(096)342-3439

e-mail：sawa@sci.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

形態形成を制御する遺伝子の単離・解析

- ①植物ホルモンの研究
- ②ペプチドホルモンの研究
- ③線虫による連作障害打破に関する研究

キーワード：①形態形成 ②ペプチドホルモン ③連作障害 ④線虫被害 ⑤CLEペプチド

主な研究業績(最近5年間)

- ・「植物寄生性線虫ゲノム中の植物ペプチドホルモン様遺伝子」生物の科学「遺伝」2010年9月号別役重之、澤進一郎、福田裕穂
- ・澤進一郎(2009)東大式現代科学用語ナビ,低分子ペプチド東京化学同人114-115
- ・小柴共一、澤進一郎(2010)オーキシン、新しい植物ホルモンの科学、第2版、小柴、神谷編、講談社、16-34.
- ・澤進一郎(2009)東大式現代科学用語ナビ,低分子ペプチド東京化学同人114-115
- ・澤進一郎(2008)植物の発生ベーシックマスター発生物学八杉貞雄監修オーム社

主な社会活動等(最近5年間)

- ・植物学会奨励賞2007年；日本植物学会
- ・植物生理学会奨励賞2010年；日本植物生理学会
- ・科学技術・学術審議会専門委員
- ・日本植物生理学会評議員
- ・日本植物学会生物科学ニュース編集委員長
- ・日本植物学会選挙管理委員

可能な共同研究	物の線虫感染被害防御に関する研究
可能な技術提供	目連作障害と線虫感染に関する分子メカニズムの最前線
可能な講演題目	遺伝子組み換え作物って危険なの？安全なの？

地域の皆様へ

熊本県は農業が比較的盛んで、サツマイモや柑橘類など多くの作物を作出しています。ところが、熊本大学に農学部がないために、その栽培技術の改良などについて、取り組みがしっかりなされていないと難しいと思われる。地域に根ざした農業関係の技術開発、情報提供が必要だと考えられる。我々は、サツマイモなどの作物の連作障害などに関わるネコブセンチュウやシストセンチュウの感染メカニズムを研究している。この知見の応用も視野に入れた共同研究は大歓迎である。また、四角豆の栽培促進など他の農業的分野にも興味があり、農学部がない熊本大学ではあるが、より地域に密着した研究を展開していければと考えている。



寺本 祐司

TERAMOTO YUJI

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 応用微生物工学科 教授

生 年 1958年

学 位 農学博士(九州大学)

専門分野 応用微生物学

連絡先 電話：(096)326-3935

e-mail：yuji@bio.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①黒米酒の醸造
- ②ハチミツ酒の醸造
- ③世界の珍しい酒の調査と研究

キーワード：①黒米 ②ハチミツ ③民族の酒 ④発酵性酵母の分離同定と有効利用

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Antioxidative activity of alcoholic beverages made from purple rice (*Oryza sativa* var. *Indica* cv. *Shiun*). *Food Sci. Technol. Res.* 16, 162, 2010.
- ・ Production and antioxidative activity of mead made from honey and black rice (*Oryza sativa* var. *Indica* cv. *Shiun*). *J. Inst. Brew.* 115, 238, 2009.
- ・ Traditional Asian beverage made by chewing. *The Brewer & Distiller International* 5(8) 27, 2009.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・九州バイオリサーチネット編集委員
- ・合志市特産品地域ブランド推進協議会委員
- ・酒史学会評議員

可能な共同研究	新規アルコール飲料の試醸
可能な技術提供	発酵性酵母の分離同定と有効利用
可能な講演題目	「世界の珍しい酒の話」「発酵食品ルネッサンス」

地域の皆様へ

微生物に無限の可能性があります。まだ未発見、未開発の微生物も無数にあります。それらの有用微生物をもちいて、様々なアルコール飲料や発酵食品をつくり、その特性を調べています。



井越 敬司

IGOSHI KEIJI

所属・職名 東海大学 農学部 バイオサイエンス学科 教授

生 年 1950年

学 位 農学博士

専門分野 食品生物化学, 発酵食品学, 食品機能学

連絡先 電話: (0967)67-3936

e-mail: igoshi@agri.u-tokai.ac.jp

研究テーマ

- ①乳発酵食品の機能成分の検索とその生成機構に関する研究
- ②乳発酵食品の発酵に関わる微生物の酵素に関する研究
- ③新規ペプチドの作出とその機能性に関する研究

キーワード: ①熟成・発酵 ②チーズ ③ヨーグルト ④ペプチド ⑤プロテアーゼ ⑥機能性 ⑦抗酸化

主な研究業績(最近5年間)

1. Yasuda, S., Ohkura, N., Suzuki, K., Yamasaki, M., Nishiyama, K., Kobayashi, H., Hoshi, Y., Kadooka, Y., Igoshi, K. (April, 2010) Effects of highly ripened cheeses in HL-60 human leukemia cells: Antiproliferative activity and induction of apoptotic DNA damage. J. Dairy Sci. 93, 1393-1400.
2. K. Igoshi, Y. Kondo, H. Kobayashi, K. Kabata, H. Kawakami, Antioxidative activity of cheese, Milchwissenschaft, 63(4), 424-427 (2008)・
3. 齊藤忠夫, 堂迫俊一, 井越敬司 現 編(2008) , 「現代チーズ学」, 食品資材研究会
4. 久保達也, 久保研一, プラダン ラジブ, 岡本智伸, 小野政輝, 井越敬司, 梶田聖孝, トウフ粕混合サイレージの調製およびパークシャー種への給与試験, 東海大学農学部紀要, 28, 9-13 (2008)
5. 木村利昭, 井越敬司, 村山重信 編(2007) , 「ミルク&チーズサイエンス」デーリイマン社

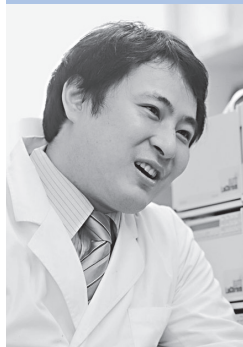
主な社会活動等(最近5年間)

日本農芸化学西日本支部評議員
 日本栄養食糧学会評議員
 日本酪農科学会評議員
 九州バイオリサーチ理事
 くまもと食品科学研究会副会長

可能な共同研究	新規機能性発酵食品の開発
可能な技術提供	機能性分析法, 微生物培養法, 機能性成分分離技術
可能な講演題目	食品の機能性, チーズの科学, チーズの機能性

地域の皆様へ

チーズやヨーグルトなどの発酵食品は食品素材と有用微生物(乳酸菌等)によって、発酵・熟成を経て製造されます。この発酵・熟成過程に発酵食品の風味や組織が形成されそして健康に関わる機能成分が生成されます。当研究室では、本県が西日本一の生産量を誇っている牛乳と本県農産物を使用した新たな発酵乳やチーズの開発を目指しております。美味しく、健康に良い発酵乳製品開発に興味ある方はご連絡下さい。



岡 拓二

OKA TAKUJI

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 応用微生物工学科 准教授

生 年 1976年

学 位 博士(農学)

専門分野 糖鎖生物学

連絡先 電話：(096)326-3986

e-mail：oka@bio.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①糸状菌の糖鎖生物学
- ②植物の糖鎖生物学
- ③微生物を利用した糖鎖工学

キーワード：①糸状菌 ②糖鎖生物学 ③糖鎖工学 ④細胞壁 ⑤植物

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Characterization of endoplasmic reticulum-localized UDP-D-galactose: hydroxyproline O-galactosyltransferase using synthetic peptide substrates in Arabidopsis. *Plant Physiol.* 2010 152: 332-40.
- ・ Protein O-mannosyltransferases B and C support hyphal development and differentiation in *Aspergillus nidulans*. *Eukaryot Cell.* 2009 8: 1465-74.
- ・ Functional UDP-xylose transport across the endoplasmic reticulum/Golgi membrane in a Chinese hamster ovary cell mutant defective in UDP-xylose Synthase. *J Biol Chem.* 2009 284: 2576-83.
- ・ Engineering of a mammalian O-glycosylation pathway in the yeast *Saccharomyces cerevisiae*: production of O-fucosylated epidermal growth factor domains. *Glycobiology.* 2008 18: 303-14.
- ・ Functional analysis of *Arabidopsis thaliana* RHM2/MUM4, a multidomain protein involved in UDP-D-glucose to UDP-L-rhamnose conversion. *J Biol Chem.* 2007 282: 5389-403.
- ・ Reconstruction of de novo pathway for synthesis of UDP-glucuronic acid and UDP-xylose from intrinsic UDP-glucose in *Saccharomyces cerevisiae*. *FEBS J.* 2006 273: 2645-57.
- ・ Protein O-mannosyltransferase A of *Aspergillus awamori* is involved in O-mannosylation of glucoamylase I. *Microbiology.* 2005 151: 3657-67.

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	微生物の有効利用に関して
可能な技術提供	微生物菌叢解析、組換えタンパク質発現、酵素活性測定
可能な講演題目	

地域の皆様へ

微生物の有効利用に関する研究であれば、お力になれる可能性があります。微生物に関することであれば、どんなことでも取り扱っています。一度、御連絡下さい。



田口 久貴

TAGUCHI HISATAKA

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 応用微生物工学科 准教授

生 年 1959年

学 位 農学博士(京都大学)

専門分野 分子生物学、代謝制御発酵

連絡先 電話：(096)326-3940

e-mail : taguchi@bio/sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①未利用バイオマス（竹、生ゴミ）のバイオエタノール生産
- ②ナイロンオリゴマー分解酵素遺伝子の起源の探究

キーワード：①バイオエタノール ②セルロース系バイオマス ③未利用バイオマス ④ナイロンオリゴマー
⑤遺伝子組換え酵母 ⑥乳酸

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 1) Takeno, M., Taguchi, H., and Akamatsu, T., Role of ComFA in controlling the DNA uptake rate during transformation of competent *Bacillus subtilis*. *J. Biosci. Bioeng.*, (2011) (in press).
- ・ 2) Sakai, H., Nagahama, K., Taguchi, H., Akamatsu, T., Morimura, S., Kida, K., and Matsuoka, M., Functional replacement of yeast flavocytochrome b2 with bacterial L-lactate dehydrogenase. *J. Biosci. Bioeng.*, 110, 269-272 (2010).
- ・ 3) Saito, Y., Taguchi, H., and Akamatsu, T., DNA taken into *Bacillus subtilis* competent cells by lysed-protoplast transformation is not ssDNA but dsDNA. *J. Biosci. Bioeng.*, 101, 334-339 (2006).
- ・ 4) Saito, Y., Taguchi, H., and Akamatsu, T., Fate of transforming bacterial genome following incorporation into competent cells of *Bacillus subtilis*: a continuous length of incorporated DNA. *J. Biosci. Bioeng.*, 101, 257-262 (2006).

■ 特許

- ・ 1) 赤松、田口 他、“エタノール発酵性ヘテロタリズム酵母”、特願2008-015864
- ・ 2) 赤松、田口 他、“キシロースからエタノールを発酵する酵母”、特願2009-240167

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 環境省委託業務名 平成22年度地球温暖化対策技術開発事業（竹からの高効率バイオエタノール生産技術の実用化開発）
委託業務 一竹を原料としたバイオエタノール生産技術（システム）開発

可能な共同研究	バイオエタノール関連(育種)
可能な技術提供	遺伝子操作による酵母の育種
可能な講演題目	バイオエタノール生産酵母の育種

地域の皆様へ

これからの社会は、益々「ゴミゼロ」が要求されます。ゴミ（未利用資源）をなくすため、おいに微生物の力を利用して下さい。



野村 善幸

NOMURA YOSHIYUKI

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 教授

生 年 1950年

学 位 農学博士(九州大学)

専門分野 応用微生物学、発酵化学

連絡先 電話：(096)326-3928

e-mail：nomura@bio.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①機能性乳酸菌の酵素に関する研究
- ②ホルムアルデヒド分解菌に遺伝・生化学的研究
- ③有用微生物の探索

キーワード：①乳酸菌 ②GABA ③胆汁酸分解酵素 ④ホルムアルデヒド耐性 ⑤セルラーゼ

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Characterization of ER localized UDP-D-Galactose: hydroxyproline O-galactocyltransferase using synthetic peptide substrate in Arabidopsis. Plant Physiology Vol. 152, No.1, 2010.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ バイオテクノロジー研究推進会 会長
- ・ 経産省バイオ人材育成事業 プロジェクトコーディネーター
- ・ 熊本県リーディング企業創出プロジェクト委員
- ・ バイオフィューエルチャレンジ 委員
- ・ 熊本県工業連合会幹事会委員
- ・ 高等教育コンソーシアム熊本「地域連携推進部会」委員

可能な共同研究	乳酸菌関連の研究、微生物に関する研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	微生物について

地域の皆様へ

熊本県は古くから発酵・醸造をはじめオーールドバイオの盛んな地域です。さらに盛んになるように、バイオテクノロジーを通じて企業の皆様に協力できればと思っています。



福田 耕才

FUKUDA KOHSAI

所属・職名 崇城大学 生物生命学部 応用微生物工学科 准教授

生 年 1961年

学 位 博士(農学)(九州大学)

専門分野 微生物遺伝学、分子遺伝学

連絡先 電話：(096)326-3943

e-mail : kohsai@bio.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

① 酵母線状プラスミドに関する分子遺伝学的研究

キーワード：①酵母 ②線状プラスミド ③キラール ④トランスポゾン ⑤ミトコンドリア ⑥核移行

主な研究業績(最近5年間)

- ・ ライフサイエンス系の機器分析(2007年 第2版、共著) 三共出版
- ・ 「2009バイオテクノロジー総論テキスト」(崇城大学 応用微生物工学科編)
- ・ Silica deposition and phenotypic changes to *Thermus thermophilus* cultivated in the presence of supersaturated silica. ISME J. 2010 Jun;4(6):809-16. (共著)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本農芸化学会会員
- ・ 酵母遺伝学フォーラム会員
- ・ 日本分子生物学会会員
- ・ 日本生物工学会会員
- ・ バイオテクノロジー研究推進会評議委員(企画委員)
- ・ 九州バイオリサーチネット会員

可能な共同研究	
可能な技術提供	
可能な講演題目	分かりやすい遺伝子の話

地域の皆様へ

とかく遺伝子というものに対しては難しい印象がありますが非常に興味深いものです。



松浦 朝奈

MATSUURA ASANA

所属・職名 東海大学 農学部応用植物科学科 准教授

生 年 1965年

学 位 博士(農学)

専門分野 作物学

連絡先 電話：(096)767-3915

e-mail：asana@agri.u-tokai.ac.jp

研究テーマ

- ①雑穀の環境ストレス耐性の研究
- ②雑穀の品種改良

キーワード：①雑穀 ②温暖化 ③砂漠化 ④収量

主な研究業績(最近5年間)

- ・松浦朝奈・川島忠臣 共訳2008. 第8章 湛水土壤における植物根系の生理学・生化学・分子生物学. 森田茂紀・田島亮介 監訳, H.deKroon and E.J.W.Visser 編 根の生態学. 177-195.
- ・Murata, K., Okamoto, C., Matsuura, A. and Iwata, M. Effect of the grazing intensity in the habitat of *Shijimiaeoides divinus asonis* (Matsumura). *Trans. lepid. Soc. Japan* 59(3) 251-259. 2008.
- ・Matsuura, A., Inanaga, S., Tetsuka, T. and Murata, K. Differences of Vegetative Growth Response to Soil Flooding between Common and Tartary Buckwheat. *Plant Production Science*. 8(5):525-532. 2005.
- ・Matsuura, A., S. Inanaga and K. Murata Interspecific Differences in the Vegetative Growth of Common and Tartary Buckwheat in Saline Hydroponic Culture. *Plant Production Science*. 8(5):533-538. 2005.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本市開発審査委員会 委員
- ・日本作物学会 会員
- ・日本作物学会支部会 評議員
- ・根研究会 評議員

可能な共同研究	作物の増産研究
可能な技術提供	作物の収量解析法, 成分分析法
可能な講演題目	「環境(温暖化・砂漠化)と食料生産について」

地域の皆様へ

これからますます環境が変わります。環境が変わると、食料も変わります。最近では、干ばつで食料の生産量が激減した食料輸出国が国内需要を優先して輸出しないこともあります。熊本の食料を維持し、農業をますます発展させるために、まず、畑で何が起きているかを調査する必要があります。できた農産物に何が含まれているのかを調べることも重要です。このような調査・研究を通じて地域の食の安全の確保と農業の発展に貢献したいと思っています。



松添 直隆

MATSUZOE NAOTAKA

所属・職名 熊本県立大学 環境共生学部 環境資源学科長 教授

生 年 1960年

学 位 博士(農学)(九州大学)

専門分野 農学、園芸学、植物生産学、植物生理学

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①野菜や果物の品質・機能性成分に関する研究
- ②植物の土壌病害虫抵抗性に関する研究
- ③野菜の着色とアントシアニン色素発現に関する研究
- ④ナスの機能性成分と育種に関する研究
- ⑤塩トマトに関する研究

キーワード：①植物 ②園芸 ③野菜

主な研究業績(最近5年間)

■ 論文

- ・ 共著、濃縮海洋深層水の高品質トマト水耕栽培への有効利用 4.抗酸化機能、アミノ酸代謝および食味に対する短期施用の効果、Eco-engineering、2009/4、Vol.21 No.2 (2009年4月発刊予定)
- ・ 共著、低温貯蔵中におけるカンキツ「不知火」果実の糖、有機酸、アミノ酸、アスコルビン酸およびカロテノイド含量の変化、日本食品保蔵学科学会、2009、第35巻第6号19-26
- ・ 共著、施肥量の違いがミズナおよびコマツナの生育と硝酸イオン濃度に及ぼす影響、植物環境工学、2008、20(4) 242-246

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 鳥取大学乾燥地研究センター平成22年度共同研究 研究員 (2010年4月～)
- ・ 九州・沖縄ブロック環境保全型農業推進会議委員長 (2010年4月～)
- ・ 熊本県くまもとグリーン農業推進計画策定委員 (2010年8月～)
- ・ (財)熊本市学校給食会評議委員 (2010年4月～)
- ・ 熊本市開発審査委員会委員 (2010年4月～)

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください。
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください。
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください。

地域の皆様へ

熊本の豊かな自然と水で育った野菜の生産・加工に関する研究を行っています。また、熊本の歴史、自然、安全・安心な農産物を使った食農教育を進めています。



松田 靖

MATSUDA YASUSHI

所属・職名 東海大学 農学部 講師

生 年 1967年

学 位 博士(農学)

専門分野 植物育種学, 植物組織培養学

連絡先 電話: (0967)67-3913

e-mail: ymatsuda@agri.u-tokai.ac.jp

研究テーマ

- ①ネギ属, シバ属, サツマイモ, ヤーコン等における育種障害解析と組織培養を利用した育種
- ②高等植物におけるDNA分析による遺伝的評価

キーワード: ①高等植物 ②育種(品種改良) ③組織培養 ④育種障害 ⑤遺伝子分析 ⑥イモ類 ⑦ネギ属

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Matsuda Y. et al. (2011) Acytogenetic study of *Polytriasamaura* (Poaceae)
- ・ Koike A., T. Murata, Y. Matsuda, T. Okamoto and K. Kabata (2009) Cultivation and ensilage of yacon plants (*Smallanthus sonchifolius*) and the function of yacon silage
- ・ Matsuda Y., Y. Okada, A. Komiyama, Z. Sano, T. Murata, M. Yoshida and A. Saito (2006), Resistance mechanism for *Meloidogyne incognita* in diploid sweetpotato related species, *Ipomoea trifida*
- ・ 高橋祐希・松田靖・福岡壽夫・村田達郎(2006) *Zoysia minima* を用いた種間雑種個体の形態学的特性と育種的利用
- ・ 高橋祐希・松田靖・福岡壽夫・村田達郎(2006) ニュージーランドから採集した *Zoysia minima* の形態学的特性と日本に自生する *Zoysia* 属種との交雑親和性

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ NPO法人丸山ハイランド監事
- ・ 2009年度熊本市私立幼稚園教職員研修会講師

可能な共同研究	作物の育種(品種改良)および遺伝分析
可能な技術提供	組織培養技術, 遺伝子分析技術
可能な講演題目	植物バイオテック入門, 生活の中のバイオテック, 青いバラの作り方, 植物の名前の不思議

地域の皆様へ

農学部で取り組む研究分野は, そのまま「食」に直結しています。最近はこちらに環境緑化, 園芸療法, フラワーセラピー, アニマルセラピー等, 生活関連の分野も増加し, ますます研究分野が広がりを見せています。熊本唯一の農学部に所属する教員として, 地域に密着した研究, 難しい内容を易しく伝えられる講演等, 直接的, また間接的に貢献できればと思っています。



蓑茂 壽太郎

MINOMO TOSHITARO

所属・職名 熊本県立大学 理事長 教授

生 年 1950年

学 位 農学博士(東京農業大学論博)

専門分野 造園学、都市農村計画、環境計画

連絡先 電話：(096)321-6612(地域連携センター)

e-mail：renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

研究テーマ

- ①アジア・モンスーン型環境計画モデルの開発
- ②地域環境資源のインベントリー手法開発

キーワード：①環境計画 ②景観デザイン ③グリーンツーリズム

主な研究業績(最近5年間)

■ 著書

- ・共著、環境時代の都市再生と緑、清文社、2009/7、「激動！不動産」の第5部 pp.384-412
- ・共著、新次元・環境創造、樹林社、2009/4、第一章エコロジカルデザインの生物多様性とエコロジカルデザインを担当

■ 論文

- ・単著、CSRの価値を高めるランドスケープの知と術、日本造園学会機関誌ランドスケープ研究、2008/11、pp.288-291
- ・単著、三種の緑地と地域の計画、社団法人日本都市計画学会 都市計画271 vol.57、2008/2、pp.54-59

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本学術会議連携会員（～現在）
- ・日本都市計画学会副会長（2010年～現在）
- ・文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員（2008年7月～2009年3月）
- ・日本公園緑地協会理事（2008年6月～現在）
- ・公園緑地管理財団評議員

可能な共同研究	地域連携センターへご相談ください
可能な技術提供	地域連携センターへご相談ください
可能な講演題目	地域連携センターへご相談ください

地域の皆様へ

自然科学的に大変興味ある多様性に富んだ地域で、社会科学的に明治維新の前後を比較をするに大変興味ある地域が熊本だと思います。そうしたことも背景にあって人文科学的にも興味ある考察の対象が地域にちりばめられているように思います。



森友 靖生

MORITOMO YASUO

所属・職名 東海大学 農学部応用動物科学科 教授

生 年 1956年

学 位 博士(農学)

専門分野 動物生体機構学、人と動物の関係学、獣医学

連絡先 電話：(0967)67-3937

e-mail：ymori@agri.u-tokai.ac.jp

研究テーマ

- ①動物の未解明疾患に関する病態解析
- ②動物愛護の実態と啓発

キーワード：①反芻動物 ②病理 ③先天性疾患 ④慢性消耗性疾患 ⑤寄生虫病 ⑥動物愛護 ⑦アニマルレスキュー

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 豚蛭 (Eurytrema pancreaticum)が自然感染しためん羊における膵臓の病理学的所見 東海大農要 29：1-6 2010
- ・ A missense mutation (p.Leu2153His) of the factor VIII gene causes cattle haemophilia A Anim. Genet.40：763-765 2009
- ・ ウシにおける心室中隔欠損を伴わない両大血管右室起始の形態学、動物の循環器41：31-36 2009
- ・ Segmental Hypoplasia of the Spinal Cord in a Japanese Black Calf J.Vet.Med.Sci. 71：337-340 2008
- ・ Clinical and Pathological Aspects of Hemophilia A in Japanese Brown Cattle J.Vet.Med.Sci. 70：293-296 2007
- ・ 子牛に認められた肺動脈閉鎖を伴う大・肺動脈窓の1例 日本獣医師会雑誌 60：275-278 2007

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本県動物愛護管理推進計画策定委員会 委員 (2007年06月～2008年01月)
- ・ 熊本県動物愛護推進協議会 会長 (2009年04月01日～現在)

可能な共同研究	動物の疾病罹患臓器の病理、動物愛護に関する啓発と調査
可能な技術提供	動物の病態解明のための剖検・病理検査
可能な講演題目	動物の病気と地域社会への影響、ヒトと動物の関係学(伴侶動物と動物愛護)、動物体の構造と機能

地域の皆様へ

動物は色々な病気に苦しんでいます。しかし、原因が不明で治療法が開発されていない疾患も多く存在しています。私達はこのよう病気の原因を解明するための基礎研究を行っています。その成果として、“あかうし”（褐毛和種）の遺伝病を解明し、熊本県の畜産業に大きく貢献することができました。また、動物愛護の観点からイヌやネコなどの伴侶動物とヒトとがよりよい関係を築くための啓発活動にも力を注いでいます。



安田 伸

YASUDA SHIN

所属・職名 東海大学 農学部 バイオサイエンス学科 講師

生 年 1976年

学 位 博士(農学)

専門分野 食品生化学、薬物代謝化学

連絡先 電話：(0967)67-3946

e-mail : shin.yasuda@agri.u-tokai.ac.jp

URL:<http://www2.ktokai-u.ac.jp/~nougaku/Bio/yasuda/home.html>

研究テーマ

- ①食品素材の機能性に関する研究
- ②生理活性物質の機能性と代謝調節に関する研究

キーワード：①食品科学 ②食品生化学 ③機能性食品 ④生活習慣病 ⑤抗酸化 ⑥免疫 ⑦制癌

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Ono, M., Eguchi, K., Konoshita, M., Furusawa, C., Sakamoto, J., Yasuda, S., Ikeda, T., Okawa, M., Kinjo, J., Yoshimitsu, H., Nohara, T. A New diterpenoid glucoside and two new diterpenoids from the fruit of *Vitex agnus-castus*. Chem. Pharm. Bull. In press.
- ・ Yasuda, S., Yasuda, T., Liu, M.-Y., Shetty, S., Idell, S., Boggaram, V., Suiko, M., Sakakibara, Y., Fu, J., Liu, M.-C., Sulfation of chlorotyrosine and nitrotyrosine by human lung endothelial and epithelial cells: Role of the human cytosolic SUTL1A3. Toxicol. Appl. Pharmacol. In press
- ・ Hui, Y., Yasuda, T., Yasuda, S., Liu, M.-Y., Sakakibara, Y., Suiko, M., Wall, K.A., Liu, M.-C. (September, 2010) Inhibitory effects of nitrative stress on the sulfation of 17 β -estradiol and 4-methoxyestradiol by human MCF 10A mammary epithelial cells. Biol. Pharm. Bull. 33, 1633-1637.
- ・ Ono, M., Shiono, Y., Tanaka, T., Masuoka, C., Yasuda, S., Ikeda, T., Okawa, M., Kinjo, J., Yoshimitsu, H., Nohara, T. (Jun, 2010) Three new aromatic glycosides from the ripe fruit of cherry tomato. J. Nat. Med. 64, 500-505.
- ・ Koike, A., Pradhan, R., Murata, T., Yasuda, S., Igoshi, K., Okamoto, C., Kabata, K. (June, 2010) Effect of yakon silage on feed digestibility, blood characteristics and amount of urinary 8-hydroxydeoxyguanosine in ewes. Grassland Sci. 56, 95-100.
- ・ Yasuda, S., Ohkura, N., Suzuki, K., Yamasaki, M., Nishiyama, K., Kobayashi, H., Hoshi, Y., Kadooka, Y., Igoshi, K. (April, 2010) Effects of highly ripened cheeses in HL-60 human leukemia cells: Antiproliferative activity and induction of apoptotic DNA damage. J. Dairy Sci. 93, 1393-1400.

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	抗酸化作用および抗炎症・抗アレルギー作用を有する食品素材・薬草等に関する研究
可能な技術提供	食品素材や薬草などの抗酸化活性、抗炎症・抗アレルギー活性の測定
可能な講演題目	「機能性食品のおはなし」(サイエンス目線で見えた食品とは?) (2010年12月にくまもと県民交流パレアで実施)

地域の皆様へ

バイオサイエンス学科に所属する私どもの食品機能科学研究室は、近年の食生活に伴い増加してきた生活習慣病などの疾患について予防や病態の軽減を目的とした機能性食品の開発を目指しています。『医食同源』および『科学的解析』の視点から科学的エビデンスの重要性に注目しており、試験管、培養細胞などを用いて発酵乳性食品、農産物、ハーブなどの身近な食材の有する機能性の解明を日々行っています。



有馬 英俊

ARIMA HIDETOSHI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部 教授

生 年 1962年

学 位 博士(薬学)

専門分野 製剤学、薬物送達学

連絡先 電話：(096)371-4160

e-mail：arimah@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①シクロデキストリンを基盤分子とする個の医療を指向した統合型DDSの構築
- ②NPCおよびFAPなどの遺伝子疾患治療薬へのシクロデキストリンの有効利用
- ③スイゼンジノリ由来多糖体サクランの薬学的応用に関する研究

キーワード：①シクロデキストリン ②デンドリマー ③リボソーム ④DDS ⑤遺伝子疾患 ⑥サクラン ⑦薬学

主な研究業績(最近5年間)

- ・ In Vitro and In Vivo Gene Delivery Mediated by Lactosylated Dendrimer/ α -Cyclodextrin Conjugates (G2) into Hepatocytes. J. Control. Release, 146(1), 106-117 (2010).
- ・ Potential Use of Iontophoresis for Transdermal Delivery of NF- κ B Decoy Oligonucleotides. Int. J. Pharm., 393(1-2), 127-134 (2010).
- ・ Design and evaluation of polypseudorotaxanes of pegylated insulin with cyclodextrins as sustained release system. Biomaterial, 29, 3866-3871 (2008).
- ・ Evaluation of polyamidoamine dendrimer/ α -cyclodextrin conjugate (generation 3, G3) as a novel carrier for small interfering RNA (siRNA). J. Control. Release, 119(3), 349-359 (2007).
- ・ Enhancement of gene transfer activity mediated by mannosylated dendrimer/ α -cyclodextrin conjugate (generation 3, G3). J. Control. Release, 116(1), 64-74 (2006).

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本県後発医薬品安心使用・啓発に係る協議会副会長
- ・ 日本シクロデキストリン学会幹事
- ・ 日本薬剤学会評議員
- ・ 日本DDS学会評議員
- ・ 遺伝子・デリバリー研究会役員
- ・ 非常勤講師：東海大学、熊本学園大学

可能な共同研究	化合物の可溶性・徐放化・安定化・粉末化・悪臭・苦み等の改善・組織ターゲティング、遺伝子・核酸の細胞導入・徐放化サクランの用途開発研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	可溶性・徐放化・安定化・粉末化・悪臭・苦み等の改善・組織ターゲティング、ナノ・マイクロカプセル化化合物の定量、複合体形成の確認

地域の皆様へ

九州出身で熊本大学を卒業・修了後、製薬企業および東京の私立大学を経て、10年ほど前に熊本大学に戻りし、故郷としての熊本の良さを再実感している。これまでの経験を活かし熊本の地域発展に貢献したい。特に、①熊本発ベンチャーグリーンサイエンス・マテリアル社との共同研究により、スイゼンジノリ由来多糖体サクランの用途開発、②熊本大学および佐賀大学の研究者と共同で、遺伝子病治療薬の開発に注力したい。



安東 由喜雄

ANDO YUKIO

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部病態情報解析学分野 教授

生 年 1953年

学 位 医学博士

専門分野 神経内科、検査医学、生化学、医化学

連絡先 電話：(096)373-5686

e-mail：andoy709@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

①アミロイドーシスの診断・病態解析・治療 ②遺伝性疾患の診断・病態解析・治療 ③自律神経疾患の診断・病態解析・治療
④がんの診断・病態解析・治療 ⑤血漿タンパク質の代謝動態の研究
キーワード：①アミロイドーシス ②アミロイド ③がん ④トランスサイレチン ⑤診断 ⑥治療 ⑦アルツハイマー病

主な研究業績(最近5年間)

- Goto T, Yamashita T, Ueda M, Ohshima S, YOneyama K, Nakamura M, Nanjo H, Asonuma K, Inomata Y, Watanabe S, Uchino M, Tanaka K, and Ando Y
Iatrogenic amyloid neuropathy in a Japanese patient after sequential liver transplantation
Am J Transplant, 6:2512-2515, 2006
- Ueda M, Misumi Y, Mizuguchi M, Nakamura M, Yamashita T, Sekijima Y, Ota K, Shinriki S, Jono H, Ikeda SI, Suhr OB, and Ando Y.
SELDI-TOF mass spectrometry evaluation of variant transthyretins for diagnosis and pathogenesis of familial amyloidotic polyneuropathy.
Clin Chem. 55:1223-1227, 2009.
- Shinriki S, Jono H, Ota K, Ueda M, Kudo M, Ota T, Oike Y, Endo M, Ibusuki M, Hiraki A, Nakayama H, Yoshitake Y, Shinohara M, and Ando Y.
Humanized anti-interleukin-6 receptor antibody suppresses tumor angiogenesis and in vivo growth of human oral squamous cell carcinoma.
Clin Cancer Res 15:5426-34, 2009
- Misumi Y, Ando Y, Ueda M, Obayashi K, Jono H, Su Y, Yamashita T, and Uchino M.
Chain reaction of amyloid fibril formation with induction of basement membrane in familial amyloidotic polyneuropathy.
J Pathol. 219:481-90, 2009
- Kawaji T, Ando Y, Hara R, and Tanihara H.
Novel Therapy for Transthyretin-related Ocular Amyloidosis A Pilot Study of Retinal Laser Photocoagulation.
Ophthalmology. 17:552-5, 2010

主な社会活動等(最近5年間)

- ・2007年、熊本大学公開セミナーとして遺伝性疾患の診断と治療を開講した。
- ・2008年—2010年、映画に描かれた疾患を考えると題し、熊本大学公開セミナーを行うと共に、地域での講演活動を行ってきた。
- ・家族性アミロイドポリニューロパチーの患者会(道しるべの会)に対し、毎年、定期的に講演活動を行ってきた。
- ・地域のコメディカルに対し、検査医学の講演活動を行ってきた。
- ・地域の企業(同仁化学研究所、化血研)と共同研究を行い、アミロイドーシスの診断試薬や抗体治療の開発を行ってきた。

可能な共同研究	1. アルツハイマー病を含むアミロイドーシス全般の診断・病態解析・治療に関する研究 2. 遺伝性疾患の診断・病態解析・治療に関する研究 3. がんの診断・病態解析・治療に関する研究 4. 各種疾患の迅速診断に関する研究 5. 自律神経疾患の診断・病態解析・治療に関する研究
可能な技術提供	1. プロテインチップによるプロテオミクス技術 2. 各種遺伝子解析技術の提供 3. 蛋白質解析技術 4. 各種自律神経検査 5. 臨床検査技術を用いた血清成分の迅速解析技術
可能な講演題目	1. アミロイドーシスの診断と治療の最前線 2. 家族性アミロイドポリニューロパチーの診断と治療の最前線 3. がんの迅速診断法の開発と病態解析 4. 映画に描かれた疾患を考える 5. 臨床検査の最前線 6. NSTの重要性

地域の皆様へ

我々は、アミロイドーシスの一型である、熊本に世界的な患者フォーカスをもつ、家族性アミロイドポリニューロパチーの研究を行い、国内のみならず、海外との共同研究を展開してきました。またがんや遺伝性疾患の迅速診断法の開発を目差し、研究をしてみいりましたので、この両面において大いに地域の拠点として機能できるものと確信しております。



井手 淳二

IDE JUNJI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部 准教授

生 年 1958年

学 位 博士 (医学) (熊本大学)

専門分野 整形外科

連絡先 電話：(096)373-5226

e-mail：ide@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

①肩腱板修復治癒促進 ②肩腱板再生 ③MX人工股関節の長期成績

キーワード：①肩関節外科 ②股関節外科 ③スポーツ医学 ④再生医療 ⑤頸肩腕症候群 ⑥関節鏡視下手術 ⑦人工関節

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Ide J, Tokiyoshi A, Hirose J, Mizuta H. Arthroscopic repair of traumatic combined rotator cuff tears involving the subscapularis tendon. J Bone Joint Surg Am, 89:2378-2388, 2007.
- ・ Ide J, Tokiyoshi A, Hirose J, Mizuta H. An anatomical study of the subscapularis insertion to the humerus: The subscapularis footprint. Arthroscopy, 24:749-753, 2008.
- ・ Ide J, Kikukawa K, Hirose J, Iyama K, Sakamoto H, Mizuta H. Reconstruction of large rotator cuff tears with acellular dermal matrix graft in rats. J Shoulder Elbow Surg, 18:288-295, 2009.
- ・ Ide J, Kikukawa K, Hirose J, Iyama K, Sakamoto H, Mizuta H. The effects of fibroblast growth factor-2 on rotator cuff reconstruction with acellular dermal matrix grafts. Arthroscopy, 25:608-616, 2009.
- ・ Ide J, Kikukawa K, Hirose J, Iyama K, Sakamoto H, Fujimoto T, Mizuta H. The effect of a local application of fibroblast growth factor-2 on tendon-to-bone remodeling in rats with acute injury and repair of the supraspinatus tendon. J Shoulder Elbow Surg, 18:391-398, 2009.
- ・ Hirose J, Ide J, Yakushiji T, Abe Y, Nishida, K, Maeda S, Anraku Y, Usuku K, Mizuta H. Prediction of postoperative ambulatory status 1 year after hip fracture surgery. Arch Phys Med Rehabil 91:67-72, 2010

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本地方裁判所専門委員
- ・ 熊本地方裁判所民事調停委員
- ・ Journal of Shoulder and Elbow Surgery編集委員
- ・ Journal of Orthopaedic Science, editorial board
- ・ NHK教育番組出演 (名医にQ：肩痛、あさイチ：肩こり)
- ・ 第11回国際肩肘関節外科学会優秀ポスター賞(2010)：成長因子を用いた肩腱板再建・再生促進に関する実験的研究

可能な共同研究 腱骨結合部の修復と再生、肩関節疾患の鏡視下治療、人工股関節

可能な技術提供 肩関節疾患の鏡視下治療、実験的肩腱板修復・再建

可能な講演題目 肩のスポーツ傷害、肩腱板断裂、五十肩、肩こり、胸郭出口症候群

地域の皆様へ

- 1) 熊本大学医学部附属病院整形外科におきまして、平成22年より、肩腱板断裂に対する成長因子を用いた修復治癒促進に関する臨床治験を行っております。肩腱板断裂でお困りの方はご相談いただければ幸いです。
- 2) 肩こりを姿勢改善と運動療法により解消することに関して啓蒙に努めております。
- 3) 肩腱板骨結合部の修復と再生に関する実験的研究は熊本大学工学部との共同研究を行っております。



岩井 真弓

IWAI MAYUMI

所属・職名 熊本保健科学大学 保健科学部 看護学科 教授

生 年 1955年

学 位 看護学修士（宮崎県立看護大学）

専門分野 看護学、精神保健看護領域

連絡先 電話：(096) 275-2256

e-mail：miwai@kumamoto-hsu.ac.jp

研究テーマ

- ①精神看護実習における効果的な実習指導に関する研究
- ②精神看護実践における対応困難事例に関する研究
- ③うつ病患者の自殺予防に関する研究

キーワード：①精神科リハビリテーション ②精神看護実践研究 ③看護カンファレンス ④看護学教育

主な研究業績(最近5年間)

- ・精神科病棟における嚥下機能改善－辛味成分の効能に着目した食前ケアの効果－日本看護学会論文集（2009）
- ・病的多飲水患者の水中毒予防に関する研究－紙芝居を用いた集団療法の効果－日本看護学会論文集（2009）
- ・根拠が分かる精神看護技術『第七章 精神障害者の退院促進と生活支援技術』メヂカルフレンド社（2008）
- ・病的多飲水患者の水中毒予防に関する研究－紙芝居を用いた集団療法の効果－日本看護学会論文集（2008）

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本精神科看護技術協会熊本県支部研究学会 講師
- ・日本看護協会熊本県支部 講師
- ・熊本県精神科リハビリテーション研究会 委員

可能な共同研究	・精神科医療施設の退院指導に関する研究 ・こころの病を持ちながら地域で生活するための研究
可能な技術提供	・精神科リハビリテーションの看護 ・地域で生活する人々のこころの健康に関する知識・支援
可能な講演題目	・精神症状が強く苦しんでいる方に医療者がどう対応したらよいか ・こころの病をコントロールしながら地域で生活すること

地域の皆様へ

日本の精神医療機関に長期に入院する方は少しずつ減少していますが、再入院やうつ病、認知症の方の外来利用が増加してきました。我々は日々の生活の中で心身の健康を保つための何らかの方法を会得しています。そこで、こころの健康法・こころが不安定になったときの対処法・お薬との付き合い方・社会資源の活用方法など、皆さんとともに知恵を出し合って、自分やご家族がより健やかな生活を送るための方法を考えて参りましょう。



岩槻 政晃

IWATSUKI MASA AKI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部消化器外科学 助教

生 年 1976年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-52111

e-mail：maiwa217@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①消化器癌転移メカニズムの解明
- ②消化器癌における微量癌細胞研究
- ③抗癌剤耐性メカニズムの解明

キーワード：①微量癌細胞 ②microRNA ③抗癌剤耐性

主な研究業績(最近5年間)

- 1.Iwatsuki M, Mimori K, Ishii H, Yokobori T, Takatsuno Y, Sato T, Onoyama I, Nakayama K.I, Baba H, Mori M Loss of FBXW7, a Cell Cycle Regulating Gene, in Colorectal Cancer: Clinical Significance Int J Cancer. 126(8):1828-37, 2010
- 2.Iwatsuki M, Fukagawa T, Mimori K, Nakanishi H, Ito S, Ishii H, Yokobori T, Sasako M, Baba H, Mori M Bone Marrow and Peripheral Blood Expression of ID1 in Human Gastric Carcinoma Patients Is a Bona Fide Indicator of Lymph Node and Peritoneal Metastasis Br J Cancer. 100(12):1937-42, 2009
- 3.Iwatsuki M, Mimori K, Fukagawa T, Ishii H, Yokobori T, Sasako M, Baba H, Mori M The clinical significance of vimentin-expressing gastric cancer cells in bone marrow Ann Surg Oncol. 17(9):2526-33, 2010
- 4.Iwatsuki M, Mimori K, Ishii H, Yokobori T, Beppu T, Nakamori S, Baba H, Mori M The Epithelial-mesenchymal transition in cancer development and its clinical significance Cancer Sci. 101(2):293-9, 2010
- 5.Iwatsuki M, Mimori K, Sato T, Toh H, Yokobori T, Tanaka F, Ishikawa K, Baba H, Mori M Overexpression of SUGT1 in Human Colorectal Cancer and its clinicopathological significance Int J Oncol. 36(3):569-75, 2010
- 6.Iwatsuki M, Ozawa H, Mimori K, Sato T, Johansson F, Toh H, Watanabe M, Mori M FANCD2 mRNA Over-expression is a Bona-fide Indicator of Lymph Node Metastasis in Human Colorectal Cancer Ann Surg Oncol. 17(9):2341-8, 2010

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	消化器癌臨床サンプル(切除検体、血清など)を用いた研究
可能な技術提供	
可能な講演題目	消化器癌における最新治療、癌転移研究の最前線

地域の皆様へ

熊本大学消化器外科で消化管癌の外科診療を担当しております。昨今、外科治療を含めた様々な癌治療がめざましい発展を遂げています。しかしながら、我が国では2人に1人が癌にかかり、3人に1人は癌で亡くなります。癌の再発、転移のメカニズム解明こそが、癌根絶の全てと考えます。外科医という立場から微量癌細胞研究という視点で癌の転移・再発のメカニズムの解明に取り組んでいます。熊本から一つでも多くの新たなエビデンスを発信し、患者様のQOLと予後の向上に貢献できるよう尽力したいと思います。



宇佐美 しおり

USAMI SHIORI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部 教授

生 年 1964年

学 位 博士(看護学)(聖路加看護大学)

専門分野 精神看護学

連絡先 電話：(090)8752-8248

e-mail：susami@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①精神障害者、身体疾患で適応障害をもつ患者、自殺未遂患者への支援に関する研究
- ②高度看護実践家の役割開発に関する研究
- ③精神障害者への退院促進のための精神科ケースマネジメントに関する研究

キーワード：①精神看護学 ②障害者リハビリテーション ③精神科ケースマネジメント ④専門看護師(CNS)
⑤自殺未遂・自殺者

主な研究業績(最近5年間)

- ・松本 光子・小笠原 和枝・久米 弥寿子 編(2006年)、「看護理論 理論と実践のリンケージ」ヌーベル・ヒロカワ
- ・上泉 和子編(2006年)、「看護ユニットマネジメント」医学書院
- ・小田 正枝編(2008年)「事例でわかる看護理論を看護課程に生かす本」照林社
- ・筒井 真由美 編(2008年)「看護理論」南江堂
- ・宇佐美 しおり・岡谷 恵子 編(2008年)「長期入院患者および予備群への退院支援と精神看護」医歯薬出版株式会社出版
- ・宇佐美しおり, 野末聖香(2009): 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法, 日本看護協会出版会
- ・宇佐美しおり, 佐伯重子, 矢野千里, 樺島啓吉(2010): 精神障害者へのAssertive Community Treatment(ACT)の評価に関する研究—ケースマネジメントにおける精神看護専門看護師の役割, 熊本大学医学部保健学科紀要, 第6号, p85-98
- ・宇佐美しおり, 矢野千里, 川田美和, 中山洋子, 野末聖香, 岡谷恵子, 樺島啓吉, 倉知延章, 伊藤弘人(2009), 病状が不安定な精神障害者の自立支援における退院支援ケア・パッケージを含む集中型包括型ケア・マネジメントモデルの開発, インターナショナル・ナーシングレビュー, 32巻, 1号, 88-95頁

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本専門看護師協議会事務局長
- ・熊本県精神医療審査会委員
- ・日本看護研究学会理事
- ・日本精神保健看護学会理事
- ・日本看護科学学会将来構想委員会
- ・国際看護協会高度看護実践家研究支援体制検討委員会委員

可能な共同研究	精神障害者や身体疾患をもって不安や抑うつをもつ患者、自殺未遂者への支援
可能な技術提供	障害者へのケア方法
可能な講演題目	上記

地域の皆様へ

コンソーシアムを作ることは非常に重要なことだと思います。各領域の垣根を越えて、学問と実務が融合されていくことが重要だと思います。



大塚 雅巳

OTSUKA MASAMI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部(薬学系) 教授

生 年 1953年

学 位 薬学博士

専門分野 医薬品化学

連絡先 電話：(096)371-4620

e-mail：motsuka@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①細胞内シグナル伝達を標的とした人工化合物の設計と合成
- ②分子標的にもとづいた制癌剤の設計と合成
- ③DNAを標的とした人工化合物の設計と合成 ④ 脳内で作用する生物機能分子の分子設計

キーワード：①細胞内シグナル伝達 ②制癌剤 ③DNA切断 ④脳腫瘍 ⑤脳保護

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Kensaku Anraku, Ryota Fukuda, Nobutoki Takamune, Shogo Misumi, Yoshinari Okamoto, Masami Otsuka, Mikako Fujita Highly Sensitive Analysis of the Interaction between HIV-1 Gag and Phosphoinositide Derivatives Based on Surface Plasmon Resonance Biochemistry, 49 (25), 5109–5116 5109, 2010.
- ・ Shin Ando, Yoshinari Okamoto, Kazuo Umezawa, Masami Otsuka Synthesis of the indole core structure of conophylline J. Heterocyclic Chem., 45, 1803-1808, 2008.
- ・ Kensaku Anraku, Teruhiko Inoue, Kenji Sugimoto, Takashi Morii, Yasuo Mori, Yoshinari Okamoto, Masami Otsuka Design and synthesis of biotinylated inositol phosphates relevant to the biotin–avidin techniques Org. Biomol. Chem., 6, 1822-1830, 2008

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 医薬品医療機器総合機構専門委員
- ・ 日本薬学会理事
- ・ 日本がん分子標的治療学会評議員
- ・ 特定非営利活動法人東アジアヘルスプロモーションネットワークセンター理事

可能な共同研究	医薬品創製研究
可能な技術提供	有機合成化学
可能な講演題目	Made in 熊本の新薬をつくろう

地域の皆様へ

熊本の研究者で力を合わせて新しい薬を作りたいと思います。



桑原 一彦

KUWAHARA KAZUHIKO

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部 准教授

生 年 1965年

学 位 博士(医学)(佐賀医科大学)

専門分野 免疫学、病態生化学

連絡先 電話：(096)373-5135

e-mail : kazukuwa@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①高親和性抗体産生機構の研究
- ②転写と共役した遺伝子傷害の研究
- ③遺伝子改変マウスを用いた腫瘍発症機構の研究
- ④高親和性抗体作成技術の抗体医薬への応用

キーワード：①B細胞 ②高親和性抗体 ③抗体医薬 ④遺伝子改変マウス

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Nakaya, T.#, Kuwahara, K.#, Ohta, K., Kitabatake, M., Toda, T., Takeda, N., Tani, T., Kondo, E. & Sakaguchi, N. (#equal contribution): Critical role of Pcid2 in B cell survival through the regulation of MAD2 expression. *J. Immunol.* 185(9):5180-5187 (2010)
- ・ Okamoto, N., Kuwahara, K., Ohta, K., Kitabatake, M., Takagi, K., Mizuta, H., Kondo, E. & Sakaguchi, N.: Germinal center-associated nuclear protein (GANP) is involved in mRNA export of Shugoshin-1 required for centromere cohesion and in sister-chromatid exchange. *Genes Cells* 15(5):471-484 (2010)
- ・ Ohta, K., Kuwahara, K., Zhang, Z., Makino, K., Komohara, Y., Nakamura, H., Kuratsu, J. & Sakaguchi, N.: Decreased expression of germinal center-associated nuclear protein is involved in chromosomal instability in malignant gliomas. *Cancer Sci.* 100(11):2069-2076 (2009)
- ・ Chan-on, W., Kuwahara, K., Kobayashi, N., Ohta, K., Shimasaki, T., Banchob, S., Leelayuwat, C. & Sakaguchi, N.: GANP, involved in immunoglobulin V-region diversification, is co-expressed with AID in cholangiocarcinomas associated with long-term inflammation caused by liver fluke infestation. *Int. J. Oncol.* 35(2):287-295 (2009)
- ・ Igarashi, H., Kuwahara, K., Yoshida, M., Xing, Y., Maeda, K., Nakajima, K. & Sakaguchi, N.: GANP suppresses the arginine methyltransferase PRMT5 regulating IL-4-mediated STAT6-signaling to IgE production in B cells. *Mol. Immunol.* 46(6):1031-1041 (2009)
- ・ Yoshida, M., Kuwahara, K., Shimasaki, T., Nakagata, N., Matsuoka, M. & Sakaguchi, N.: GANP suppresses DNA recombination measured by direct-repeat β -galactosidase gene-construct but not the immunoglobulin-gene-type recombination in mammalian cells. *Genes Cells* 12(10):1205-1213 (2007)

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	臨床応用を目指した抗体医薬の開発
可能な技術提供	高親和性抗体作成技術
可能な講演題目	高親和性抗体作成技術の臨床医学への応用

地域の皆様へ

熊本大学発のオリジナルの基礎研究から得られた成果を臨床医学へ応用することが最終的なゴールです。私たちの開発した高親和性抗体作成技術を用いて様々な共同研究を展開し、癌、感染症の診断や治療に資するモノクローナル抗体作成を目指しています。



生野 繁子

SHINO SHIGEKO

所属・職名 九州看護福祉大学 看護福祉学部 教授

生 年 1956年

学 位 アドミニストレーション博士(熊本県立大学)

専門分野 老年看護学

連絡先 電話：(0968)75-1848

e-mail：shigeko@kyushu-ns.ac.jp

研究テーマ

- ①老年看護学
- ②高齢者虐待防止
- ③介護保険サービス
- ④ケアとジェンダー

キーワード：①高齢者虐待防止 ②高齢者の尊厳 ③認知症ケア ④高齢者ケア
⑤男性看護師 ⑥男女共同参画 ⑦介護保険施設サービス

主な研究業績(最近5年間)

- ・生野繁子編(2011年)、「基本から学ぶ看護・介護のための高齢者ケア第3版」金芳堂
- ・生野繁子・吉岡久美(2010年)、「介護保険施設の看護師の配置に関する現状と問題点」看護系学会社会保険連合研究助成報告書
- ・生野繁子・吉岡久美(2010年)、「認知症高齢者グループホームの看護職務状況とケア内容調査」日本看護学会論文集
- ・岡崎美智子他編の共著(2009年)、「根拠が解る在宅介護技術」メジカルフレンド社

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県国民保険連合会介護保険苦情処理委員会委員
- ・熊本県高齢者権利擁護推進会議委員
- ・熊本県介護保険審査会委員
- ・玉名市男女共同参画審議会委員
- ・荒尾市男女共同参画審議会委員
- ・菊池市男女共同参画審議会委員

可能な共同研究	高齢者ケア施設のケアのあり方、高齢者虐待防止、男性看護師の進出について
可能な技術提供	高齢者ケアの基本技術、在宅介護者への指導
可能な講演題目	高齢者ケア施設のケアのあり方、高齢者虐待防止、男性看護師の進出、男女共同参画

地域の皆様へ

九州看護福祉大学が玉名に開学して13年。建学理念の「地域とともに成長する大学」を具現化しようと活動しています。人口減少社会の中で、一人暮らしの高齢者や支援が必要な方のニーズに応えられる看護職を育てたいと思います。また、大学院では幅広い年代の保健医療福祉関係の方が学んでおられ、私も刺激を受けながら学生や院生と老年看護のあり方を模索しているところです。



高森 啓史

TAKAMORI HIROSHI

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部消化器外科学 講師

生 年 1960年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：h-takamori@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①安全性向上を目指した膵癌手術の確立
- ②生存成績向上を目指した膵癌集学的治療の確立
- ③膵癌肝転移機序の解析
- ④膵癌肝転移診断能向上に向けた取り組み
- ⑤膵癌の発癌機序の解明

キーワード：①膵癌 ②外科手術 ③肝転移 ④画像診断 ⑤発癌 ⑥集学的治療 ⑦癌局所環境

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Takamori H, et al. Perioperative Intra-Arterial and Systemic Chemotherapy for Pancreatic Cancer.: Ann Surg Oncol 2010.
- ・ Ikuta Y, Takamori H, et al. Detection of liver metastases secondary to pancreatic cancer: utility of combined helical computed tomography during arterial portography with biphasic computed tomography-assisted hepatic arteriography.: J Gastroenterol 2010.
- ・ Nakahara O, Takamori H, et al. Clinical significance of dihydropyrimidine dehydrogenase and thymidylate synthase expression in patients with pancreatic cancer.: Int J Clin Oncol 2010.
- ・ Takamori H, et al. Long-term Outcomes of Extended Radical Resection Combined with Intraoperative Radiation Therapy for Pancreatic Adenocarcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2008
- ・ Takamori H, et al. Identification of prognostic factors associated with early mortality after surgical resection for pancreatic cancer-Under-analysis of cumulative survival curve. World J Surg 2006.
- ・ Takamori H, et al. 5-Fluorouracil intra-arterial infusion combined with systemic gemcitabine for unresectable pancreatic cancer Pancreas 2005.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 熊本がん治療フォーラム幹事
- ・ 熊本県がん診療連絡協議会 がん登録部会員

可能な共同研究	膵癌早期発見の取り組み 膵癌悪性形質獲得機序の解明 膵発癌機序の解明 膵癌肝転移の分子イメージング
可能な技術提供	膵癌組織・生体試料を用いた分子生物学的解析
可能な講演題目	膵癌治療の現況 膵癌治療成績向上に向けた取り組み

地域の皆様へ

医療や研究を発展させることは、地域を活性化する起爆剤となり得る。さらに、その発展は、地域の活性化にとどまらず、人類への貢献となる。



田中 洋

TANAKA HIROSHI

所属・職名 熊本大学 医学部附属病院 消化器外科 特任助教

生 年 1968年

学 位

専門分野 消化器外科

連絡先 電話：(096)373—5211

e-mail：hirotanaka-kmm@umin.ac.jp

研究テーマ

- ①膵癌
- ②胆道疾患

主な研究業績(最近5年間)

- ・ 田中 洋「胆道癌の化学療法」外科治療.臨時増刊号.第98巻：190～194,2008
- ・ 田中 洋「Gemcitabine Hydrochloride投与中に発症した肝性脳症を伴う急性肝障害の一例」

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	膵癌に対する集学的治療
可能な技術提供	腹腔鏡補助下膵切除、単孔式胆嚢摘出術
可能な講演題目	膵頭十二指腸切除術に対する合併症対策、腹腔鏡補助下膵切除

地域の皆様へ

膵疾患・胆道疾患に対する外科的治療は、過大な侵襲を伴うことが多く、術前後の緻密な管理を必要とする場合が多い。このため、低侵襲で根治性を損なわない外科治療を目標として、熊本において全国トップレベルの治療成績を目指して日々研鑽を積んでいます。



近本 亮

CHIKAMOTO AKIRA

所属・職名 熊本大学 消化器外科学 助教

生 年 1969年

学 位

専門分野 消化器外科、肝胆膵外科

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：achikamoto@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①消化器癌治療成績向上のための集学的治療
- ②肝胆膵領域癌の治療成績向上
- ③安全な肝胆膵外科手術法の開発
- ④若手外科医の育成

キーワード： ①消化器外科 ②肝臓癌 ③胆道癌 ④膵癌 ⑤手術療法

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Chikamoto A, et al. Cancer cells spread through lymph vessels in the submucosal layer of the common bile duct in gallbladder carcinoma. : J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2009
- ・ Chikamoto A, et al. Amount of operative blood loss affects the long-term outcome after liver resection for hepatocellular carcinoma.; Hepatogastroenterol 2011.
- ・ Chikamoto A, et al. The diagnostic efficacy of FDG-PET in the local recurrence of hilar bile duct cancer. : J Hepatobiliary Pancreat Surg. 2006

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 市民公開講座 胆道癌治療の最先端 2011年(講演)

可能な共同研究	肝胆膵外科領域癌の集学的治療
可能な技術提供	消化器外科手術(肝胆膵領域)
可能な講演題目	肝胆膵領域癌全般

地域の皆様へ

熊本県民の皆様の健康のため、世界標準の外科治療を提供すべく、日々努力しています。消化器疾患(肝胆膵領域)でお困りの際は、遠慮なくご相談ください。宜しくお願いします。



徳永 淳也

TOKUNAGA JUNYA

所属・職名 九州看護福祉大学 看護福祉学部 教授

生 年 1967年

学 位 医学博士(九州大学)、保健学修士(東京大学)

専門分野 医療管理学、公衆衛生学、口腔保健学

連絡先 電話：(0968)75-1881

e-mail：jt-edu@kyushu-ns.ac.jp

研究テーマ

- ①ユーモア志向組織文化とストレスマネジメント効果、組織パフォーマンスの関連
- ②介護サービスにおける質改善と組織的ストレスマネジメント
- ③多職種間における精神的健康度関連アウトカムに与える影響要因の総合的分析
- ④社会福祉関連職種におけるバーンアウト抑制要因と組織要因の分析

キーワード：①ストレスマネジメント ②精神的健康 ③質改善 ④組織文化 ⑤顧客満足

主な研究業績(最近5年間)

- ・ユーモア感覚と精神的健康の多軸的関連 ～企業社員と介護支援専門員の比較～ 民族衛生 第75巻 付録 p146、2009.
- ・精神科病棟における看護師のバーンアウトとその関連要因 ～病棟種別を中心とした分析～ 民族衛生 第75巻 付録 p152、2009.
- ・精神科治療領域におけるインフォームドコンセントに関わる熟練看護師の実践的知識、日本保健福祉学会誌 第16巻2号、p1、2010.

主な社会活動等(最近5年間)

- ・有明広域行政事務組合 介護認定審査会 認定委員(平成14年～)
- ・平成19年度 玉名市情報化推進計画策定審議会委員
- ・平成19年度 熊本県介護支援専門員協会 有明支部 研修会講師

可能な共同研究	医療保健福祉サービスにおける職業性ストレス、質改善、パフォーマンス、アウトカム評価
可能な技術提供	質的・量的データの統計学的分析、評価
可能な講演題目	サービスの質改善活動、職業性ストレス、組織的ストレスマネジメント、組織文化の関連

地域の皆様へ

医療保健福祉サービスはもとより一般企業活動においても、質の高いサービスの安定的かつ効率的生産は重要なテーマです。そのためには、生産に携わる労働者のパフォーマンスを最大化することが求められ、どのような要因がそれらを可能とするかについて、職業性ストレスや組織文化ならびに顧客満足等のアウトカム評価の視点から研究しています。



馬場 秀夫

BABA HIDEO

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部消化器外科学 教授

生 年 1958年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：hdobaba@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①消化器癌の発育・進展に関する遺伝子の解明
- ②消化器癌に対する化学療法・放射線療法の感受性規定因子の解明
- ③消化器癌幹細胞の同定と治療への応用
- ④消化器癌の進展に関するmicroRNAの同定
- ⑤新しい低侵襲手術の開発

キーワード：①消化器癌 ②癌幹細胞 ③microRNA ④治療感受性 ⑤侵襲 ⑥再生医療 ⑦分子標的治療

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Motomura Y, Senju S, Nakatsura T, Matsuyoshi H, Hirata S, Mouji M, Komori H, Fukuma D, Baba H, Nishimura Y: Embryonic Stem Cell-Derived Dendritic Cells Expressing Glypican-3, a Recently Identified Oncofetal Antigen, Induce Protective Immunity against Highly Metastatic Mouse Melanoma, B16-F10. *Cancer Res* 66: 2414-22, 2006
- ・ Hashimoto D, Ohmuraya M, Hirota M, Yamamoto A, Suyama K, Araki K, Baba H, Mizushima N, Yamamura K: Involvement of autophagy in cerulein-induced pancreatitis through trypsinogen activation. *J Cell Biol* 181: 1065-72, 2008
- ・ Hiyoshi Y, Kamohara H, Karashima R, Sato N, Imamura Y, Nagai Y, Yoshida N, Toyama E, Hayashi N, Watanabe M, Baba H: MicroRNA-21 regulates proliferation and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. *Clin Cancer Res* 15: 1915-22, 2009
- ・ Imamura Y, Ishikawa S, Sato N, Karashima R, Hiyoshi Y, Nagai Y, Koga Y, Hayashi N, Watanabe M, Yamada G, Baba H: Adenoviral oncolytic suicide gene therapy for a peritoneal dissemination model of gastric cancer in mice. *Ann Surg Oncol* 17: 643-652, 2010

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本胃癌学会 理事
- ・ 日本消化器癌発生学会 理事
- ・ 日本ハイパーサーミア学会 理事
- ・ 日本気管食道科学会 理事
- ・ がん集学的治療研究財団 理事

可能な共同研究	研究テーマならびにキーワードに関する研究
可能な技術提供	研究テーマならびにキーワードに関する技術提供
可能な講演題目	研究テーマならびにキーワードに関する講演題目

地域の皆様へ

熊本県内の高等教育機関の連携により、お互いの学術的成果をより高いものにする努力が重要と考えています。



林 尚子

HAYASHI NAOKO

所属・職名 熊本大学 医学部附属病院 消化器外科 講師

生 年 1965年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：nhayashi@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①大腸癌の集学的治療
- ②血中遊離癌細胞中の癌幹細胞の同定と機能解析
- ③播種性骨髄癌症の病態解明と治療薬の開発

キーワード：①消化器癌 ②大腸癌 ③集学的治療 ④分子生物学 ⑤遊離癌細胞 ⑥浸潤・転移 ⑦癌幹細胞

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Imamura Y, Hayashi N, et al : Extensive lymphatic spread of cancer cells in patients with thoracic esophageal squamous cell carcinoma: detection of CEA-mRNA in the three-field lymph nodes. J Surg Oncol 2010
- ・ Beppu T, Hayashi N, et al : FOLFOX enables high resectability and excellent prognosis for initially unresectable colorectal liver metastases. Anticancer Res 2010
- ・ Sawayama H, Hayashi N, et al : Treatment results of FOLFOX chemotherapy before surgery for lymph node metastasis of advanced colorectal cancer with synchronous liver metastasis: the status of LN metastasis and vessel invasions at the primary site in patients who responded to FOLFOX. Int J Clin Oncol 2010
- ・ Hiyoshi Y, Hayashi N, et al : MicroRNA-21 regulates the proliferation and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. Clin Cancer Res 15 2009
- ・ Hayashi N, Baba H, et al : Rapid Genotyping of Tumor Necrosis Factor Alpha with Fluorogenic Hybridization Probes on the LightCyclerTM. Clin Exp Med 2008
- ・ Iinuma H, Hayashi N, et al : Usefulness and clinical significance of quantitative real-time RT-PCR to detect isolated tumor cells in the peripheral blood and tumor drainage blood of patients with colorectal cancer. Int J Oncol 2006

主な社会活動等(最近5年間)

- ・平成21年度 第2回 がん診療連携拠点病院機能強化事業講演会 講演
- ・平成20年度 天草医師会セミナー 講演

可能な共同研究	消化器癌の転移・浸潤機構、癌幹細胞の同定と解析
可能な技術提供	遊離癌細胞の検出をはじめとする分子生物学的解析
可能な講演題目	消化器癌特に大腸癌の診断・治療

地域の皆様へ

医学研究を通じ、地域社会と密接に人的・物的交流を行うことにより、地域の活性化に貢献したい。



別府 透

BEPPU TORU

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部消化器外科学 准教授

生 年 1959年

学 位 医学博士(熊本大学)

専門分野 消化器外科学、肝臓外科

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：tbeppu@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①肝癌（肝細胞癌、大腸癌肝転移）の集学的治療
- ②肝癌の腹腔鏡手術
- ③肝癌治療と機能的肝再生
- ④肝内胆管癌と肝星細胞の関連
- ⑤脾機能亢進症の適正治療

キーワード：①肝癌 ②腹腔鏡手術 ③肝再生 ④機能的肝再生 ⑤肝星細胞

主な研究業績(最近5年間)

- 1.Beppu T., et al.: A new approach to percutaneous transhepatic portal embolization using ethanolamine oleate iopamidol. J Gastroenterol 45: 211-217, 2010
- 2.Beppu T., et al.: FOLFOX enable resectability and excellent prognosis for initially unresectable colorectal liver metastases. Anticancer Res 30: 1015-1020, 2010
- 3.Beppu T., et al.: Liver Hanging Maneuver Decrease Blood Loss and operative time in a Right-Side Hepatectomy. Hepatogastroenterology (in press)
- 4.Beppu T., et al.: Thermal ablation therapy for colorectal liver metastases. Thermal Med 24: 83-89, 2008
- 5.Beppu T., et al.: Endoscopic Local Ablation Therapy (ELAT) for Hepatocellular Carcinoma. Thermal Med 23: 63-70, 2007
- 6.Hayashi H., Beppu T., et al.: Risk factors of complications after partial splenic embolization for liver cirrhosis. Br J Surg 95: 744-50, 2008

主な社会活動等(最近5年間)

- ・熊本県がん診療連携研究会世話人
- ・熊本県がん診療連携協議会幹事

可能な共同研究	機能的肝再生、肝癌と肝星細胞
可能な技術提供	肝癌に対するinterventional radiology
可能な講演題目	肝癌(肝細胞癌、大腸癌肝転移)の集学的治療、肝癌の腹腔鏡手術、肝癌治療と機能的肝再生、肝内胆管癌と肝星細胞の関連、脾機能亢進症の適正治療

地域の皆様へ

熊本は肝癌の濃厚発生地帯であり、すでに2,000例を越える私の肝癌患者の治療経験は、必ず地域住民に貢献できると考えます。患者が最高の医療を県内どこでも受けられる環境づくりのために、情報技術やネットワークシステムの応用 や遠隔手術の導入を行います。



堀野 敬

HORINO KEI

所属・職名 熊本大学 医学部附属病院 消化器外科 助教

生 年 1964年

学 位 博士(医学)(熊本大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-5211

e-mail：khorino@kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①肝胆膵領域手術と外科手術部位感染症(SSI)
- ②膵頭十二指腸切除術へのクリニカルパスの適用

キーワード：①外科手術部位感染症（SSI） ②膵頭十二指腸切除術 ③クリニカルパス

主な研究業績(最近5年間)

- ・ Horino K, Beppu T, Komori H, Masuda T, Hayashi H, Okabe H, Takamori H and Baba H. Evaluation of the mass forming intrahepatic cholangiocarcinoma with viral hepatitis. Hepatogastroenterology (In press)
- ・ Horino K, Beppu T, Komori H, Imseung C, Masuda T, Hayashi H, Okabe H, Otao R, Hayashi N, Ishiko T, Takamori H, Baba H. Progress in endoscopic ablation for hepatocellular carcinoma. J Microwave Surg 27 : 49-54, 2009
- ・ K. Horino, M. Kimura, Y. Shimokawa, T. Nishimura, H. Harada, H. Matsushita, T. Hirata and K. Kawata : A case report of small bowel ileus possibly caused by Gnathostoma doloresi. Trop Med Health 35(4) : 351-353, 2007
- ・ Horino K, Takamori H, Tanaka H, Masuda T, Nakahara O, Furuhashi S, Abe S, Chikamoto A, Ishiko T, Beppu T, Baba H : Preoperative biliary drainage increases the incidence of surgical site infection after pancreaticoduodenectomy. 20th world Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists Cairo 2010
- ・ Kei Horino, Hiroshi Takamori, Hiroshi Tanaka, Shinichi Akaboshi, Osamu Nakahara, Satoshi Furuhashi, Satoshi Ida, Shinya Abe and Hideo Baba : Is single drain enough for the pancreatic anastomosis after the pancreaticoduodenectomy? Joint Meeting of 14th International Association of Pancreatology and 41th Japan Pancreas Society Fukuoka 2010
- ・ Kei Horino, Toru Beppu, Hiroyuki Komori, Choi Imseung, Toshiro Masuda, Hiromitsu Hayashi, Hirohisa Okabe, Kazutoshi Okabe, Naoko Hayashi, Hiroshi Takamori, Hideo Baba : Progress of Endoscopic Surgery for Hepatocellular Carcinoma. 27th Annual Meeting of Study Group of Microwave Surgery Yokohama 2008

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ ボーイスカウト熊本県連盟主催 救急法講習会 講師（毎年1回夏期開催）
- ・ 研究成果等普及啓発事業（一般向け研究発表会）「消化器癌治療の最前線」事務局主幹
- ・ 厚労科研推進事業研究成果等普及啓発事業研究発表「大腸癌治療の最前線」事務局主幹

可能な共同研究	肝胆膵領域関連施設共同研究、各種薬剤臨床試験
可能な技術提供	細胞培養、蛋白質分離精製
可能な講演題目	肝胆膵領域疾患各論および総論、外科一般各論および総論

地域の皆様へ

地元菊池市の出身です。高校から熊本市内に出てきましたが母方の祖父が地元旭志村で開業しておりました縁もあり医学の道を志しました。大学院時代の研究から一貫して、特に肝胆膵領域の消化器癌をテーマに研鑽を積んでいます。一外科医として、基礎研究に裏付けられた確実な医学知識と技術を身につけ地域医療に還元し人材を育成することが目標です。



三隅 将吾

MISUMI SHOGO

所属・職名 熊本大学 大学院生命科学研究部 准教授

生 年 1971年

学 位 博士(薬学)

専門分野 生化学、ウイルス学

連絡先 電話：(096)371-4363

e-mail：misumi@gpo.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①粘膜ワクチン開発
- ②HIV粒子プロテオーム解析

キーワード：①粘膜免疫 ②HIV ③AIDS ④プロテオーム解析 ⑤翻訳時・後修飾 ⑥粘膜ワクチン ⑦M細胞

主な研究業績(最近5年間)

- Misumi S, Inoue M, Dochi T, Kishimoto N, Hasegawa N, Takamune N, Shoji S. Uncoating of human immunodeficiency virus type 1 requires prolyl isomerase Pin1. *J. Biol. Chem.* (2010) 285:25185-95.
- Misumi S, Masuyama M, Takamune N, Nakayama D, Mitsumata R, Matsumoto H, Urata N, Takahashi Y, Muneoka A, Sukamoto T, Fukuzaki K, Shoji S. Targeted delivery of immunogen to primate m cells with tetragalloyl lysine dendrimer. *J. Immunol.* (2009) 182:6061-70.
- Misumi S, Eto A, Mitsumata R, Yamada M, Takamune N, Shoji S. Development of cell-expressed and virion-incorporated CCR5-targeted vaccine. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* (2008) 377:617-2.
- Takahashi Y, Misumi S, Muneoka A, Masuyama M, Tokado H, Fukuzaki K, Takamune N, Shoji S. Nonhuman primate intestinal villous M-like cells: an effective poliovirus entry site. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* (2008) 368:501-7.
- Misumi S, Takamune N, Shoji S. Immunoreactive cycloimmunogen design based on conformational epitopes derived from human immunodeficiency virus type 1 coreceptors: cyclic dodecapeptides mimic undecapeptidyl arches of extracellular loop-2 in chemokine receptor and inhibit human immunodeficiency virus type 1 infection. *Endocr. Metab. Immune. Disord. Drug. Targets.* (2007) 7(2):141-52.
- Misumi S, Nakayama D, Kusaba M, Iiboshi T, Mukai R, Tachibana K, Nakasone T, Umeda M, Shibata H, Endo M, Takamune N, Shoji S. Effects of immunization with CCR5-based cycloimmunogen on simian/HIVSF162P3 challenge. *J. Immunol.* (2006) 176:463-71.

主な社会活動等(最近5年間)

可能な共同研究	粘膜免疫賦活化に関する研究、プロテオーム解析、M細胞研究、抗HIV活性測定
可能な技術提供	M細胞抗原デリバリー分子、プロテオーム解析、粘膜免疫、ワクチン開発
可能な講演題目	粘膜免疫学、HIVの複製に関連する宿主因子

地域の皆様へ

HIVをはじめ多くの粘膜経由の感染症に対する最適な防御は、初発感染部位である粘膜面と全身系で免疫応答を誘導することであり、我々はM細胞への効率の良いワクチン抗原デリバリーを目的とした分子をすでに開発しています。また、天然素材を用いた粘膜免疫賦活化因子の探索にも積極的に取り組んでいるので、粘膜免疫に興味をお持ちの方々と連携を図りたいと考えています。



横溝 和美

YOKOMIZO KAZUMI

所属・職名 崇城大学 薬学部 教授

生 年 1963年

学 位 博士(薬学)(熊本大学)

専門分野 微生物学, 未病薬学

連絡先 電話: (096)326-4091

e-mail: yoko0514@ph.sojo-u.ac.jp

研究テーマ

- ①伝統医薬品(漢方薬)、ヘルスサプリメントの薬理学的研究
- ②細胞活性化食品の開発
- ③ウイルス性疾患に対する予防薬および治療薬の開発

キーワード: ①健康食品 ②未病 ③感染防御 ④抗ウイルス薬 ⑤分子シャペロン

主な研究業績(最近5年間)

- ・ HSP70 inducers from Chinese herbs and their effect on melanin production. *Exp Dermatol.* 19:340-2. (2010)
- ・ Glycyrrhizin attenuates mucus production by inhibition of MUC5AC mRNA expression in vivo and in vitro. *J Pharmacol Sci.* 113:76-83 (2010).
- ・ Synthesis and antiviral activities of N-mono- and/or N,N'-di-carbamoyl and acyl derivatives of symmetrical diamines. *Chem Pharm Bull.* 56:1052-8 (2010).
- ・ アガリクス培養物の老化マウス自発的搔破行動抑制作用と抗酸化作用について. *日本未病システム学会雑誌*, 15: 292-5 (2009).
- ・ 伝統医薬学教育・研究に求められるもの-グローバル保健医療の視点から-. *日本未病システム学会雑誌*, 14, 1-5 (2008).
- ・ 伝統医薬品と健康補助食品の薬理. *未病と抗老化*, 16, 36-41 (2007).

主な社会活動等(最近5年間)

- ・ 日本未病システム学会薬剤部会委員
- ・ 産学連携人材育成事業・講師

可能な共同研究	健康食品の成分分析および効能解析
可能な技術提供	有効成分の分析・分離法
可能な講演題目	未病と健康食品, 近かな微生物, 感染予防と薬

地域の皆様へ

医療ケア・ニーズが変容しつつある中で伝統医薬品(漢方薬)やヘルスサプリメントの利用が急増しています。しかし、その効能は客観性に乏しい面があるため、根拠に基づいた医療「薬効・安全性情報」を提供することが必要です。老化に伴う免疫力低下は感染症増加の一因となっています。未病の概念をもとに身体の免疫力を上げ、常に健康を維持できる伝統医薬品(漢方薬)やヘルスサプリメントを提供していきます。



渡邊 雅之

WATANABE MASAYUKI

所属・職名 熊本大学 医学部附属病院 講師

生 年 1965年

学 位 医学博士(九州大学)

専門分野 消化器外科学

連絡先 電話：(096)373-5212

e-mail：masanabe@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

研究テーマ

- ①食道癌に対する集学的治療
- ②食道癌手術の侵襲軽減に関する研究
- ③食道癌の発生および進展に関する研究
- ④ 食道癌のリンパ節転移の機序解明
- ④食道DNAメチル化異常の意義に関する研究

キーワード：①食道癌 ②集学的治療 ③発癌 ④転移

主な研究業績(最近5年間)

- 1.Hiyoshi, Y., Hayashi, N., Imamura, Y., Nagai, Y., Baba, Y., Yoshida, N., Toyama, E., Watanabe M. and Baba, H. The relationship between glucose transporter type 1 expression and FDG uptake in esophageal squamous cell carcinoma. *Oncology* 76: 286-292, 2009.
- 2.Hiyoshi, Y., Kamohara, H., Karashima, R., Sato, N., Imamura, Y., Nagai, Y., Yoshida, N., Toyama, E., Hayashi, N., Watanabe M. and Baba, H. MicroRNA-21 regulates proliferation and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. *Clin.Cancer Res.* 15:1915-22, 2009.
- 3.Watanabe M., Yoshida, N., Karashima, R., Sato, N., Hirashima, K., Imamura, Y., Hiyoshi, Y., Nagai, Y., Iwagami, S., Toyama, E., Hayashi, N. and Baba, H. Transcervical superior lymph node dissection combined with transhiatal lower esophageal dissection prior to transthoracic esophagectomy-A safe approach for salvage esophagectomy. *J.Am. Coll.Surg.* 208:e7-e9, 2009.
- 4.Imamura, Y., Ishikawa, S., Sato, N., Karashima, R., Hiyoshi, Y., Nagai, Y., Koga, Y., Hayashi, N., Watanabe M., Yamada, G. and Baba, H. Adenoviral oncolytic suicide gene therapy for a peritoneal dissemination model of gastric cancer in mice. *Ann Surg Oncol* 17:643-652, 2010
- 5.Hirashima, K., Baba, Y., Watanabe M., Karashima, R., Sato, N., Imamura, Y., Hiyoshi, Y., Nagai, Y., Hayashi, N., Iyama, K. and Baba, H. Phosphorylated mTOR expression is associated with poor prognosis for patients with esophageal squamous cell carcinoma. *Ann Surg Oncol* 17:2486-2493, 2010.
- 6.Watanabe M., Nagai, Y., Kinoshita, K., Saito, S., Kurashige, J., Karashima, R., Kaashima, K., Sato, N., Imamura, Y., Hiyoshi, Y., Baba, Y., Iwagami, S., Miyamoto, Y., Iwatsuki, M., Hayashi, N. and Baba, H. Induction chemotherapy with docetaxel/ cisplatin/5-fluorouracil for patients with node-positive esophageal cancer. *Digestion* (in press)

主な社会活動等(最近5年間)

- ・日本食道学会評議員
- ・日本消化器癌発生学会評議員
- ・日本ハイパーサーミア学会評議員

可能な共同研究	がんの発生と進展に関する研究
可能な技術提供	microRNAの解析、DNAメチル化異常の解析
可能な講演題目	最先端の消化器癌治療、食道癌の集学的治療

地域の皆様へ

私たちは消化器癌、とくに難治性癌のひとつである食道癌の臨床と研究を行っています。臨床面では地域の先生方のご協力のもと、日本でも有数の症例数を有し、新たな集学的治療戦略の開発に挑んでいます。また研究面では治療成績の向上につながる、発癌と進展機構の解明、悪性度の評価および新たな治療法の基礎研究に積極的にも取り組んでいます。



熊本県高等教育機関 ～地域連携～ 研究者一覧

平成23年3月

編集・発行／

高等教育コンソーシアム熊本

〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1(熊本大学構内)

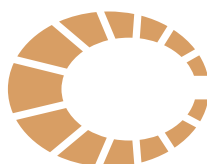
TEL 096-342-3924 FAX 096-342-3925

e-mail: conso-office@jimukumamoto-u.ac.jp

<http://www.consortium-kumamoto.jp/>

印刷／株式会社かもめ印刷

熊本で学ぼう
学園都市くまもと



CONSORTIUM
KUMAMOTO

<http://www.consortium-kumamoto.jp/>